

静岡県立美術館年報

令和元年度

2019

静岡県立美術館年報 令和元年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2019

静岡県立美術館年報

令和元年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2019

目 次

使命・重点目標・評価指標	4
令和元年度 美術館の評価活動	5
【基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。	
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。	
展覧会活動 展覧会一覧	7
観覧者数一覧	8
(企画展)	
屏風爛漫－ひらく、ひろがる、つつみこむ	9
古代アンデス文明展	10
熊谷守一 いのちを見つめて	12
古代への情熱－18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い	14
やなぎみわ展 神話機械	16
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。	
(調査研究活動)	
紀要の発行	18
研究活動	19
研究会	20
各種資料整理	24
博物館実習	25
【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。	
収蔵品展	26
移動美術展	27
新収蔵品	28
収集品点数一覧	33
図書資料の収集・整理	35
館蔵品の貸し出し	36
美術作品の補修	40
保存活動	41
【基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。	
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します。	
(一般向け)	
ギャラリーツアー	43
実技・鑑賞講座	45
(子ども向け)	
実技・体験	47
学校連携普及事業(美術館教室)	49
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します。	
講演会	55
美術講座	56
対外活動	58
【重点目標3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
美術館ボランティア・広報サポーター	60
友の会活動	62
めぐりアート	67
【基本方針C】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。	
【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
広報活動(ホームページを含む)	69
美術館ニュース「アマリリス」	70
【重点目標2】観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます。	
新たな広報チャンネルの開拓	72
【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
ロダン館展示・イベント(ロダンウィーク)	73
【基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます。	
【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます。	
施設利用状況(年度別)	75
県民ギャラリー利用状況	76
【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます。	
来館者のアクセス満足度	77
■付帯資料	
令和元年度主要記事	78
(展覧会 出品目録)	
屏風爛漫－ひらく、ひろがる、つつみこむ	80
古代アンデス文明展	81
熊谷守一 いのちを見つめて	86
古代への情熱－18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い	91
やなぎみわ展 神話機械	98
収蔵品展	100
移動美術展	104
(管理運営)	
関連法規	105
組織・名簿	114
歳入・歳出決算	115
建築・設備概要	116
利用案内	122
奥付	

自己評価システムの体系

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。
そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1	展覧会の来館者数
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	3	作品やテーマに興味を持った人の割合
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	4	展覧会における新規来館者の割合
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	5	展覧会に対する外部評価【定性】
		3	地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	6	調査研究の発表回数
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	7	内部セミナー・研究会・研修の回数
		2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	8	他の美術館や大学と連携した取組件数
		3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	9	調査研究に関する外部評価【定性】
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	10	収蔵品展の観覧者数
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11	収蔵品の公開件数
				12	作品購入件数・価格
				13	作品寄贈件数・価格
				14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
				15	学校教育と連携した取組数
				16	鑑賞系プログラム数
				17	コレクションを活用したプログラム数
				18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
				19	講演会等の開催件数
				20	学芸員のフロアレクチャー等の数
				21	地域住民等と連携した取組数
				22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				23	地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
				24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				25	ホームページのアクセス件数
				26	ホームページの満足度
				27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
				28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
				29	ロダン館の入館者数
				30	美術館利用者数
				31	鑑賞環境に対する満足度
				32	レストラン・カフェに対する満足度
				33	ミュージアムショップに対する満足度
				34	来館者のアクセス満足度

令和元年度 美術館の評価活動

■総括

A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【成果】

- 「作品やテーマに興味を持った人の割合」、「収蔵品展の観覧者数」は、目標を若干下回ったものの、おおむね目標を達成することができた。また「収蔵品の公開件数」は、目標を達成することができた。
- 「屏風爛漫展」、「古代への情熱展」など、学芸員の研究とコレクションを活用した自主企画展の来館者満足度は高く、研究活動評価委員会からの定性評価も良好であることから、今後もこれらの成果を十分に活かしていくことが大切である。
- 「古代アンデス文明展」のようなアンデス文明全体の歴史を学ぶことのできるスケールの大きな展覧会や「やなぎみわ展」のような美術、演劇、工学の分野を超えた新たな表現を紹介する展覧会を開催し、これまでにない来館者層を獲得する企画にも挑戦することができた。
- 学芸員の研究にもとづいた作品の購入・寄贈によって、コレクションが充実した。

【課題】

- 「展覧会の来館者数」は、目標値を達成することができなかった。3か年(平成29年度～31年度)の目標値の通算においても、目標値に到達することができなかった。今後の課題としては、広報戦略、予算の戦略的獲得と配分が重要である。
- 「展覧会における新規来館者の割合」は、目標を達成できなかった。この主な要因としては、「やなぎみわ展」における観覧者数が目標を大きく下回ったことと、新規来館者の誘客のためのさらなる広報展開の予算及び体制不足である。
- 「展覧会の来館者数」など様々な目標を達成することができなかったことについて、新型コロナウイルス感染拡大による影響が、どの程度であったかを検証することが課題である。
- 学芸員の研究活動に基づいたコレクション形成、自主企画展、教育普及活動を行うことが、美術館活動の根幹である。

B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術活動と普及活動を展開します

【成果】

- 「鑑賞系プログラム数」及び「コレクションを活用したプログラム数」は、目標を達成することができた。学校との連携を図りながら、児童・生徒の発達に応じた授業を実施することができたことは成果である。
- 「講演会等の開催件数」は、目標を達成することができた。企画展にあわせて館長美術講座や作家によるトークやワークショップの開催など多様な形式の講座を実施し、幅広い利用者の来館を促すことができた。
- 「地域住民等と連携した取組数」は、目標を達成できた。昨年度に引き続き、「つながるくさなぎ」や「一般社団法人草薙カルテッド」に参加し、「まちづくりビジョン」の策定に取り組んだ。
- 「館内空間を生かした催事・参加者数」では、件数は目標に及ばなかったが、参加者数は目標を大きく上回る成果を得た。

【課題】

- 「学校教育と連携した取組み数」は、目標を達成できなかった。学校の多忙化による鑑賞系プログラムの参加を断念することが原因と考えられる。
- 「学芸員のフロアレクチャー」は、目標に到達でき

なかったが、数値は、平成30年度(71回)を上回っており、利用者のニーズに応えることができた。今後も、利用者のニーズに応えるために、様々な形式の講座を開催していくことが必要である。

- 今後も、中長期的な視点に立ち、草薙地域を中心とした「まちづくりビジョン」の策定に積極的に参加していくことが課題である。
- 「ロダン・ウィーク」の参加者を美術館へ誘導するための仕組みが必要である。

C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【成果】

- 「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合は、目標を達成することができた。「ホームページのアクセス件数」は、昨年度に比べて、10%上昇している。
- 「観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数」は、目標を達成できた。「ロダン・ウィーク」の継続実施や草薙地区との連携が着実に成果を得た。

【課題】

- 「ホームページの満足度」は、昨年度(70%)に比べて低下し、目標を下回った。主なコレクション紹介ページが古い様式から更新されていないことや台風等の災害による臨時休館の告知など、急な出来事に対応した更新が容易にできないことが満足度低下の一因と考えられる。
- 「ロダン館の入場者数」は、目標を大きく下回った。「ロダン・ウィーク」への来場者を企画展やロダン館に誘客する仕組みが課題である。

D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

【成果】

- 収蔵庫のキャビネットの増設やプロムナード等の屋外照明をLED照明に更新する工事を実施し、環境整備・改善を図ることができた。
- 「ミュージアムショップに対する満足度」は、昨年度(95.2%)よりも若干低下したが、目標値を大きく超えることができた。

【課題】

- 「美術館利用者数」は、昨年度に続き、目標を達成できなかった。今後も、引き続き、「県民に愛される美術館」を目指して、館員が総力を挙げて、様々な工夫をしていく必要がある。
- 「レストランに対する満足度」は、昨年度(71.1%)よりも、さらに低下し、目標値を大きく下回った。レストラン・カフェについては、新たな委託業者に営業を委託しているが、利用者ニーズの把握に努め、美術館のレストランとして質の向上を図ることが課題である。
- 「来館者アクセス満足度」は、いずれも目標を達成することができなかった。駐車場のキャパシティの問題や公共交通機関本数の確保等、今後も改善を図ることがガバナンスの課題である。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏(北海道大学大学院教授)の助言のもと、ベンチマークス(評価指標)の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県

庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■令和元年度の活動

本年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

（１）ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。それによって、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-監視-改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。令和元年度は、以下の活動を行った。

1 アンケート調査結果の集計と分析

- A. 展覧会観覧者アンケート（3本）
- B. 付帯施設（レストラン、ミュージアム・ショップ）
- C. 美術館ホームページによるアンケート

（２）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

坂本 満【西洋絵画・日本洋画】／お茶の水女子大学名誉教授、金沢美術工芸大学客員教授

潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立大学名誉教授
山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所副所長

榎原 悟【日本画】／岡崎市美術館長・おかざき世界子ども美術館館長

金原 宏行【教育普及・日本画】／豊橋市美術館名誉館長

■開催記録

令和元年8月19日（月）

- ・平成30年度 研究活動評価について
- ・令和元年度 研究活動評価について
- ・今後の研究活動についての意見交換
- ・「熊谷守一 いのちを見つめて」展視察及び評価・提言

平成31年4月16日（火）、4月24日（水）

- ・「屏風爛漫」展視察及び評価・提言

令和元年10月29日（火）

- ・「古代への情熱」展視察及び評価・提言

令和2年1月8日（水）、2月4日（火）

- ・「やなぎみわ展」視察及び評価・提言

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- （1）美術館が行う展覧会事業及び普及事業。
- （2）学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物。
- （3）その他美術及び教育普及に関する専門的事項。

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1）展覧会

- 1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館藏品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
- 2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
- 3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
- 4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
- 5. その他…特に評価に値する事柄。

2）展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

- 1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
- 2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
- 3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
- 4. その他…特に評価に値する事柄。

3）研究紀要／館藏品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

- 1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
- 2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
- 3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
- 4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
- 5. その他…特に評価に値する事柄。

4）教育・普及プログラム

- 1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
- 2. その他…特に評価に値する事柄。

展覧会活動 展覧会一覧

	企 画 展						収蔵品展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4/2（火）～5/6（月・振休） 屏風爛漫 ひらく、ひろがる、つつみこむ						4/2（火）～5/6（月・振休） 新収蔵品展
5 MAY	5/18（土）～7/15（月・祝） 古代アンデス文明展						5/8（水）～6/9（日） 諸派興隆 18世紀の江戸画壇
6 JUNE							6/11（火）～7/15（月・祝） 対立と融和 19世紀の江戸画壇
7 JULY							
8 AUGUST	8/2（金）～9/23（月・祝） 熊谷守一 いのちを見つめて						8/2（金）～10/6（日） ポップの系譜
9 SEPTEMBER							
10 OCTOBER	10/2（水）～11/17（日） 古代への情熱 18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い						10/8（火）～12/15（日） 中澤弘光と その周辺
11 NOVEMBER	11/24（日）～12/1（日） ふじのくに芸術祭 2019						
12 DECEMBER	12/10（火）～2020/2/24（月・振休） やなぎみわ展 神話機械						12/17（火）～2/24（月・振休） 西洋の風景画
1 JANUARY							
2 FEBRUARY							
3 MARCH							

観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 数							
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	未就学児	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	屏風爛漫	4/2～5/6	32	10,000	6,292	685	1,234	1,305	237	2,463	12,216	122.2
	古代アンデス文明展	5/18～7/15	51	80,000	29,355	1,452	4,074	9,645	1,027	9,921	55,474	69.3
	熊谷守一 いのちを見つめて	8/2～9/23	47	15,000	7,184	714	1,356	3,015	238	3,851	16,358	109.1
	古代への情熱	10/2～11/17	40	15,000	2,568	884	608	618	73	2,451	7,202	48.0
	やなぎみわ展 神話機械	12/10～2/24	64	15,000	2,669	965	(注2) 1,275	384	316	2,423	8,032	53.5
	小 計		234	135,000	48,068	4,700	8,547	14,967	1,891	21,109	99,282	73.5
収蔵品展		4/2～2/24	267	12,000	4,206	(注1) 2,258	—	1,340	—	2,738	10,542	87.9
合 計				147,000	52,274	6,958	8,547	16,307	1,891	23,847	109,824	74.7
ふじのくに芸術祭2019		11/24～12/1	7	10,000	—	—	—	—	—		3,538	35.4
総 合 計				157,000	52,274	6,958	8,547	16,307	1,891	23,847	113,362	72.2
移動美術展	裾野市	11/12～12/1	19	10,000	—	—	—	—	—	—	2,183	21.8

(注1)「未就学児・小・中学生」の観覧者数を含む。

(注2)「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」による観覧者（中学生423人）を含む。

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成16年度	146,706
昭和62年度	174,031	平成17年度	129,768
昭和63年度	214,156	平成18年度	222,608
平成元年度	229,258	平成19年度	184,535
平成2年度	233,904	平成20年度	190,669
平成3年度	190,361	平成21年度	101,792
平成4年度	173,665	平成22年度	264,207
平成5年度	218,921	平成23年度	126,626
平成6年度	410,182	平成24年度	163,533
平成7年度	245,028	平成25年度	139,428
平成8年度	178,701	平成26年度	94,664
平成9年度	127,299	平成27年度	110,310
平成10年度	153,099	平成28年度	146,498
平成11年度	107,977	平成29年度	157,323
平成12年度	146,833	平成30年度	73,452
平成13年度	207,340	令和元年度	113,362
平成14年度	170,390	累計	6,076,467
平成15年度	184,095		

屏風爛漫—ひらく、ひろがる、つつみこむ—

主催：静岡県立美術館

会期：平成31年4月2日（火）～令和元年5月6日
（月・振休）

いずれもA3両面印刷 二つ折り

■出品目録

p. 80 を参照

■概要

収蔵品企画展として、当館所蔵品および寄託品による屏風尽くしの展示を行った。現代の暮らしの中ではほぼなじみのない屏風であるが、元々は間仕切りや風よけとして人々のかたわらで用いられた実用の道具であったことを踏まえ、モノとしての屏風の性質と屏風絵ならではの造形的特色との関連を探り、その魅力を再発見し、味わうことのできる展示を目指した。ジグザグになって自立する、大画面の一双形式が多い、といった屏風の特質に注目しながら展示室一室ごとにテーマを設け、27件を陳列した。

屏風がつくる場1 祝祭の空間

屏風がつくる場2 四季を愛でる

屏風いろいろ

屏風のかたち1 対であること

屏風のかたち2 ジグザグ

屏風のかたち3 大きいこと

これまで公開機会の少なかった近代の屏風なども展示することができ、当館の幅広いコレクションを公開、周知する好機となった。図録は作成していないが、大人のための展覧会案内および子供のための鑑賞シートを作成し、無料配布した。

■関連事業

・館長美術講座

4月21日（日）14：00～15：30／当館講座室

「屏風は絵なのか道具なのか」

講師：木下直之（当館館長）

・美術講座

4月13日（土）14：00～15：00／当館講座室

「屏風日和—展覧会見どころ解説」

講師：石上充代（当館上席学芸員）

・学芸員によるフロアレクチャー

4月7日（日）、4月27日（土）、5月6日（月・振休）

各日14：00～／企画展示室

■印刷物

- ・大人のための展覧会案内
- ・子供のための鑑賞シート



▲チラシ

古代アンデス文明展

主 催：静岡県立美術館・静岡新聞社・静岡放送
特 別 協 賛：清水銀行
後 援：ペルー大使館、ボリビア大使館
協 力：ペルー文化省、ボリビア文化観光省、NTT
ドコモ、クントゥル・ワシ調査団、国立民
族学博物館、東京大学総合研究博物館
企 画 制 作：国立科学博物館、TBSテレビ
会 期：令和元年5月18日(土)～7月15日(月・祝)
夜間開館日：7月6日(土)、7日(日)、13日(土)、
14日(日)は午後7時まで開館

■概要

国立科学博物館を皮切りに全国8会場で開催された巡回展。当館は第7会場であった。

南アメリカ大陸を縦断するアンデス山脈を中心とした地域に、16世紀にスペインによって征服されるまで長きにわたって栄えた、古代アンデス文明の歴史を通覧。ペルー、ボリビアの各機関より借用した約200点の貴重な発掘品を中心に展示し、文明の発生からナスカ、ティワナク、シカン、そして最後のインカまでなど代表的な文化を時系列に紹介した。ナスカの鮮やかな染織品、日本では初めてまとまって紹介されるティワナクの遺物、シカンのきらびやかな黄金製品、最終章「身体から見たアンデス文明」のミイラ3体などが特に注目を集めた。

展示品のみならず、ケースやパネル、モニタなども併せて巡回。展示品の多くは、照明付きの特注アクリルケース内に展示された。パネルは章解説やキャプションだけでなく、コラムや子ども向けなども豊富に用意された。各章には数分のVTRを上映するモニタ、展覧会最後には大型シアターが設置され、更には音声と映像を収録したタブレットタイプの有料ガイドを用意するなど、映像コンテンツが多用されたことも今回の展示の特徴の一つであった。

会期中には、展示を多角的に鑑賞できるよう、下記の通り関連イベントを多数開催した。

■関連事業

・清水銀行Presents 特別講演会「古代アンデス文明 その誕生から滅亡まで」
日時：5月18日(土) 14:00～15:00
会場：当館講堂
講師：篠田謙一氏（国立科学博物館副館長 兼 人類研究部長）

・もふもふ♡アルパカが美術館にやってくる！

アンデス原産の家畜であるアルパカをエントランス前に1日限定で生体展示。更に同日アルパカと並んで撮影できる「ふれあい撮影会」を4回開催した（各回30名限定）。

日時：5月25日(土) 10:00～16:00
ふれあい撮影会 11:00～、13:00～、
14:00～、15:00～

会場：当館エントランス前
動物貸出：株式会社 青空 移動動物園・アクティブ
協力：いいなか！おこし隊

・わくわくアトリエ「アルパカの毛で作るアルパカブローチ」
羊毛フェルトでアルパカのぬいぐるみを制作。制作前に本物のアルパカを見学した。
日時：5月25日(土) 10:00～12:30
会場：当館実技室、エントランス前
講師：大村智子氏（羊毛フェルト作家）

・スライドトーク「アンデスに行ったんです。」
現在のペルーとボリビアの様子を当館学芸員がリポート。
日時：6月8日(土) 14:00～15:00
会場：当館講座室

・館長美術講座「ミュージアムでヒトを展示することについて」
日時：6月9日(日) 14:00～15:30
会場：当館講座室
講師：木下直之（当館館長）

・実技講座「コチニール×藍一絞り染めの麻ストール」
アンデス文明を象徴するコチニールの「赤」と日本伝統の色「藍」を用いて、1枚の麻のストールに絞り染めを施した。
日時：6月9日(日)、6月23日(日)（2回）
各日10:00～16:30
会場：当館実技室
講師：稲垣有里氏（染織家）

・スペシャルコンサート
アンデス発祥の笛、サンポーニャとケーナの日本における第一人者・瀬木貴将氏による演奏会。
日時：6月16日(日) 14:00～
会場：当館講堂

出演：瀬木貴将氏（サンボーニャ&ケーナ）
鈴木孝彦氏（ピアノ）

・学芸員によるフロアレクチャー

日時：6月2日（日）、6月19日（水）、6月22日（土）
14：00～

場所：展示室入口ホール

・レストラン特別メニュー「チキンのイエローペッパー煮込み」

当館レストラン「ロダン・テラス」の協力により、会期中限定で、ペルーの伝統料理「チキンのイエローペッパー煮込み（アヒ・デ・ガジーナ）」を提供。

■図録

仕様：A4判、272頁

編集：島田泉（南イリノイ大学人類学科人類学教授）、

篠田謙一（国立科学博物館副館長、人類研究部部長）

日本語翻訳監修：渡部森哉（南山大学人文学部人類文化学科教授）

執筆：島田泉、篠田謙一、鶴見英成（東京大学総合研究博物館助教）、田井知二（千葉県教育振興財団文化財センター）、渡部森哉ほか

翻訳：武井摩利、渡部森哉、芝田幸一郎（法政大学経済学部准教授）

写真撮影：義井豊

地図作成：ケイリー・シャープ

図版制作：武井由莉

アート・ディレクション：高岡一弥

デザイン：後藤寿方

印刷：凸版印刷

発行：TBSテレビ

■出品目録

pp. 81-85 を参照



▲チラシ

熊谷守一 いのちを見つめて

主催：静岡県立美術館、テレビ静岡

特別協力：柳ヶ瀬画廊

企画協力：アートキッチン

会期：令和元年8月2日（金）～9月23日（月・祝）

■概要

熊谷守一の画業を紹介する展覧会は、当館では初めての開催となる。

熊谷守一は、岐阜県恵那郡付知村（現在の中津川市付知町）に生まれ、東京美術学校を卒業した後、自然の中に身を置き、自らの感じるものを「モリカズ様式」と呼ばれる独自の様式で数多く描いた。

本展では、その画業の全般を紹介しながら、とりわけ熊谷が愛した「花」「猫」「鳥」「虫」などをモチーフとした作品を展示した。初期作品から「モリカズ様式」が確立されてからの作品を展覧し、熊谷守一の造形の特質を探ることができ、多くの皆様に熊谷守一の魅力にふれていただいた。

■関連事業

講演会・講座

・特別講演会

「熊谷守一の不思議 二つを一つに～例えば 日本画と洋画 あるいは 生と死」

日時：8月17日（日） 14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：古川秀昭氏（前岐阜県美術館長、OKBギャラリー おおがき館長）

・館長美術講座

「熊谷守一の絵のはだかとヌード」

日時：9月15日（日） 14：00～15：30

場所：当館講座室

講師：木下直之（当館館長）

・学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）

日時：8月11日（日）、8月18日（日）、8月25日（日）、9月1日（日）、9月8日（日）、9月22日（日） いずれも14：00より30分程度

・わくわくアトリエ

日時：8月4日（日）

場所：当館実技室

講師：福井利佐氏（切り絵作家）

対象：小学生から大人まで

・実技講座

日時：9月7日（土）～9月8日（日）

場所：当館実技室

講師：渡辺有葵氏（画家）

対象：中学生から大人まで

・ちょこっと体験

ぬり絵ワークショップ「熊谷守一になろう」

日時：8月21日（水）～25日（日）10：00～12：00、13：00～15：30

場所：当館エントランス

対象：すべての方

■図録

仕様：21.0×15.0cm 239頁

アートディレクション：高橋歩

デザイン：伊藤力丸

印刷：山田写真製版所

発行：アートキッチン

内容：はじめに 森山秀子

第1章 画家・熊谷守一の誕生

風景を見つめる眼差し-守一の風景画について
守一と裸婦

第2章 「モリカズ様式へ」

守一作品の“そっくりさん”

第3章 いのちを描く

守一の日常-1960年代以降の資料をもとに
へたも絵のうち

第4章 八十歳を超えて

熊谷守一の見つめた光、そして音

守一と青木繁-同時代を生きたふたつの個性

第5章 守一とともにあるもの 日本画・書・素描・
遺品

守一素描にみる交友関係

画家が見つめたもの 市川瑛子

年譜、主要文献、作品リスト

■出品目録

pp. 86-90 を参照

Kumagai Morikazu:
Cherishing All Lives

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art



熊谷守一
いのちを見つめて

2019年8月2日(金)～9月23日(月・祝)

開館時間:午前10時～午後5時30分 *展示室への入館は午後5時まで

休館日:毎週月曜日(祝日、または振替休日にあたる場合は開館し翌日休館)

*ただし8月は日(休館日)、8月12日(火)、8月16日(土)、8月23日(木)は開館、8月17日(水)は休館

観覧料:一般1,200(1,000)円/70歳以上600(500)円/大学生以下無料

* 0円は観覧料および20名以上の団体料金、他開館は8月1日(火)まで開館

* 当日観覧料を半額、観覧料を減額、観覧料を減額した観覧料の返金については、入館料1名は無料

* 収蔵品(絵・写真)も併せて利用いただけます。

主催:静岡県立美術館/テレビ静岡 特設協力:徳ヶ部画廊 企画協力:アートキッチン

▲チラシ

「古代への情熱－18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」

主 催：静岡県立美術館、静岡朝日テレビ
協 力：町田市立国際版画美術館
会 期：令和元年10月2日（水）～11月17日（日）

■概要

本展は、都市ローマと南イタリアに残る古代ローマ帝国の遺産を主題・モチーフとして、古代に寄せる芸術家の情熱から生まれた多様な展開を、16世紀から18世紀にかけてたどった試みである。西欧世界の礎である古代ローマ帝国の芸術文化遺産は、数多の芸術家を魅了し、大いなる創作源となってきた。16世紀頃に始まった古代遺産に関する記述や遺跡の実測調査、そして古物収集は、18世紀になるとポンペイなどの遺跡の発見・発掘によって実証的な考古学研究への道を準備し、芸術分野に大きな刺激を与えた。

当館では過去に、ピラネージやその周辺の作家の作品によるコレクションを元に、「ローマ散策展」（2001年）、「ローマ散策展PartⅡ」（2004年）などの企画展を開催してきた。本展はこれらの実績と系譜を踏まえ、新たに南イタリアも視野に入れた、都市ローマと南イタリアの2部構成により、考古学と芸術との出会いから誕生した油彩画や書籍の挿絵を含む版画等、200点以上の作品を展示した。第1部都市ローマでは、古代へのアプローチを4つのテーマに分類して展示し（景観画、綺想画や装飾デザイン、考証作業に基づく著作など）、また第2部南イタリアでは、まず代表的な考古学的遺跡やその発掘品を描いた作品を紹介し（ポンペイ、ヘルクラネウム、パエストゥム）、次にそれ以外の南イタリアの遺跡に関する風景画や紀行文学等の著作における挿絵などを紹介した。

■関連事業

- ・特別講演会「憧れの古代－18世紀イタリアを中心に」
日時：11月9日（土）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：青柳正規氏（山梨県立美術館長）
- ・館長美術講座「凱旋門の話－ローマ、パリ、ベルリン、ミラノ、江戸、東京、静岡、そして浜松に残る」
日時：11月10日（日）14：00～15：30
場所：当館講座室
講師：木下直之（当館館長）
- ・当館学芸員によるフロアレクチャー
10月6日（日）、14日（月・祝）、20日（日）、27日（日）
各日14：00～15：00／企画展示室

- ・実技講座「イタリアの空の下～風景と遺跡をエッチングで描こう！」
日時：11月9日（土）、10日（日）10：00～16：30
場所：当館実技室、企画展示室
講師：柳本一英氏（銅版画家、当館実技室インストラクター）

■図録

執筆・編集：南美幸、新田建史（静岡県立美術館）
発行：静岡県立美術館
デザイン：榊原幸弘（有限会社サイズ）
印刷・製本：星光社
仕様：A4変形判（W220×H285mm）、200頁
内容：
ごあいさつ
謝辞
論考
新田建史「分水嶺としてのピラネージ」
南美幸「もう一つの古代ローマ－ジャン・バルボー『最も美しい古代ローマのモニュメント』紹介」
カタログ（各章解説、図版、作品・作家解説）

I 都市ローマ

- 1 理想とあこがれのローマ
- 2 考古学的アプローチと芸術
- 3 当代のローマを描く
- 4 古代からはぐくまれた綺想

II 南イタリア

- 1 古代の再発見
 - ①ポンペイ、ヘルクラネウム
 - ②パエストゥム
- 2 南イタリア、その風景と旅行記

巻末資料

関連地図

主要参考文献

作品リスト

■出品目録

pp. 91-97 を参照

A PASSION FOR ANTIQUITY

古代への情熱

18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い

2019
10/2(水) - 11/17(日)

開館時間／午前10時～午後5時30分 ※開館前への入館は午後5時まで
休 館 日／毎週月曜日 ※10月14日(月・祝)、11月4日(月・祝・祭日)は閉館し、翌日休館
観 覧 料／一般 1,200円(1,000円)、70歳以上 600円(500円)、大学生以下無料
※1 1円は館内売店および売場以上の価格です。
※2 当日券は当日のみ、当日券は、当日券の発行枚数に達している方と入館者1名は無料。
※3 当日券は、当日券の発行枚数に達している方と入館者1名は無料。
※4 当日券は、当日券の発行枚数に達している方と入館者1名は無料。

主 催／静岡県立美術館、静岡朝日テレビ
協 力／岡崎市立国際美術館

〒422-8002 静岡県駿河区島崎5-2
ウェブサイト / <http://www.gemina.shizuoka-shizuoka.jp>
電話番号 Tel. 054-263-7111 Fax. 054-263-7112
学芸課 Tel. 054-263-6817

静岡県立美術館

▲チラシ

やなぎみわ展 神話機械

主催：静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、静岡第一テレビ

協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、JAふくしま未来、JAグループ福島

協力：京都造形芸術大学、香川高等専門学校、群馬工業高等専門学校、福島県立福島工業高等学校、京都工芸繊維大学 ROBOCON挑戦プロジェクト、一色事務所、堀内カラー、被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会

企画協力：一般社団法人MIWA YANAGI OFFICE

会期：令和元年12月10日（火）～令和2年2月24日（月・振休）

■概要

本展は、高松市美術館、福島県立美術館が幹事館となり、アーツ前橋、神奈川県民ホールギャラリー、静岡県立美術館を加えた5館で共同開催した。美術ならびに演劇において活躍するやなぎみわの約10年ぶりの個展となった。

展覧会では、アートと機械が融合したマシンがからなる《神話機械》や、老木に実る桃を撮影した「女神と男神が桃の木の下で別れる」といった新作をはじめ、写真を中心とした代表的なシリーズ、近年やなぎが注力している演劇のアーカイブを展示した。やなぎの活動を概観するとともに最新作を披露する場となった。また、会場ごとに展示に変化があり、当館でのみ《砂少女》が出品された。関連事業では、展示室においてマシン作品と俳優による演劇公演を実施し、実験的な表現の鑑賞機会を提供した。

■関連事業

・ライブパフォーマンス『MM』

日時：12月21日（土）、22日（日）19：30開演（18：45受付開始／19：20 開場）

※19：00～プレトーク、公演後アフタートーク（21日のみ）

場所：当館企画展示室、講堂

構成・演出：やなぎみわ氏（美術家）

出演：高山のえみ氏（俳優）

音楽：内橋和久氏（音楽家）

※講師：やなぎみわ氏（美術家 [21日、22日]）、谷川道子氏（東京外国語大学名誉教授 [21日]）、小松原由理（神奈川大学准教授 [21日]）、内橋和久氏（音楽家 [22日]）

・やなぎみわアーティスト・トーク

日時：1月13日（月・祝） 14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：やなぎみわ氏（美術家）

・館長美術講座（対談）「やなぎみわとは誰か？」

日時：1月26日（日） 14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：木下直之（当館館長）、やなぎみわ氏（美術家）

・わくわくアトリエ「機械と朗読」

日時：1月12日（日）10：00～16：00

場所：当館実技室、企画展示室

講師：やなぎみわ氏（美術家）

・学芸員によるフロアレクチャー

日時：12月28日（土）、1月19日（日）、2月9日（日）

各日13：30～14：00

場所：企画展示室

■図録

著者：やなぎみわ

編集：毛利直子（高松市美術館）、辻瑞生（アーツ前橋）、荒木康子（福島県立美術館）、森谷佳永（神奈川県民ホールギャラリー）、植松篤（静岡県立美術館）

執筆：やなぎみわ（美術家）、安藤礼二（多摩美術大学教授）、高山宏（大妻女子大学副学長）、毛利直子（高松市美術館）、辻瑞生（アーツ前橋）、荒木康子（福島県立美術館）、森谷佳永（神奈川県民ホールギャラリー）、植松篤（静岡県立美術館）

翻訳：カレン・サンドネス＋岡口夏織

発行：羽鳥書店

ブックデザイン：木村三晴

印刷・製本：サンエムカラー

仕様：A4判変型、128頁

内容：

はじめに

作品

演劇アーカイブ

作品一覧

《神話機械》メイキング

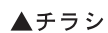
毛利直子「乗り入れの箱」

荒木康子「桃と境界をめぐって」

安藤礼二「折口信夫、中上健次、やなぎみわー「うつほ」の共振」

やなぎみわ主要文献目録

pp. 98-99 を参照



紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要を創刊し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。したがって研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関及び研究者に配布した。

第35号

■判 型 29.7×21.0cm

■頁 数 84ページ

■発行日 令和2年3月31日

■内 容

□カラー口絵 5ページ

□論文

・三谷理華

「未刊行資料：ロバート・リー・マックキャメロン著『ラファエル・コランの芸術』をめぐって」

・野田麻美

「十八～十九世紀の江戸画壇―江戸狩野派と文晁一派をめぐる諸問題」

・植松篤

「白髪一雄の具体初期における作品制作について」



(表紙)

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表等）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌・ニューズレターなどへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説などは除いている。

■三谷理華

- 論文「ラファエル・コラン作《眠り》（一八九二年）をめぐる考察」『デ アルテ』[九州藝術学会誌] 第35号、令和元年6月
- 論文「日本ミュシャ事始め——白馬会周辺から」『みんなのミュシャ』[展覧会図録]、日本テレビ放送網、令和元年7月
- 論文「未刊行資料：ロバート・リー・マックキャメロン著『ラファエル・コランの芸術』をめぐる」『静岡県立美術館紀要』第35号、令和2年3月

■南美幸

- 論文「もうひとつの古代ローマ—ジャン・バルボー『最も美しき古代ローマのモニュメント』紹介」『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』[展覧会図録]、静岡県立美術館、令和元年10月
- 扉・章解説6件、作品解説34件『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』[展覧会図録]、静岡県立美術館、令和元年10月

■新田建史

- 論文「分水嶺としてのピラネージ」『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』[展覧会図録]、静岡県立美術館、令和元年10月
- 作品解説31件『古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い』[展覧会図録]、静岡県立美術館、令和元年10月
- 論文「研究ノート ピラネージ《ローマ及びカンポ・マルツィオの地図》の解説文に見られる制作態度について」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第135号、令和元年10月

■村上敬

- 辞書項目執筆 "Religious and Traditional Ideas of Japan (with Design Focus)," *Encyclopedia of East Asian Design*, Haruhiko Fujita and Christine Guth (ed.), Bloomsbury Visual Arts, 2020.

■川谷承子

- 作家解説「現実の似姿」『めぐりアート静岡 2019』[展覧会図録]、令和元年10月
- アーティストインタビュー立ち合い「狭間」を見つめ

る。』『めぐりアート静岡 2019』[展覧会図録]、令和元年10月

- 「展示報告」『めぐりアート静岡 2019』[展覧会図録]、令和元年10月
- 作家解説『開校100年 きたれ、バウハウス』[展覧会図録]、アートインプレッション、令和元年8月

■泰井良

- 論文「研究ノート 和田英作《松林（下絵）》と岩崎彌之助高輪邸舞踏室」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第136号、令和2年1月

■石上充代

- 論文「研究ノート 明治四十三年の川中島合戦—小林清親《川中島合戦図屏風》再考—」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第133号、令和元年4月

■野田麻美

- 展示会リーフレット『諸派交流：十八世紀の江戸画壇』令和元年5月
- 展示会リーフレット『対立と融和：十九世紀の江戸画壇』令和元年6月
- 論文「狩野栄信筆 春秋山水花鳥図」『國華』第1487号、令和元年9月
- 論文「狩野安信『和漢画摸』（大和文華館）について」『大和文華』第136号、令和元年12月
- 論文「模写と模倣のあいだにあるもの—狩野探幽『臨画帖』について」『狩野派—画壇を制した眼と手』出光美術館、令和2年2月
- 論文「十八～十九世紀の江戸画壇—江戸狩野派と文晁一派をめぐる諸問題」『静岡県立美術館研究紀要』第35号、令和2年3月
- 討議記録「総合討議」『庭園文化の近世的展開』奈良文化財研究所、令和2年3月
- 論文「江戸狩野派における雪舟山水画様式の伝播—狩野探幽『雪舟山水図巻』について」『アジア遊学』第246号、令和2年3月

■植松篤

- 論文「白髪一雄の具体初期における作品制作について」『静岡県立美術館紀要』第35号、令和2年3月

■浦澤倫太郎

- 論文「研究ノート 小杉楹邨と大仙陵古墳—石本秋園《仁徳天皇陵出土甲冑縮図》をめぐる」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第134号、令和元年7月

5月

「後ろ向きの女性像」についての試論

村上 敬

展覧会「めがねと旅する美術展」には「後ろ向きの女性像」をモチーフとしている作品がいくつか出品された。具体的には、山本丘人《海の微風》、門眞妙《ねえ、》（およびほか5点）、中村宏《望遠鏡・富士山》、である。発表者はこれら作品群のもつ視覚的構造や登場人物の役割を検討、比較した。丘人作品にあらわれる「後ろ向きの女性像」は鑑賞者を画中に導入する案内者としての役割を果たし、門眞作品にあらわれるそれは絵画空間に蓋をすることで自身の存在としての強さを強調するキャラクターとして存在し、中村作品の女性像（このみ立体像）はキャラクターとの同化に基づく視覚体験を鑑賞者に要請する人物としてそれぞれ登場していることを示した。さらに、これらのうち、1967年に制作された中村作品は、自らをキャラクターに同化させて享受するゲームやキャラクターの文化を先取る事象だったのではないかと指摘した。

5月

和田英作《松林（下絵）》と岩崎彌之助高輪邸～建築家ジョサイア・コンドルと岩崎彌之助の視点から～

泰井 良

和田英作《松林（下絵）》（当館蔵）は、岩崎彌之助高輪邸壁画室壁画のための最終段階の下絵と考えられる。しかし、本下絵及び壁画が、どのような意図で制作されたかについては、未だ不明な点が多い。

1908（明治41）年に竣工した岩崎彌之助高輪邸（現・三菱開東閣）は、建築家ジョサイア・コンドルによる邸宅建築の最も優れたものとされ、内装のデザインにも工夫が凝らされた。なかでも和田英作が揮毫した二階壁画室の壁画・天井画は話題を呼び、竣工後、「壁画室は、壁面天井共仏国式の油画を描いてあるが、之は彼の有名な和田英作氏の筆で三保の松原を描いてある」と報じられた。残念ながら建物は1945（昭和20）年の戦火で焼失し、和田の壁画・天井画も失われた。

昨年度の発表では、本下絵及び壁画に関する和田英作の資料を紹介し、また和田英作が手掛けた他の壁画制作との関連で本下絵を考察することで、その制作意図を明らかにするとともに、和田英作における装飾美術の意義について検討した。

今回は、その補遺として、建築家ジョサイア・コンドルと施主である岩崎彌之助の視点から、彼らの経歴や仕事、人間関係などを考察することで、本下絵及び岩崎彌

之助高輪邸壁画室の美術史的な意義について言及した。

6月

篠原有司男《次郎長バー》の考察 ～日本におけるポップ的指向との関わりのなかで

川谷承子

当館が所蔵する篠原有司男の《次郎長バー》は、彩色したボール紙を樹脂で固め、廃物とともにダイナミックに構成したレリーフの作品である。作者の分身とも言うべき次郎長が、アメリカン・コミックに登場するワンダーウーマン風の女性と賑やかに歓談しているバーの一角が表現されている。研究会ではまず《次郎長バー》が、篠原の渡米後約15年経過して制作された作品であり、渡米前の1960年代に篠原が日本で実践していた制作態度を根幹にして、アメリカの雑多な風土の中で発展、展開した成果であることを確認した。次に、同作品と1980年代の日比野克彦、柳幸典、村上隆、中原浩大らの作風に通底する、日本におけるポップ的指向についての指摘を行った。最後に、こうした日本のポップ的指向を持つ作品を、現代においてどのように評価、解釈すべきかという課題に対する、富井玲子や池上裕子ら、美術史研究者による最近の研究成果を紹介した。両者の指摘を参考に、従来の欧米の影響下でのそのバリエーションの展開としてとらえるのではなく、アメリカやイギリスのポップアートに対する、日本人アーティストによる「応答」としてとらえ、「応答」の仕方を丹念に読み解くことが重要であることを確認した。1960年代に、この日本におけるポップ的指向が、篠原以外の同時代作家にも見られたという横軸と80年代以降に作家にも連なっているという縦軸、双方からの検証が今後課題として浮かび上がった。

7月

都路華香《松風村雨》——能を描く

石上充代

標題作品（個人蔵）について、造形的特質と能「松風」との関連を手がかりとして制作意図を考察した。本作は、右隻に能装束の松風村雨、左隻に一面の波を描いた六曲一双屏風で、明治38年（1905）第10回新古美術品展覧会に出品されたものである。左隻は、のちに波の画家として知られる華香らしく、粒子の粗い群青と緑青を重ねた斬新な描法で実感豊かに波が描かれるが、右隻とともに眺めれば、能「松風」の物悲しい情緒を宿す須磨の浦となり、月光を映す幻想的な海景は源氏物語をも想起させる文学的な風景に転ずる。右隻では、足元に磯の描写を見せながら、人物描写には演能の舞台の道具立てを用い

ており、二人が能の世界の住人であることが印象付けられる。その結果、この世に恋の未練を残して亡霊となった姉妹の一途さ、それゆえの哀れさ、儚さといった能の情感が呼び起こされる。左右隻それぞれに重層的な読み込みを可能にしつつ、一双として組み合わせることによって能「松風」の情感が立ち表れる構成となっており、象徴的な表現を用いながら、能の情緒そのものの表現を試みた作品であると理解される。

9月

墨江武禪《芙蓉峯細見之図》をめぐって

浦澤倫太郎

江戸時代中期に大坂で活躍した画家である墨江武禪（すみのえ・ぶぜん、1734-1806 [享保19-文化3]）による《芙蓉峯細見之図》（当館蔵）について分析を行った。本作は、富士山全体を俯瞰的に描き、更に山頂、登山道、山麓に点在する名所の説明を、漢字仮名交じり文で詳細に各所に記述する異色の富士山図である。画面右上の自賛には武禪が寛政10年と11年に富士登山を行い、その時の経験をもとに本作を描いたことが記される。

画面各所の記述のうち、数か所についてはこれまで展覧会図録などで言及されてきたが、管見の限り、全文は紹介されていなかった。そこで、今回改めて全文を読むことを試み、内容についても史料・文献との照合や現地調査によって検討を行った。

その結果、これらの記述には登山道およびその周辺の地理や植生、歴史について、正確で詳細な情報が含まれていることが分かった。例えば、登山道や山頂に点在する名所、そして、北口本宮富士浅間神社を「下浅間」と呼称する（現代では「上浅間」と呼称）点、「御山リング（オヤマリング）」（コケモモの方言）が吉田口登山道周辺に自生していると記す点、須山口登山道が一時期途切れたが近年再開通した（実際、宝永山の噴火によってその周辺の道が消滅したが、18世紀末に再興された）と記す点などである。

一方で、本作にみられる素朴な筆法は、現在知られている武禪の作品には類例が見出し難いため、本作をいかに武禪の画業の中に位置づけるのか、他筆の可能性も含め、引き続き慎重に検討していきたい。

10月

ピラネージの版画技法について

新田建史

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ（Giovanni Battista PIRANESI, 1720 - 1778）は、20歳頃にロー

マにやって来て、景観版画の制作を通じて、エッチングの技法に磨きをかけていったと思われる。本研究会では、彼のエッチングに見られるパラレルハッチングと腐食液の使い方を考証することで、これまであまり指摘されることのない、ジョヴァンニ・バッティスタ・ファルダ（Giovanni Battista FALDA, 1643 - 1678）やジュゼッペ・ヴァージ（Giuseppe VASI, 1710 - 1782）等、先達に当たる景観版画作者からの影響を論証した。

11月

未刊行資料：ロバート・リー・マックキャメロン著「ラファエル・コランの芸術」をめぐって

三谷理華

主に20世紀初頭のフランス美術家協会サロンを中心にパリで活躍したアメリカ人画家、ロバート・リー・マックキャメロン（1866-1912）は、フランスのアカデミズムの画家ラファエル・コラン（1850-1916）と近い師弟関係にあった。マックキャメロンは文筆活動にも勤しんでいたが、筆者はこの度、ワシントンDCのスミソニアン協会の一部であるアメリカ美術文書館に、マックキャメロンが没する直前にしたためたとみられる「ラファエル・コランの芸術」と題した英文の手稿1件と英文・仏文によるタイプした草稿それぞれ1件ずつが、未刊行のまま保管されていることを確認した。英文の手稿と草稿には多くの推敲がなされ、第三者が論旨を追うことは必ずしも容易でなかったが、仏文草稿は若干の欠落頁はあるものの内容理解は可能であり、米国人の捉えた同時代のラファエル・コラン論という点で極めて貴重な資料でもあるため、この仏文草稿全文を翻刻、翻訳して紹介するとともに、それをめぐる解説と考察を試みた。

そしてその結果、マックキャメロンの「ラファエル・コランの芸術」は、コランをめぐる同時代の証言としても、アメリカ人の弟子の捉えたコラン論としても、様々な切り口で切り出すことのできる興味深く貴重な著述であり資料であると考えることができた。

12月

狩野探幽「臨画帖」の基礎研究

野田麻美

本発表では、近年考察を進めている、江戸狩野派による古典名画の模本に関する研究のなかで、とりわけ重要な意味を持つ狩野探幽「臨画帖」（個人蔵）について分析した。

まず、探幽「臨画帖」の基本情報を確認し、先行研究と課題を整理するなかで、「臨画帖」は、江戸狩野派によ

る模本制作の最初期の実態を伝える、唯一点の、きわめて貴重な作品であると位置付けた。

次に、「臨画帖」のいくつかの図を取り上げ、江戸狩野派の模本と比較を行った。それによって、探幽は、「臨画帖」において、基本的に原本の図様を忠実に写しており、図様の省略や変更は行っていないこと、各図は原本よりも彩色や墨色が薄いことなどを指摘し、他の江戸狩野派の模本に比べ、「臨画帖」が最も原本の表現に近く、表現を強調することで損なわれがちな原本の美的特質を写し取っている点が特筆されることに言及した。

また、江戸狩野派における探幽以降の模本の展開について述べ、狩野安信、常信、惟信、栄信、養信などの模本には、探幽の模写技術を部分的に継承する側面が見出される一方で、それぞれの画家が模写において異なる点を重視し、彼らの模本が多様に展開したことを指摘した。

最後に、「臨画帖」から直模作品／倣古図への展開に言及し、探幽にとって、模写という行為は、原本の表現を自家様式に取り込むことを可能にし、自らの作品制作、自家様式の模索へと発展する、実験と挑戦の場であったと結論付けた。

1月

白髪一雄の具体初期における作品制作について

植松 篤

関西の前衛美術グループ「具体美術協会」の会員として活動した、白髪一雄（1924-2008）の具体初期における作品群について発表した。白髪は、「具体」参加以前から実験的な作品を発表していたが、「第1回具体展」に出品された金山明（1924-2006）の作品を鑑賞したことを契機に、傾向の異なる複数の作品群を並行して制作することを着想するに至った。

そして白髪は、「具体」参加以前に制作を試みた足で描く絵画から展開した大型のフットペインティングや、「具体」参加後の「真夏の太陽にいどむモダンアート野外実験展」で発表した、斧を振るって木材に痕跡を刻みつけた《赤い丸太》に続く作品の制作のほか、粘膜のような質感に注目したオブジェを新たに手掛けるようになった。それらの作品群は、時に白髪の言う「総合的行為」として一堂に展示された。すなわち白髪は、それぞれ異なった特徴を持ちながら、相補的な関連性をも有している作品群によって、彼が表現の対象として考えていた「資質」を、多角的に表そうとしたのだと言える。

2月

カミーユ・クロードル《自然に基づくクロッキー》

について

南 美幸

彫刻家カミーユ・クロードルによる3点の小品《自然に基づくクロッキー》に関して考察した。これらは、師・恋人であったロダンから公私ともに離れ、ロダンとは異なる自己の芸術の確立を目指した時期に、初め弟ポール・クロードルへの書簡においてデッサンで示され、後に立体へと制作が進んだ。それぞれ異なる彫像でありながら、《自然に基づくクロッキー》という共通のタイトルを持つこれらについて、まず、①日常的な行為の最中の女性、②小型像、③背景と人物像とを一体化させて視点を限定した、絵画的な空間構成、という共通点が見出され、何れもロダンとは逆の方向性を指向する、主題や造形上のカミーユ独自の特徴であることを指摘した。次に、先に記した特質に加えて、展覧会出品時に《自然に基づくクロッキー》とともに付記されたもう一つの作品名や、当時の批評などから伺われる、アンティミズムの（親密な）絵画へのカミーユの意識とその関連の可能性について言及した。

《自然に基づくクロッキー》の中には、カミーユの表明とは異なる裸体像があり、この疑問は今後の課題として引き続き検討の必要があるものの、本発表を元にした研究ノート「カミーユ・クロードル《自然に基づくクロッキー》に関する一考察」を美術館ニュース『アマリリス』137号に掲載した。

3月

平成31年（令和元年）度 実技室実績報告

西島幸代

今年度実技室にて実施した講座について報告。実技室のねらいとして、「制作と鑑賞の能力を互いに高めていく」とあり、展覧会関連として実施した講座を報告。実施後のアンケートより、担当学芸員による解説を実施した講座の参加者の反応は満足度が高いことがわかる。

平成17年度より続いてきた「ドット若冲」について報告。今年度実施で12箇所すべて描きあげた。多数の参加者の意見において、12すべて並べてみたいというものがある。しかし、場所・時間・人材の面で難しい。今後どう活用していくか課題が残っている。

学校連携事業の出張美術講座、鑑賞教材貸出、美術館教室の実施内容、実施数等を報告。美術館の取り組みについて定着しつつあり、実施件数が伸びてきている。今後HPを利用し、アートカードの使用例やレプリカ教材を使用した授業案などダウンロードすることができるようにしていくことで、より連携事業を広げていけること

と思われる。

3月

「富野由悠季の世界」を前に「ロボットと美術」を振り返る

村上 敬

開催準備中の展覧会「富野由悠季の世界」に先立ち、平成22年度に担当した展覧会「ロボットと美術」を振り返った。発表者は、「ロボットと美術」展出品作をまず2つに大別し、現実存在するロボットと空想・創作のロボットとした。その上で前者は人と外界をつなぐ存在として、後者は人間存在について考えるよすがとして、それぞれに一種の媒介性・インターフェイス性を持っていることを指摘した。

富野作品はしばしば「リアルロボットものの嚆矢」とされるように、現実世界と地続きであるSF世界においてロボットがいかに存在しうるのかを熟考したものである。その前提を受け入れた上で、それでもなお作品世界に導入されるある種のエスパーや精神と感応するロボットといった物語モチーフのうちに、1920年のカレル・チャペックから続く「人工のひとがた」への表現者たちの畏怖を富野という作家は引き継いでいるのではないかと指摘した。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

- (1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、美術品写真の専門家による写真撮影を、年度内にまとめて行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順にフォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

- (2) 館蔵品のデジタル画像

毎年、美術品写真の専門家に委託し、新収蔵品を中心に写真撮影を行なっている。撮影はポジフィルムとデジタルを同時に作成または撮影されたデジタル画像は、DVDなどで納品される。課内で共有され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会、特別観覧等に活用されている。

- (3) その他

館蔵品の他、寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、様々な形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループが整理を行なっている。これらは作家ごとに分類・保存され学芸員の研究などに活用されている。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、企画展毎に整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には市販のデー

タベースソフト「桐」を使用している。

- (1) 館蔵品

館蔵品データベースには、題名、材質、伝来など基本情報が入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次作成を進めている。

- (2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索も閲覧室に設置されたPC上で行なうことができる。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行なわれている。

博物館実習

当館は、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。美術館における現場経験の機会を提供するのみならず、社会における美術館の役割を理解し、将来的にさまざまな立場で美術館界を支える一員としての素養を身に付けてもらうことを目指して実施するものである。本年度は8月12日から16日までの5日間実施し、4大学6名の実習生を受け入れた。実習受入の要件は、例年通り以下の3件とした。

- (1) 県内出身もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作、アートマネジメント等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けられること。

カリキュラムは、講義、見学、実習、演習からなり、それぞれ当館の学芸課および総務課職員が担当した。

本年度の全体テーマは「社会における美術館の役割」として、美術館を取り巻く状況が大きく変化するなか、現在の、そしてこれからの美術館が担うべき社会的役割について考えてもらうことを目指した。テーマに沿って、事前レポートの提出と発表、事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着を図った。

実習ノートおよび事後レポートから、当館での博物館実習を通して、各学生が美術館活動について理解を進め、その役割について様々な考察の機会を得たことをうかがうことができ、博物館実習の意義が確認できた。

■カリキュラム

- 1 時限目 10:30～11:25
- 2 時限目 11:30～12:25
- 3 時限目 13:30～14:25
- 4 時限目 14:30～15:25
- 5 時限目 15:30～16:25
- 6 時限目 16:30～17:25

8月12日（月・振）

- 1、2 時限 オリエンテーション
【演習】課題発表（石上）
- 3、4 時限 【見学】施設見学、自由観覧（石上）
- 5 時限 【講義】収蔵品展「ポップの系譜」の工夫とコレクションの活用（川谷）
- 6 時限 課題制作・実習ノート整理

8月13日（火）

- 1 時限 【講義】静岡県立美術館の概要（泰井）

- 2 時限 【講義】自主企画展ができるまで（村上）
- 3 時限 【実習】作品の取扱〈額装作品〉（南、新田）
- 4 時限 【実習】作品の取扱〈掛幅〉（野田、浦澤）
- 5 時限 【講義】保存、IPMの基礎（新田）
- 6 時限 課題制作・実習ノート整理

8月14日（水）

- 1 時限 【講義】国際巡回展ができるまで（三谷）
- 2 時限 【講義】総務課の仕事（金原）
- 3、4 時限 【実習】収蔵庫の見学と環境整備（新田、石上）
- 5 時限 【講義】静岡県立美術館のボランティア活動（浦澤）
- 6 時限 課題制作・実習ノート整理

8月15日（木）

- 1 時限 【講義】美術館の広報について（川谷）
- 2 時限 【講義】めぐりアート静岡・近隣施設との連携の事例（植松）
- 3、4 時限 【実習】来館者対応とミュージズスタッフの仕事について（ミュージズスタッフ、石上）
- 5 時限 【講義】学校教育と美術館（西島）
- 6 時限 課題制作・実習ノート整理

8月16日（金）

- 1～5 時限 【実習】教育普及事業「ちょこっとドット若冲」運営補助（西島）
- 6 時限 課題制作・実習ノート整理

※（ ）内は当館担当者名

収蔵品展

第7展示室において当館の所蔵品・寄託品による収蔵品展を開催し、下記6つのテーマ立てにより計147点の作品を展示した。

無料でご利用いただける本館1階エントランスの名品コーナーにおいても常時3点の作品を展示し、多くの方に鑑賞いただいた。

■収蔵品展スケジュール

4月2日（火）～5月6日（月・振休）

新収蔵品展

5月8日（水）～6月9日（日）

諸派興隆—18世紀の江戸画壇

6月11日（火）～7月15日（月・祝）

対立と融和—19世紀の江戸画壇

8月2日（金）～10月6日（日）

ポップの系譜

10月8日（火）～12月15日（日）

中澤弘光とその周辺

12月17日（火）～2020年2月24日（月・振休）

西洋の風景画

■出品目録

pp. 100-103 参照

移動美術展

「土・水—大地をめぐる美術」展

主 催：静岡県立美術館、裾野市民文化センター

後 援：裾野市、裾野市教育委員会

会 場：裾野市民文化センター

(〒410-1117 静岡県裾野市石脇586)

会 期：令和元年11月12日（火）～12月1日（日）

休館日：11月18日（月）

■概要

静岡県立美術館は、開館以来、県内の遠方の施設で、当館のコレクションをご覧いただく機会として、移動美術展をほぼ毎年開催してきた。

今回の移動美術展では、会場となった富士山南東に広がる裾野市の、豊かな土壌と水に注目し、「土」と「水」をテーマとした作品を、西洋画、日本画、日本洋画、現代美術から選んで展示した。

会期中、展覧会の開催に併せた当館館長の講演会をはじめ、学芸員によるフロアレクチャー、ボランティアによるギャラリートourを行い、目標人数を大幅に上回るご来場者の方々に展示をお楽しみいただいた。

■関連事業

- ・静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）

日 時：11月12日（火）13：00～

- ・講演会「富士山裾野をめぐる美術について」

講 師：木下直之（当館館長）

日 時：11月23日（土・祝）14：00～15：30

- ・当館ボランティアによるギャラリートour

日 時：11月24日（日）11：00～、13：00～、14：00～

■出品目録

p. 104 を参照



静岡県立美術館 SHIZUOKA 2019 つながる。次へ

伊藤若冲《蝦夷島風景》 高橋龍雄《アフリカの風景》

静岡県立美術館 移動美術展
「土・水—大地をめぐる美術」

会 期 中 イ ベ ン ト

静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）
11月12日（火）午後1時～ ※集合場所：2階展示室
講演会「富士山裾野をめぐる美術について」
講師：木下直之（静岡県立美術館館長）
11月23日（土・祝）午後2時～3時30分 ※会場：多目的ホール
※講演会出席費無料、事前申込制です。申込方法は、裾野市民文化センターウェブサイトまたは電話にてご確認ください。
静岡県立美術館ボランティアによるギャラリートour
11月24日（日）午前11時～、午後1時～、午後2時～（各回30分程度）※集合場所：2階展示室
アール・エミット・ミシャロン《風景となった面を見つける手鏡》キャンヴァス、油彩

2019年
11月12日④～12月1日⑥
午前10時～午後6時 休館日：11月18日（月）
主催：静岡県立美術館、裾野市民文化センター
後援：裾野市、裾野市教育委員会

観 覧 無 料

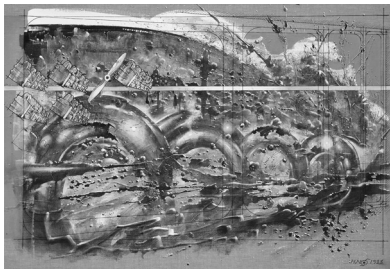
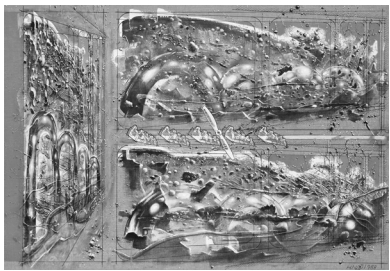
裾野市民文化センター
〒410-1117 静岡県裾野市石脇586
ウェブサイト: <https://www.suzono-bunka.jp/>
TEL 055-993-9300 FAX 055-993-9432

▲チラシ

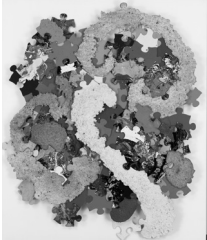
令和元年度 新収蔵品

当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

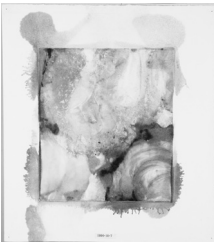
- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとした作品

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	寄贈作品概要
1 中村宏	早来迎機・2	1988(昭和63)年	キャンバス、 アクリル、マ ジックペン	112.0×162.0	購入	中村は、「車窓篇」や「タブロー機械」のシリーズにおいて、映画におけるモンタージュの手法を取り入れ、複数のイメージを併置させた。中村は、絵画内に複数の画面を描くこと、他、シリーズ内でシーケンスが続くような作品を試みた。本作も連作として制作され、中村が好んでモチーフとした機関車が描かれ、時間や運動がダイナミックに表現されている。なお、この連作の内の《早来迎機・1》がすでに作者より当館に寄贈されている。 
2 中村宏	早来迎機・3	1988(昭和63)年	キャンバス、 アクリル、マ ジックペン	112.0×162.1	購入	《早来迎機》の連作では、「1」と「2」は比較的類似しているが、3作目となる本作は違いが大きい。本作の画面は3つの部分に分かれ、左側と右側上下にそれぞれ機関車が描かれている。また、画面左側の部分は横方向に短縮したようにも見える。《早来迎機》3点が揃うことで、動きがよりダイナミックに感じられるだろう。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	寄贈作品概要
3 狩野雅信	花鳥図	19世紀	絹本着色	168.9×84.3	購入	狩野雅信は幕末から明治にかけて活躍した江戸狩野派の画家。幕末狩野派の巨匠・狩野養信の子として生まれ、その跡を継ぎ、木挽町狩野家最後の当主として活躍した。雅信の門下には狩野芳崖、橋本雅邦らがあり、近代日本画の礎を築いた画家を輩出した。本作は、雉や小禽とともに立葵、若竹や草花を丹念に描き込んだ作品で、モチーフには鮮やかな彩色が施されている。雅信の作品は未だ数点しか紹介されておらず、基準作とみなされる貴重な大作である。 
4 イ・ブル	メカメランコリア (Diluvium No.8)	2004(平成16)年	板に真珠の象嵌、ポリウレタン塗装	80.0×50.0	太田正樹氏	イ・ブルは、1964年、大韓民国寧越生まれ。1980年代後半より、怪物を思わせる衣装を身に着けたパフォーマンスを始める。1990年代後半からは、装飾性に満ちた立体作品で注目を集め、第48回ヴェニス・ビエンナーレ（1999年）で奨励賞を受賞するなど、国際的にも高い評価を受けている。政治、テクノロジー、身体、人間の意識、韓国の歴史的背景といった多様なテーマを掲げ制作を行っている。「メカメランコリア」は、2003年より制作を行う平面シリーズの名称。1990年代後半以降の、立体作品にも共通してみられる機械と植物が融合するフォルムが、本作では、真珠層の象嵌で表されている。画面構成上、空間とイメージとの関係性に高い意識が払われており、流れるような線と余白との関係は緊張感に満ちている。東洋画や韓国の伝統工芸の手法を引き寄せた象嵌による精緻な線の描画と、サイバネティクスのようなイメージとの組み合わせが新鮮な作品である。
5 イ・ブル	メカメランコリア (Diluvium No.12)	2004(平成16)年	板に真珠の象嵌、ポリウレタン塗装	80.0×50.0	太田正樹氏	
					4	
					5	
6 伊藤隆史	壁ノ鳥	1958(昭和33)年	合板、油彩	94.5×68.0	伊藤恒子氏	本作品が描かれた1958年頃は、公私ともに美術評論家の石子順造との親交が最も厚い時期で、本作も、石子との交流や、グループ「白」の活動の中で生み出された貴重な1点である。漫画を思わせる鳥たちの具象的なイメージからは、アンデパンダン展などを通じて交流のあった1950年代のルポルタージュ絵画の画家、桂川寛や池田龍雄らとの関連性がうかがえる。その一方で、1950年代後半に日本の美術界を席巻していたアンフォルメルの影響が強くみられ、フォートリエやデュビュッフェを思わせる重厚なマチエールと、落着きのある色彩が特徴的である。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	寄贈作品概要
7 横尾忠則	CLEAR LIGHT MAY (東京プランニング)	1974(昭和49)年	オフセット、紙	103.0×68.0	氣賀澤あけみ氏	ギョスターヴ・ドレの版画をモチーフにカラージュを施し印刷した1975年のカレンダー。本作は「5月」の図柄。12か月と表紙を入れた全13点がポートフォリオに収納され、限定500部で販売された。1970年代の横尾は、60年代後半より西洋の若者文化を席卷した神秘主義的な風潮やオカルティズムに共鳴し、ポスターには精神世界を象徴する記号や図像が取り込まれるようになった。 
8 白井嘉尚	シャーベットのように	1986(昭和61)年	パルプ、黄ボール紙、塩化ビニール板、ポスターカラー、油性ペイント	129.7×109.7×10.4	白井嘉尚氏	タイトルにある「シャーベット」は、「流体と固体／結晶の中間の状態」を指しており、固定した一つの状態でなく、異なる可能性を暗示している。本作は、パズルピース型のパーツとパルプで作られた不定形のパーツからなり、パズルピースのみで制作された先行シリーズ「フリージグソーパズル」で見られた整然とした配置を崩し、作品に動きや様々な方向性を付加している。パズルピースには単色や、ドリップングで描画されたものがあり、異なる表現手法を引用したような様相である。 
9 白井嘉尚	Drawing by Printing (1991,10・4)	1991(平成3)年	紙、モノタイプ	18.0×14.8	白井嘉尚氏	本作は、物質や身体、触覚をテーマとした「版によるドローイング」シリーズのうちの1点である。銅板にインクを塗布し、手のひら等の身体を使ってインクを拭き取って形を生み出し、紙に写し取っている。絵画のイリュージョンという問題に取り組んだシリーズ。版画ではあるが、同じものが二つとしてないモノタイプの作品である。1990年から1997年にかけて制作され、総数は約400点にも上る。本シリーズの変遷を追ってみると、大きく三つの時期に分けることができるだろう。本作は初期の作品で、画面中央を貫くような曲線のフォルムが見られる。 
10 白井嘉尚	Drawing by Printing (1992,4・16)	1992(平成4)	紙、モノタイプ	18.0×14.8	白井嘉尚氏	本作はシリーズ初期の1点である。初期には塗布されたインクが多く残され、その上に比較的シンプルな線状、帯状のフォルム＝動きが表されることが多い。本作では、地となる部分は素手やゴム手袋を装着して手のひらを使ってで、画面の左右に見える線状のフォルムはゴム製の指サックでインクを拭って描かれている。このシリーズでは、具象的なモチーフは避けながらも、絵画（平面）に現れるイリュージョンに取り組んでいる。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	寄贈作品概要
11 白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,5・26)	1993(平成5)年	紙、モノタイプ	18.1×15.9	白井嘉尚氏	不定形なフォルムが画面に現れるようになる1993年頃を中期とすると、本作は中期に含まれる。画面左側に比較的大きくインクを拭い去った白い面は、手のひらの側面で上から下に向かってインクを拭うことで現れたもの。その際、ゴム手袋に媒材のテレピン油をつけ、インクをゆるめたようだ。右側の斑になった形は、インクがより粘度の高い状態だったと思われる。左右の異なるフォルムや方法が対比されているようだ。 
12 白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,5・31)	1993(平成5)年	紙、モノタイプ	18.1×15.9	白井嘉尚氏	本作は中期の作品の一つである。画面全体を不定形のフォルムが覆い尽くしている。ゴム手袋にテレピン油をつけてインクをゆるめ、手のひらや指の様々な動きにより、制作している。積み重なるような細かな痕跡からは、手を少しずつ動かしたことが窺える。インクの濃淡は様々で、地と図が判然としない画面が生み出されている。 
13 白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,11・2)	1993(平成5)年	紙、モノタイプ	18.1×15.9	白井嘉尚氏	本作は中期の作品の一つである。画面左半分は手のひらを回転させて描いた円形のフォルムが占め、上部でも円形のフォルムが重ねられている。また、下部に見えるインクが流れたような跡は、ドライヤーで熱風を吹き付けてできたもの。右側の白い斑点は、テレピン油の揮発が生み出した形である。画面の数カ所にはインクが垂れたような形も見られる。全体的に濃淡がはっきりしており、立体感の感じられる作品である。 
14 白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,11・23)	1993(平成5)年	紙、モノタイプ	18.0×15.9	白井嘉尚氏	本作は中期の作品の一つである。テレピン油でインクをゆるめているため一部は滲み、フォルムの輪郭がぼやけた箇所がある。画材として蠟も使われており、銅板を熱しデカルコマニーの技法を用いることで、画面中央部には樹枝状の形などが生まれている。作者の手わざの及ばない偶然の反応を作品に取り入れている。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	寄贈作品概要
15 白井嘉尚	Drawing by Printing (1994,10・7)	1994(平成6)年	紙、モノタイプ	18.2×15.9	白井嘉尚氏	本作は中期の作品の一つである。インクをテレピン油でゆるめた状態でプレスしたため、インクが矩形部分をはみ出して広がっている。右下の箇所には手の痕跡が比較的見て取ることができるが、全体的にインクが滲み、明瞭なフォルムが避けられているようだ。 
16 白井嘉尚	Drawing by Printing (1995,4・4)	1995(平成7)年	紙、モノタイプ	18.0×14.6	白井嘉尚氏	1995年頃からの時期を後期とすれば、この頃から同じ動きを繰り返したと見られる反復的なパターンが現れる作風へと変遷していった。本作では手のひら側面を使用した帯状の形で画面全体を覆い尽くしている。水墨への共鳴から、シンプルな行為を繰り返すことで、その中で生じる揺らぎを見つめた作品。 
17 白井嘉尚	Drawing by Printing (1997,4・29)	1997(平成9)年	紙、モノタイプ	18.0×14.6	白井嘉尚氏	本作は後期の作品の一つである。テレピン油でインクをゆるめ、楕円のようなフォルムが全面に描いている。配置にあまり規則性は見られず、濃淡もそれぞれ異なり、変化に富んでいる。またメタノールを垂らしてドライヤーで乾かすことで、泡立ちのような形や、さざ波のような形が表れている。 
18 白井嘉尚	Drawing by Printing (1997,5・3)	1997(平成9)年	紙、モノタイプ	17.8×14.9	白井嘉尚氏	本作は後期の作品の一つである。手のひらの側面を使用した帯状のパターンが比較的規則的に反復されている。下半分のもは均一であるが、上部は薄い箇所や濃い箇所がある。インクは同一だが媒材を複数使用したためか、若干色味に変化がある。 
19 中村宏	総銅製機甲本イカルス	1973(昭和48)年	銅版、銅凸版	30.0×21.0×8.5	原雄太郎氏	工業分野で機械カタログの編集レイアウトに携わっていた中村は、製版に用いられていた銅凸版それ自体を作品にすることを着想し、「銅凸画」と名付け、一連の銅凸版の作品を制作した。本作は、稲垣足穂の短編小説「イカルス」を書籍として製作した、銅凸画の中でも珍しい一点である。各頁に中村の絵や稲垣のテキストが掲載されている。銅凸画の作例としては、他に稲垣足穂・中村宏著『機械学宣言』(特装版)等がある。 

■収蔵点数一覧（令和元年度末現在）

購入作品数

（百万円）

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合 計	
											点 数	金 額
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
23	1										1	5
24		1			1						2	5
25											0	0
26	1										1	16
27											0	0
28					2						2	3
29		1			1						2	0
30	1	1			2						4	10
元	1	2									3	10
合 計	点数	125	125	32	12	1,019	7	75	1	46	20	1,462
	金額	1,706	2,841	311	68	366	80	2,811	3	8	142	8,336

寄贈作品数

(作品数)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合 計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5					0						0
6					1						1
7					0						0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
26	4	8			24		3			2	41
27		1			2						3
28	6	4			23		1			4	38
29		1							5	1	7
30	3	1								3	7
元		1			11					4	16
計	221	127	19	93	341	340	14	8	18	69	1,250

図書資料の収集・整理

■収集

令和元年度の新たな受入により、当館蔵書は99,414冊となった。その累計内訳は、刊行図書44,139冊、美術雑誌23,527冊、美術館等刊行物31,748冊である（データのデジタル化による冊数表記の改訂については、平成18年度年報を参照されたい）。

■分類・整理

・令和元年度に行った作業は、以下のとおりである。

(1) 図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

(2) 定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

館蔵品等の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
1	伊藤若冲	白象群獣図	東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」実行委員会	東日本大震災復興祈念伊藤若冲展	2019/3/26-2019/5/6	福島県立美術館	2019/3/10-2019/5/20
2	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」実行委員会	東日本大震災復興祈念伊藤若冲展	2019/3/26-2019/5/6	福島県立美術館	2019/3/10-2019/5/20
3	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	長崎県美術館、長崎県、KTNテレビ長崎	奇蹟の芸術都市バルセロナ展	2019/4/10-2019/6/9	長崎県美術館	2019/3/31-2019/9/11
4	石田徹也	ピアガーデン発	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
5	石田徹也	SLになった人	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
6	石田徹也	(無題1)	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
7	石田徹也	飛べなくなった人	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
8	石田徹也	社長の傘の下	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
9	石田徹也	燃料補給のような食事	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
10	石田徹也	トイレへ逃げこむ人	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
11	石田徹也	兵士	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
12	石田徹也	めばえ	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
13	石田徹也	(無題7)	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
14	石田徹也	(無題8)	レイナ・ソフィア国立美術館	石田徹也展	2019/4/11-2019/9/6	レイナ・ソフィア国立美術館	2019/3/7-2019/9/20
15	熊谷守一	ほたるぶくろ	群馬県立館林美術館	熊谷守一 いのちを見つめて	2019/4/20-2019/6/23	群馬県立館林美術館	2019/4/10-2020/1/23
16	横山華山	清見瀉富士図	宮城県美術館、日本経済新聞社	横山華山展	2019/4/20-2019/6/23	宮城県美術館	2018/9/12-2019/8/27
17	横山華山	小児手鞠図	宮城県美術館、日本経済新聞社	横山華山展	2019/4/20-2019/6/23	宮城県美術館	2018/9/12-2019/8/27
18	太田喜二郎	帰り路（樵婦帰路）	目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	太田喜二郎と藤井厚二ー日本の光を追い求めた画家と建築家	2019/4/27-2019/6/23	目黒区美術館	2019/7/3-2019/9/18
19	狩野探幽	白鷗図	香川県立ミュージアム	自然に挑む 江戸の超グラフィックー高松松平家博物図譜	2019/4/27-2019/5/26	香川県立ミュージアム	2019/4/17-2019/6/5
20	土佐光起	秋草鶉図	香川県立ミュージアム	自然に挑む 江戸の超グラフィックー高松松平家博物図譜	2019/4/27-2019/5/26	香川県立ミュージアム	2019/4/17-2019/6/5
21	狩野栄信	百猿図	National Gallery of Art, Washington, Los Angeles County Museum of Art, 独立行政法人国際交流基金	日本美術に見る動物の姿展	2019/6/2-2019/8/18	National Gallery of Art, Washington	2019/4/5-2019/8/28
22	円山応挙	木賊兎図	National Gallery of Art, Washington, Los Angeles County Museum of Art, 独立行政法人国際交流基金	日本美術に見る動物の姿展	2019/6/2-2019/8/18	National Gallery of Art, Washington	2019/4/5-2019/8/28

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
23	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立,日没	山梨県立美術館ほか	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/6/22-2019/8/25	山梨県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
24	五姓田芳柳(二代)	新潟 信濃川	山梨県立美術館ほか	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/6/22-2019/8/25	山梨県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
25	中村岳陵	残照	山梨県立美術館ほか	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/6/22-2019/8/25	山梨県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
26	中村岳陵	磯	山梨県立美術館ほか	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/6/22-2019/8/25	山梨県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
27	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	姫路市立美術館、神戸新聞社	奇蹟の芸術都市バルセロナ展	2019/6/29-2019/9/1	姫路市立美術館	2019/3/31-2019/9/11
28	横山華山	清見瀉富士図	京都文化博物館、日本経済新聞社	横山華山展	2019/7/2-2019/8/17	京都文化博物館	2018/9/12-2019/8/27
29	横山華山	小児手鞠図	京都文化博物館、日本経済新聞社	横山華山展	2019/7/2-2019/8/17	京都文化博物館	2018/9/12-2019/8/27
30		富士浅間曼荼羅図	三井記念美術館、NHK、NHKプロモーション	日本の素朴絵	2019/7/6-2019/9/1	三井記念美術館	2019/6/15-2019/11/30
31	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	東京藝術大学、朝日新聞社	円山応挙から近代京都画壇へ	2019/8/3-2019/9/29	東京藝術大学美術館	2019/7/3-2020/1/15
32	長沢蘆雪	大原女	東京藝術大学、朝日新聞社	円山応挙から近代京都画壇へ	2019/8/3-2019/9/29	東京藝術大学美術館	2019/7/3-2020/1/15
33	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立,日没	島根県立美術館	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/9/4-2019/11/4	島根県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
34	五姓田芳柳(二代)	新潟 信濃川	島根県立美術館	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/9/4-2019/11/4	島根県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
35	中村岳陵	残照	島根県立美術館	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/9/4-2019/11/4	島根県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
36	中村岳陵	磯	島根県立美術館	黄昏の絵画たち—近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019/9/4-2019/11/4	島根県立美術館	2019/6/12-2020/2/5
37	呉春	柳陰帰漁図屏風	公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館	桃源郷展—蕪村・呉春が夢見たもの—	2019/9/12-2019/11/17	大倉集古館	2019/8/20-2019/11/30
38	河村文鳳	武陵桃源図屏風	公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館	桃源郷展—蕪村・呉春が夢見たもの—	2019/9/12-2019/11/17	大倉集古館	2019/8/20-2019/11/30
39	岡本豊彦	武陵桃源図屏風	公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館	桃源郷展—蕪村・呉春が夢見たもの—	2019/9/12-2019/11/17	大倉集古館	2019/8/20-2019/11/30
40	ドナルド・ジャッド	無題	D I C 川村記念美術館	描く、そして現れる—画家が彫刻を作るとき	2019/9/14-2019/12/8	D I C 川村記念美術館	2019/9/4-2019/12/18
41	徳川慶喜	風景	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14-2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4-2019/12/11
42	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14-2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4-2019/12/11
43	チャールズ・ワーグマン	女性 横浜	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14-2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4-2019/12/11
44	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦）	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14-2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4-2019/12/11
45	大下藤次郎	田子の浦	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14-2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4-2019/12/11
46	五姓田義松	富士	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14-2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4-2019/12/11

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
47	武内鶴之助	英国風景	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14- 2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4- 2019/12/11
48	吉田博	箆坂	府中市美術館	おかえり〈美しき明治〉展	2019/9/14- 2019/12/1	府中市美術館	2019/9/4- 2019/12/11
49		富士浅間曼荼羅図	龍谷大学龍谷ミュージアム、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿	日本の素朴絵	2019/9/21- 2019/11/17	龍谷大学龍谷ミュージアム	2019/6/15- 2019/11/30
50	熊谷守一	ほたるぶくろ	岡山県立美術館	熊谷守一 いのちを見つめて	2019/9/28- 2019/11/4	岡山県立美術館	2019/4/10- 2020/1/23
51	石田徹也	ピアガーデン発	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
52	石田徹也	SLになった人	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
53	石田徹也	(無題1)	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
54	石田徹也	飛べなくなった人	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
55	石田徹也	社長の傘の下	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
56	石田徹也	燃料補給のような食事	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
57	石田徹也	トイレへ逃げこむ人	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
58	石田徹也	兵士	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
59	石田徹也	めばえ	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
60	石田徹也	(無題7)	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
61	石田徹也	(無題8)	ライトウッド659	石田徹也展	2019/10/3- 2019/12/14	ライトウッド659	2019/9/18- 2019/12/31
62	曾宮一念	種子静物	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
63	曾宮一念	スペインの野	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
64	曾宮一念	毛無連峯	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
65	曾宮一念	八つ残雪	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
66	曾宮一念	芝浦埋立地	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
67	曾宮一念	麦秋	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
68	曾宮一念	根古岳	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
69	曾宮一念	梨畑道	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
70	曾宮一念	工部大学	鹿児島市立美術館	没後25年 曾宮一念展	2019/10/3- 2019/11/10	鹿児島市立美術館	2019/9/23- 2019/11/20
71	秋野不矩	たむろするクーリー	平塚市美術館	秋野不矩展	2019/10/5- 2019/12/1	平塚市美術館	2019/9/18- 2019/12/20

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
72	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラッ ト＝コックの丘、 ポントワーズ	上の森美術館、産経新 聞社ほか	ゴッホ展	2019/10/11- 2020/1/13	上野の森美術館	2019/10/1- 2020/4/8
73		嵯峨上皇幸西園 寺詠翫花和歌	京都国立博物館、日本経 済新聞社ほか	流転一〇〇年 佐竹本三 十六歌仙絵と王朝の美	2019/10/12- 2019/11/24	京都国立博物館	2019/10/2- 2019/12/4
74	狩野永岳	三十六歌仙歌意図 屏風	京都国立博物館、日本経 済新聞社ほか	流転一〇〇年 佐竹本三 十六歌仙絵と王朝の美	2019/10/12- 2019/11/24	京都国立博物館	2019/10/2- 2019/12/4
75	伝狩野光信	源氏物語図屏風	平野美術館	静岡県の名宝展	2019/10/26- 2019/12/15	平野美術館	2019/10/16- 2019/12/25
76	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	京都国立近代美術館、朝 日新聞社	円山応挙から近代京都画 壇へ	2019/11/2- 2019/12/25	京都国立近代 美術館	2019/7/3- 2020/1/15
77	長沢蘆雪	大原女	京都国立近代美術館、朝 日新聞社	円山応挙から近代京都画 壇へ	2019/11/2- 2019/12/25	京都国立近代 美術館	2019/7/3- 2020/1/15
78	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	静岡市美術館、静岡市、 Daiichi-TV	奇蹟の芸術都市バルセロ ナ展	2019/11/15- 2020/1/19	静岡市美術館	2019/11/5- 2020/1/29
79	熊谷守一	ほたるぶくろ	久留米市立美術館	熊谷守一 いのちを見つ めて	2019/11/16- 2020/1/13	久留米市立美 術館	2019/4/10- 2020/1/23
80	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒー スの木立、日没	神戸市立小磯記念美術館	黄昏の絵画たち—近代絵 画に描かれた夕日・夕景	2019/11/16- 2020/1/26	神戸市立小磯 記念美術館	2019/6/12- 2020/2/5
81	五姓田芳柳 (二代)	新潟 信濃川	神戸市立小磯記念美術館	黄昏の絵画たち—近代絵 画に描かれた夕日・夕景	2019/11/16- 2020/1/26	神戸市立小磯 記念美術館	2019/6/12- 2020/2/5
82	中村岳陵	残照	神戸市立小磯記念美術館	黄昏の絵画たち—近代絵 画に描かれた夕日・夕景	2019/11/16- 2020/1/26	神戸市立小磯 記念美術館	2019/6/12- 2020/2/5
83	中村岳陵	磯	神戸市立小磯記念美術館	黄昏の絵画たち—近代絵 画に描かれた夕日・夕景	2019/11/16- 2020/1/26	神戸市立小磯 記念美術館	2019/6/12- 2020/2/5
84	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラッ ト＝コックの丘、 ポントワーズ	兵庫県立美術館、産経新 聞社ほか	ゴッホ展	2020/1/25- 2020/3/29	兵庫県立美術館	2019/10/1- 2020/4/8
85	坂田一男	祭壇の男	東京ステーションギャラ リー	坂田一男 捲土重来	2019/12/7- 2020/1/26	東京ステーショ ンギャラリー	2019/11/28- 2020/3/31
86	坂田一男	祭壇の男	岡山県立美術館	坂田一男 捲土重来	2020/2/18- 2020/3/22	岡山県立美術館	2019/11/28- 2020/3/31

美術作品の補修

令和元年度の修復作品

- ・『輞川図巻』卷子解体、表打ち
- ・イスラエル・シルヴェストル『古今のローマの景観』
(12枚組) マット装
- ・秋野不矩《たむろするクーリー》蛍光X線を用いた金箔の状態調査

彫刻作品の保守点検業務

彫刻ブロムナードに設置してある野外彫刻作品を、陰イオン系洗剤で洗浄し、蜜蝋ワックスを塗布した。ジョージ・リッキー作《四つの旋回する斜線 菱形Ⅱ》は、劣化したグリスを除去し、新しいグリスを注入した。

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる、作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、老朽化による不具合が建物の各所に生じ、この機能への障害がしばしば生じている。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

建物を取り巻く環境が、設計当初の想定とは異なってきたことも看過出来ない。気象庁発表による平均気温は建設当初とは変わっており、ゲリラ豪雨の如き急激な気候変動は、空調設備への負荷を、著しいものになっている。幸い当館には立地上当てはまらないが、内水氾濫のような災害は、かつては想定すらされていなかったものであろう。

作品を保存するために望ましい環境の基準も、変化している。例えば、かつては相対湿度 $60 \pm 5\%$ が作品保存の標準値とされていたが、今日、文化庁が国宝や重要文化財の公開環境の基準として挙げているのは、 $55 \pm 5\%$ である。当然のことながら、こういった基準値は建物の設計段階で参照された筈であり、建物の性能に反映している。

また、生物の生息環境の変化は、これまでに見られなかった虫菌害のリスクを高めている。マダニ、トコジラミ等は、文化財害虫ではないが、観覧環境を悪化することもある。ヒアリの個体は、これまでに清水港で発見されており、当館園地で繁殖してしまう可能性もある。

今年度もヤンバルトサカヤスデの個体数は、予想よりも少なかった。昨年度と同様、夏期の猛暑によって、頭数が激減した可能性もあるが、原因は不明である。冬季、道路や階段等のコンクリートに落ち葉やゴミが溜まり、かつ湿気を帯びている箇所越冬している成体は見られるものの、これまでに散見した、リョウブの木のウロに数頭が固まった状態での越冬は、今年は少なかったように思われる。

やはり冬期の夜間、ロダン館裏山にイノシシが餌を探しに来るのは変わりがないが、今のところ鹿の目撃例は無い。ハクビシンの生息も、確認されている。

■展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のブンガノンによる殺虫処理は例年通り行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫等への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ブンガノン炭酸製剤には害虫の忌

避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけではなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品（商品名エキヒュームS）が適当かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法である窒素置換法による低酸素濃度殺虫は、必要となる事態が無かったため、今年度の実績は無かった。

収蔵庫等で虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の館内調査を行なった。また屋外の生物環境の調査を、昨年度に引き続き実施した。館内に侵入する恐れのある生物の生息状況や、リスクになり得る建物周囲の状況を確認した。

館内の作品収納環境は、必ずしも望ましい状態ではなくなりつつある。点数が増え、収納場所が無くなっていくことで、通気を確保し難くなり、取り扱いに必要な空間の確保も難しくなりかねない。作品の収集は美術館本来の機能であり、これを維持していくためにも、収蔵庫機能の改善は、必須の課題である。今年度は高気密のキャビネットと調湿材とを併用することで、作品収納スペースの拡張を試みている。

昨年度に竣工した、2階展示室及び1階名品コーナーの断熱改修工事の結果、展示室内の温湿度環境は改善された。空調機自体の不安定による温湿度変化が生じるが、これは今後改善していきたい。

壁面ガラスケースの照明器具更新は昨年度に済んでいるが、額装作品等に使用されるスポットライトは、従来のハロゲンライトのままである。演色性、配光等、様々な点から、適切なLED器具への移行が望まれる。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行なわれている。

■防災

今年度も、展示室でお客様のご案内や作品の監視に当たるミューズスタッフ、学芸総務両課職員等の防災訓練が行なわれた。

また、静岡県博物館協会事務局として、台風及び地震の際、防災連絡網による安否確認を実施し、その結果はウェブ上の協会会員専用掲示板で共有した。ウェブを使った情報共有の試みは、各会員館園のコロナウィルス対応を知る際にも有効であった。反面、停電時には無力化してしまうため、ウェブに頼り切らない体制も、考えていく必要がある。

■主な保存活動の経過

5月27日（月）～6月3日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第1
回目

6月24日（月）

東部伊豆地震に際し、静岡県博物館協会事務局として、連絡網による安否確認を伊豆東部ブロックで実施。

7月21日（日）～23日（火）

ブンガノンによる展示室等殺虫業務

9月8日（日）

台風15号に際し、静岡県博物館協会事務局として、連絡網による安否確認を伊豆東部ブロックで実施。

9月9日（月）～18日（水）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第2
回目

10月12日（土）

台風19号に際し、静岡県博物館協会事務局として、連絡網による安否確認を全県で実施。

11月25日（月）～12月4日（水）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第3
回目

2月10日（月）～2月17日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第4

回目

ギャラリーツアー

ギャラリーツアーは、ギャラリーツアーグループに所属する当館ボランティア1名がナビゲーター役を務め、収蔵品展とロダン館の作品を、参加者とともに対話形式で約30分間鑑賞する活動である。

開館年から平成21年度まで行われてきた、作品を一方的に解説する「ギャラリートーク」のスタイルを改変し、平成22年度より実施してきた。

平成30年度にボランティア再募集を行った結果、今年度、当グループは15名で活動を開始した。令和2年3月31日時点で13名が活動している。前期から継続しているメンバーもいる一方で、新たに参加したメンバーが約半数を占める。

ツアーを行うほかにも、前期までと同様2カ月に一度、活動日に合わせて定例会と勉強会を開催し、率直に意見を交換しながら、ナビゲーションの技術を一層の向上を目指している。

今年度は収蔵品展とロダン館に加え、収蔵品企画展である屏風爛漫展、そして移動美術展を対象にツアーを実施した。1年間のツアーへの参加者数は、総計で437名であった。

1. 「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

2. ギャラリーツアーグループの役割

収蔵品展、ロダン館を中心にギャラリーツアーのガイドを行う。一方向的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

3. 登録ボランティア数

13名（令和2年度3月31日現在）

4. 実施日および研修日

実施日

毎月第1土曜日（13：30～、14：30～）

毎月第3土曜日（13：30～、14：30～）

※休館期間は除く。館内の別のイベントと重なる時も休止となる場合がある。

研修日

原則、企画展開幕後の最初の休館日に、ミュージスタッフらと合同で収蔵品展について研修を行っている。ギャラリーツアー班個別では、2カ月に一度、活動日にあわせ定例会と勉強会を実施している。定例会では日々の活動や今後の計画について話し合い、司会や書記は各メンバーによる輪番制である。勉強会も輪番制で1年に1度、各自担当し、ツアーの模擬練習などを行っている。

5. 本番までの流れ

- ①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。
- ②学芸員による研修会に参加。また実作品を前に、ボランティア同士でディスカッションや予行演習を行う（勉強会）。
- ③本番。ナビゲーター役1名の他、補助に1名つき、参加者の誘導などを行う。終了後は、活動日誌を記入。

6. 令和元年度 実施実績

- ①収蔵品展（回数は当日の催行回数、人数は参加者数）
「諸派興隆 —18世紀の江戸画壇」
6月1日（2回、16名+8名）
計2回24名
「対立と融和 —19世紀の江戸画壇」
6月15日（2回、3名+4名）、7月6日（1回、9名）
計3回16名
「ポップの系譜」
9月7日（2回、6名+8名）、9月21日（1回、10名）、10月5日（1回、5名）
計4回29名
「中澤弘光とその周辺」
11月16日（1回、8名）、12月7日（1回、6名）
計2回14名
「西洋の風景画」
12月21日（2回、4名+4名）、1月4日（1回、10名）、1月18日（2回、7名+6名）、2月1日（2回、7名+6名）、2月15日（2回、5名+5名）
計9回54名
総計20回137名

②ロダン館

4月6日（1回、10名）、7月6日（1回、20名）、
8月3日（2回、12名+7名）、8月17日（2回、15

名+12名)、9月21日(1回、10名)、10月5日(1回、5名)、10月19日(2回、5名+9名)、11月16日(1回、6名)、12月7日(1回、14名)、1月4日(1回、12名)

※11月第1土曜日の2日はロダンウィークの他のイベントと重なるため、実施を中止した。

計13回137名

③屏風爛漫展

4月6日(1回、20名)、4月20日(2回、15名+18名)、5月4日(2回、18名+42名)

計5回113名

④移動美術展

会場：裾野市民文化センター

11月24日(3回、30名+14名+6名)

※11時～、13時～、14時～、の計3回実施した。

計3回50名

総計437名

※このほかに12月12日(木)に静岡県立大学の講義の一環として学生を対象に1回(17名)、1月7日(火)に掛川市ステンドグラス美術館ボランティアとの交流事業として3回(計9名)ツアーを実施した。

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験

平成22年度から実施。どんな方でも気軽に参加できるように、入ってすぐのエントランスで申し込み不要・参加費無料・短時間の簡単創作体験を行っている。

本年度も水曜日から日曜日までの5日間を基本として、展覧会とからめた内容・技法での実施を目指した。県立美術館の収蔵作品や企画展に展示中の作品などをモチーフとすることで、展示作品への興味関心を促した。ちょこっと体験目当てのリピーターも増えていて、PR活動としての効果は高い。



実施日	内 容	人 数
5月2日～6日	ドット若冲 マス目描き体験1	883
8月14日～16日	ドット若冲 マス目描き体験2	334
8月21日～25日	ぬり絵	546
10月31日～11月3日	ミニ考える人づくり お湯で溶けるプラスチックでの造形	304
1月22日～26日	シルクスクリーン ガーゼハンカチへの印刷体験	376
年間22日		2,443

■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることを目指し、展覧会に関連づけて実施している。



「古代アンデス文明」展関連では、染織家の稲垣有里氏を招き、講座を行った。当時貴重な「赤」を表現するコチニール染めとインディゴ藍染めを組み合わせた展示品のチュニクの一部が、どのような手順で染め上げられていたかを体験することで古代アンデスに思いをはせることができる講座となった。



「古代への情熱」展関連では、銅版画家の柳本一英氏に講師をお願いした。学芸員の作品解説を聞きながら鑑賞した後、作品の一部を模写する制作を通して、ピラネージの匠の技を感じることができた講座となった。

実施日	内 容	人 数
6月9日、23日	コチニール×藍一絞り染めの 麻ストール 〈稲垣有里氏（染織家）〉	25
9月7日、8日	見る・描く・飾る 誰でも気軽に絵を楽しめるアクリル画講座 〈渡辺有葵氏（画家）〉	23
11月9日、10日	イタリアの空の下～風景と遺跡をエッチングで描こう！ 〈柳本一英氏（銅版画家）〉	11
2月1日、2日	水彩で描く 風景画の世界を旅する講座 〈好宮佐知子氏（画家）〉	22
年間8日間実施		81

■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合ったり取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画についてはインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言を行っている。

また、「創作週間スペシャル」と題し、特定の技法習得を目的としたワークショップを日本画と木版画の内容でそれぞれ2日間ずつ開催した。創作週間スペシャルで技法に興味をもった参加者が、通常の創作週間へ継続的に参加される方も多く見ることができた。

<創作週間>

開室日数：49日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下 文氏（日本画家）、藤田 泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）

利用者数：482名

<創作週間スペシャル>

（日本画）「姫屏風に描く」

日 時：4月13日（土）、4月14日（日）

講 師：日下 文氏（日本画家）

場 所：当館実技室

参加者数：11名



（木版画）「色彩木版画カレンダーで新年を飾ろう！」

日 時：11月23日（土）、11月24日（日）

講 師：藤田 泉氏（木版画家）

場 所：当館実技室

参加者数：8名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間実施している。

参加者は高齢者が多いが、中学生・高校生・大学生など若手の参加者も増加傾向にあり、県外からの参加者も出てきている。デッサンを通してロダン彫刻をより深く鑑賞できる人気プログラムとなっている。

実施日数：20日

助手：野呂美樹氏（アトリエかもめ代表）

実施時間：10：00～16：30

参加者数：399名



実技・体験

■ねんど開放日

「ねんど開放日」は、実技室と約1 tの粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

人気プログラムで各月の初回はほとんど満員で、後述の「えのぐ開放日」と並んで、実技室プログラムの中でも参加者数の多いプログラムとなっている。

実施日数：9日（1日3回で27回実施）

実施時間：午前の部① 10：10～11：30

午前の部② 11：30～12：50

午後の部 14：00～15：20

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館実技室

参加者数：1,463名



■えのぐ開放日

「えのぐ開放日」は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらうプログラムである。

「ねんど開放日」と同様に、親子でコミュニケーションを取りながら造形遊び体験を楽しんでいただくプログラムではあるが、「えのぐ開放日」については、インストラクターが描くテーマや技法を指定してナビゲートしながら、希釈したポスターカラー複数色を用いて屋外テラスの石畳の上に描画していく。（天候により室内実施となる。その場合、ビニールシートに描画していく）今年度は天候に恵まれず、屋外実施1日、室内実施2日、台風19号の影響により中止が1日となった。

プログラム内容はインストラクターの増田洋子氏が季節や企画展の内容などに合わせて考案。

実施日数：3日（1日2回で6回実施）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館屋外展示テラス 当館実技室

参加者数：586名



■わくわくアトリエ

「わくわくアトリエ」は「いろんな素材をかたちに！」をテーマに、小学生から大人まで幅広い年代が創作活動の喜びを味わえる制作体験ワークショップである。

小学生が参加できる講座ということもあり、参加者のメインは小学生または親子である。

企画展のテーマに合わせて、小学生でも参加可能な内容を講師陣に考案してもらっているが、各分野の技巧的な内容で行う「実技講座」とは違い、誰にでもできる幅広い技法や視点が創作活動自体の楽しさに繋がっているように感じる。

実施日数：4日

実施時間：10：00～16：00

場 所：当館実技室

参加者数：142名



実施日	内 容	人 数
5月25日	アルパカの毛で作るアルパカブローチ 〈大村智子氏（羊毛フェルト作家）〉	30
8月4日	見つめて作ろう花と虫 〈福井利佐氏（切り絵作家）〉	60
11月4日	型取りの方法で粘土の石を作って、 堀さんの作品に参加しよう。 〈堀 園実氏（美術家）〉	41
1月12日	「機械と朗読」 〈やなぎみわ氏（美術家）〉	11
年間4日		142

■夏休み子どもワークショップ

「みんなでドット若冲」

当館所蔵品《樹花鳥獸図屏風》（伊藤若冲）の屏風が展示される時期に行う平成17年に始まったワークショップである。本年度は5月にちょっと体験として「ドッ

ト若冲マス目描き」を実施し、本ワークショップ参加者以外の多くの来館者に共同作品制作に参加していただいた。そして、夏休みに「夏休み子どもワークショップ」として開催し、シカの図を描いた。

「柁目描き」の1マスを7×7センチの厚紙に置き換えて着色し、約9倍に拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約10×5メートルの巨大絵（屏風一扇）となる。

日 時：8月17日（土）、8月18日（日）

インストラクター：西島幸代（当館主査）

場 所：当館実技室、エントランス

参加者数：33名



学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムである。実技や鑑賞、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、職員やエデュケーショナルスタッフ、インストラクターがお手伝いするものである。

■ねんど教室

「ねんど教室」は、幼児、児童、生徒を対象に、陶芸用粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へ、個人制作から共同制作へと繋げていく造形遊びの考え方を取り入れたプログラムである。

インストラクター：丸山成美氏、野呂美樹氏、中島友絵氏
場 所：当館実技室
参加者数：3,036名



実施日	団 体 名	人数
6月12日	静岡聴覚特別支援学校幼稚部	14
6月12日	静岡市立清沢小学校	16
6月13日	静岡聖光幼稚園	37
6月13日	静岡サレジオ幼稚園	64
6月14日	月影保育園	16
6月14日	庵原こども園	19
6月14日	社会福祉法人静岡隣人会保育園	31
7月3日	静岡市立東豊田小学校	123
7月4日	静岡市立中田小学校	115
7月5日	静岡市立清水岡小学校	89
7月10日	静岡市立東源台小学校	111
7月11日	静岡市立清水船越小学校	109
7月12日	竜南こども園	34
7月12日	静岡市立南薬科小学校	51
9月11日	北安東保育園	50
9月11日	学校法人大村学園かわはらいづみ幼稚園	60
9月12日	静岡市立森下小学校	13

9月12日	曙保育園	36
9月13日	学校法人麻機幼稚園	65
9月25日	ゆりかご保育園	19
9月25日	静岡市立南部小学校	60
9月26日	静岡市立宮竹小学校	91
9月27日	なでしこ保育園	33
9月27日	静岡市立清水駒込小学校	52
9月27日	静岡市立清水小島小学校	56
11月27日	学校法人かえで学園かえで幼稚園	38
11月27日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	41
11月28日	静岡市立富士見小学校	83
11月29日	学校法人補陀学園若竹こども園	9
11月29日	風の子保育園	26
11月29日	わらべ幼稚園	29
12月4日	船原幼稚園	21
12月4日	静岡市立東豊田こども園	28
12月5日	静岡市立長田西小学校	106
12月6日	社会福祉法人扶桑会あけぼの保育園	52
12月6日	常葉大学教育学部附属橘小学校	69
12月11日	十七夜山しぶかわほいくえん	12
12月11日	静岡市立飯田南こども園	33
12月11日	るり幼稚園	58
12月12日	ふじみ幼稚園	103
12月13日	有度北こども園	28
12月13日	あゆみ第2こども園	38
12月13日	さくら幼稚園	61
1月8日	静岡市立入山こども園	8
1月8日	丸子幼稚園	31
1月8日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	55
1月9日	羽鳥るり幼稚園	40
1月9日	静岡なかはら幼稚園	50
1月10日	若竹幼稚園	81
2月5日	静岡市立服織中央こども園	31
2月5日	社会福祉法人清水双葉会うど東保育園	57
2月6日	矢部保育園	19
2月6日	静岡市立有度第二小学校	61
2月7日	静岡市立折戸こども園	34
2月7日	静岡市立有度第二小学校	61
2月12日	静岡市立有度第二小学校	32
2月12日	静岡市立長田西小学校	60
2月13日	清水りんぼかんこども園	21
2月13日	こぐま保育園	28
2月13日	有度十七夜山保育園	37
2月14日	静岡市立長田西小学校	59

2月14日	静岡精華幼稚園	72
年間日数	合計人数	3,036
33日	団体数	62

■えのぐ教室

「えのぐ教室」は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に行い、学年が上がるにつれて少しずつ難易度を上げているが、どの年齢に対しても、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：丸山成美氏、野呂美樹氏、中島友絵氏
場 所：当館実技室、屋外展示テラス
参加者数：1,169名



実施日	団 体 名	人数
5月22日	足久保保育園	21
5月22日	静岡聖光幼稚園	39
5月23日	あい保育園古庄	12
5月23日	静岡市立有度西こども園	21
5月23日	学校法人協谷学園 静岡南幼稚園	64
5月24日	静岡精華幼稚園	68
5月29日	小百合キンダーホーム	30
5月29日	学校法人協谷学園 静岡南幼稚園	45
5月30日	学校法人協谷学園 静岡南幼稚園	46
5月30日	幼保連携型認定こども園千代田幼稚園	68
5月31日	あいわ保育園	12
5月31日	矢部保育園	18
5月31日	静岡市立長沼こども園	32
6月5日	横砂こども園	9
6月5日	興津南こども園	15
6月5日	興津北こども園	22
6月5日	清水みらい保育園	33

6月5日	静岡市立下川原こども園	34
6月6日	静岡隣人会保育園	32
6月6日	静岡市立安東こども園	61
6月7日	袖師保育園	21
6月7日	社会法人後人社若草保育園	28
6月7日	入江こども園	36
10月2日	静岡市立西奈南小学校	18
10月2日	相生保育園	23
10月3日	静岡市立西奈中学校	10
10月3日	静岡市立伝馬町小学校	45
10月4日	静岡市立清水船越小学校	98
10月9日	静岡市立用宗こども園	13
10月9日	静岡市立広野こども園	16
10月9日	静岡市立清水船越小学校 特別支援学級	22
10月10日	蒲原聖母幼稚園	23
10月10日	静岡市立大里東小学校	42
10月11日	静岡市立小河内こども園・小島こども園	36
10月11日	静岡サレジオ幼稚園	56
年間日数	合計人数	1,169
15日	団体数	35

■音のかけらワークショップ

「音のかけらワークショップ」は、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、ワークショップ実施のために、プログラム実施に場所と時間が必要となること、プログラム自体のユニバーサルデザイン化、作者の制作意図とプログラムとの整合性など、今後の利用について再検討が必要である。



実施日	団 体 名	人数
6月21日	静岡南部特別支援学校	12
9月12日	静岡視覚特別支援学校	20
年間日数	合計人数	32
2日	団体数	2

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するプログラム。7枚のカードに書かれたクイズを解き、回答後ナビゲーターが作品解説をしながら答え合わせをしていく。

答え合わせ時の解説では、鋳造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、《考える人》や《カレーの市民》を前にして同じポーズや表情の真似することにより深く作品に目をやる子どもたちの姿が見られた。



実施日	団 体 名	人数
5月23日	静岡市立服織中学校	12
6月22日	修善寺中学校	25
7月11日	静岡市立清水船越小学校	37
9月6日	富士市立吉永第一小学校	59
9月27日	静岡市立清水小島小学校	56
10月31日	御殿場市立印野小学校	19
11月28日	静岡市立富士見小学校	83
12月11日	三島市立山田小学校	78
1月16日	静岡大学教育学部	5
2月4日	静岡市立由比中学校	51
2月12日	静岡市立城内中学校	7
年間日数	合計人数	432
11日	団体数	11

■美術館の秘密をさぐれ

「美術館の秘密をさぐれ」では、美術館を誰もが楽しく鑑賞できる展示の工夫や作品保護などについて、館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる。小中学校での、社会科見学や総合的な学習の時間におけるキャリア教育的な視点を取り入れた活動としての申し込みが多くなってきている。

実施日	団 体 名	人数
8月24日	静岡サレジオ中学校	2
10月2日	静岡市立東源台小学校	24
12月14日	静岡学園中学校	36
2月15日	静岡学園中学校	36
年間日数	合計人数	98
4日	団体数	3

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象とした、ロダン館彫刻作品のスケッチ・デッサン・クロッキープログラム。描く行為によって、通常の観覧以上に細部に眼を向けることとなり、より深い鑑賞体験となる鑑賞プログラムである。



実施日	団 体 名	人数
4月24日	常葉大学 造形学部	28
5月8日	常葉大学 造形学部	28
5月15日	常葉大学 造形学部	28
5月22日	常葉大学 造形学部	28
6月22日	修繕寺中学校	25
10月11日	聖隷クリストファー中学校	54
11月1日	聖光学園	80
2月6日	浜松江之島高等学校	32
2月11日	沼津西高等学校	31
年間日数	合計人数	334
8日	団体数	5

■ボランティアスタッフとの鑑賞

学校向けギャラリーツアープログラム。教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼

に応じて、当館ボランティア（展示室ボランティア学校班）に連絡を取り、都合のつくボランティアに鑑賞の手伝いをお願いしている。

展示室では、子どもたちの感想や気付きに耳を傾けながら作品について一緒に考え、話をする鑑賞を行っており、観賞後、子どもたちから「楽しかったよ。」「また、美術館に来るね。」などの声が聞かれる。

「ロダン館ななふしぎ」「美術館の秘密をさがれ」等のプログラムと「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムを併用実施することも多い。



実施日	団 体 名	人数
5月14日	牧之原市立萩間小学校	20
5月23日	静岡市立服織中学校	12
6月25日	静岡大学教育学部附属幼稚園	40
7月3日	静岡市立東豊田小学校	123
8月20日	静岡県総合教育センター	19
12月6日	遠江総合高等学校	94
年間日数	合計人数	308
6日	団体数	6

■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収藏品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行った。

また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展示の見どころ解説などを行った。

実施日	団 体 名	人数
-----	-------	----

6月5日	湖西市立岡崎中学校	44
7月1日	富士市立丘小学校	58
7月5日	富士市立丘小学校	39
8月9日	富士市 子ども芸術講座	20
9月26日	湖西市立知波田小学校	51
10月15日	静岡大学附属特別支援学校高等部	22
10月25日	静岡北特別支援学校	11
11月11日	焼津市豊田小学校	175
11月14日	清水南高等学校	23
1月15日	城南静岡中学校	70
1月20日	森町立泉陽中学校	12
年間日数	合計人数	525
11日	団体数	10

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れた。また、県主催夏期研修会、県内各地区の図工美術科教員の研究会に参加し、講師を務めるなど積極的に取り組んだ。

実施日	団 体 名	人数
4月3日	静岡市立西奈中学校	4
5月11日	富士ふたば保育園	5
5月24日	湖西市立岡崎中学校	1
5月29日	静岡大学教育学部附属幼稚園	2
6月5日	湖西市教育会 図工・美術研修	15
6月22日	静岡中央特別支援学校	2
8月20日	静岡県総合教育センター	19
9月19日	静岡福祉大学	38
10月23日	私立幼稚園研修	41
11月3日	志太地区美術研修	14
年間日数	合計人数	141
10日	団体数	10

■粘土・レプリカ・当館資料の貸し出し、授業協力

児童・生徒を引率して当館主催の粘土教室に参加するのは、授業時間数や距離・費用等で難しいが、自校で同様の造形遊び体験を実践したいという教員のために、粘土貸出を行っている。

また、学校の図画工作科・美術科の鑑賞分野の教材として使用できるように、本館の収藏品を用いたレプリカ等の教材貸出、当館で制作したブロンズ彫刻の鋳造工程を解説したVTRなどの資料貸出、鑑賞授業の内容相談などの協力を行っている。



	ねんど貸出 団体名	人数
1	静岡市立清水入江小学校	20
2	静岡市立富士見小学校	27
3	島田市立島田第二小学校	34
4	三島市産業文化部文化振興課	47
5	焼津市立焼津東小学校	50
6	静岡市立田町小学校	58
7	麻華こども園	60
8	静岡市立麻機小学校	66
9	静岡高等学校	70
10	静岡市立安倍口小学校	86
11	焼津市立焼津東小学校	100
12	静岡高等学校	216
13	静岡大学教育学部附属特別支援学校	240
14	エンゼル幼稚園	290
15	三島市立錦田小学校	450
16	常葉幼稚園	500
合計人数		2,314

団体数		16
	レプリカ貸出 団体名	人数
1	裾野市立富岡中学校	692
2	静岡市立城内中学校	7
3	静岡大学教育学部附属特別支援学校	38
4	静岡北特別支援学校	84
5	菊川市立内田小学校	49
6	島田市立初倉南小学校	50
7	富士市立吉原東中学校	78
8	東海大学短期大学部	83
9	湖西市立岡崎中学校	130
10	富士市立丘小学校	145
11	伊豆の国市立韭山中学校	155
12	浜松市立天竜中学校	230
13	浜松江之島高等学校	464
14	静岡聖光学院中学校	500
合計人数		2,705
団体数		14

■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにしたアートカードの貸出を開始した。当館に団体観覧を計画している学校の事前学習や、学校の図画工作科・美術科での鑑賞能力トレーニング題材としてなど、目的や対象に応じて、様々な形態で楽しみながら美術作品に対する興味関心を高められるツールとなっている。

アートカード貸出開始前の平成26年度から教員研修等で実演や紹介をし、図工・美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われることもあり、学校現場への認知が浸透して利用数が年々増加している。

	団体名	人数
1	湖西市立新居中学校	1,140
2	藤枝市立青島北中学校	350
3	牧之原市立川崎小学校	221
4	静岡市立東豊田小学校	236
5	袋井市立山名小学校	70
6	三島市立沢地小学校	182
7	島田市立金谷小学校	3
8	藤枝市立藤枝中学校	340
9	静岡北特別支援学校	10
10	富士市立第一小学校	275
11	富士市立鷹岡小学校	240
12	小笠東小学校	120

13	富士市立吉原小学校	86
14	富士市立田子浦小学校	278
15	富士市立第一小学校	120
16	袋井市立浅羽中学校	204
17	静岡高等学校	26
18	島田市立島田第二小学校	34
19	島田市立初倉南小学校	50
20	静岡市立城内中学校	7
合計人数		3,992
団体数		20



講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
5月18日	古代アンデス文明展 特別講演会「古代アンデス文明 その誕生から滅亡まで」	篠田謙一氏（国立科学博物館副館長 兼人類研究部長）	講堂	250 人
8月17日	熊谷守一展 特別講演会「熊谷守一の不思議 二つを一つに～例えば日本画と洋画あるいは生と死」	古川秀昭氏(前岐阜県美術館館長、 OKBギャラリーおおがき館長)	講堂	120 人
11月9日	古代への情熱展 特別講演会「憧れの古代—18世紀イタリアを中心に—」	青柳正規氏（山梨県立美術館館長）	講堂	97 人
11月23日	移動美術展（於裾野市民文化センター） 講演会「富士山裾野をめぐる美術について」	木下直之（当館館長）	裾野市民文化センター	124 人
1月13日	やなぎみわ展 やなぎみわアーティスト・トーク	やなぎみわ氏（美術家）	講堂	140 人
1月26日	やなぎみわ展 「やなぎみわとは誰か？」	やなぎみわ氏（美術家）、木下直之 （当館館長）	講堂	91 人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、展覧会に関わった外部講師、当館館長および学芸員による講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月13日	屏風爛漫展 美術講座「屏風日和一展覧会見どころ解説」	石上充代（当館上席学芸員）	講座室	42人
4月21日	屏風爛漫展 館長美術講座「屏風は絵なのか道具なのか」	木下直之（当館館長）	講座室	55人
6月8日	古代アンデス文明展 スライドトーク「アンデスに行ったんです。」	浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	講座室	45人
6月9日	古代アンデス文明展 館長美術講座「ミュージアムでヒトを展示することについて」	木下直之（当館館長）	講座室	35人
9月15日	熊谷守一展 館長美術講座「熊谷守一の絵のはだかとヌード」	木下直之（当館館長）	講座室	70人
11月4日	めぐりアート静岡アーティストトーク	堀園実氏（美術家）	エントランス	70人
11月10日	古代への情熱展 館長美術講座「凱旋門の話ーローマ、パリ、ベルリン、ミラノ、江戸、東京、静岡そして浜松に残る」	木下直之（当館館長）	講座室	40人

■フロア・レクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について当館学芸員が解説した。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月7日、 27日、 5月6日	企画展 屏風爛漫展	石上充代（当館上席学芸員）	展示室	160人
4月14日	新収蔵品展	南美幸、泰井良、野田麻美（以上当館上席学芸員）、植松篤（当館主任学芸員）	展示室	17人
4月27日	企画展 屏風爛漫展（友の会向け）	石上充代（当館上席学芸員）	展示室	15人
5月5日	新収蔵品展	南美幸、川谷承子、泰井良（以上当館上席学芸員）、浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	20人
5月19日	収蔵品展 諸派興隆ー18世紀の江戸画壇	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	2人
6月2日、 19日、 22日	企画展 古代アンデス文明展	浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	130人
6月2日	企画展 古代アンデス文明展（友の会向け）	浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	18人
6月23日	収蔵品展 対立と融和ー19世紀の江戸画壇	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	40人
8月11、 18、25日、 9月1、 8、22日	企画展 熊谷守一展	泰井良（当館上席学芸員）	展示室	260人

8月18日、 31日	収蔵品展 ポップの系譜	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	30 人
9月1日	企画展 熊谷守一展（友の会向け）	泰井良（当館上席学芸員）	展示室	16 人
10月6日、 14日、20日、 27日	企画展 古代への情熱展	南美幸、新田建史（当館上席学芸員）	展示室	135 人
10月13日	収蔵品展 中澤弘光とその周辺	村上敬（当館上席学芸員）	展示室	5 人
10月14日	企画展 古代への情熱展（友の会向け）	新田建史（当館上席学芸員）	展示室	20 人
11月12日	移動美術展	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	50 人
12月28日、 1月19日、 2月9日	企画展 やなぎみわ展	植松篤（当館主任学芸員）	展示室	107 人
1月11日	収蔵品展 西洋の風景画	新田建史（当館上席学芸員）	展示室	15 人
1月19日	企画展 やなぎみわ展（友の会向け）	植松篤（当館主任学芸員）	展示室	11 人

対外活動

館員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

■講演会

- 三谷理華： ジャポニスム学会2019年度第3回例会ミニ
レクチャー「日本ミュシャ事始め——白馬
会周辺から」
【京都工芸繊維大学美術工芸資料館】11月
9日
- 新田建史： 「静岡県における博物館の連携体制」（愛媛
県博物館等関係職員研修会）講師
【愛媛県美術館】2月27日
- 西島幸代： 静岡県総合教育センター主催研修「美術文
化研修—鑑賞—」講師
【静岡県立美術館】8月20日

■講座

- 南 美幸： 朝日新聞公開講座「エイフマン・バレエ来
日記念講演会」講師
【朝日新聞東京本社読者ホール】6月2日
「Biviキャン公開講座」講師
【静岡産業大学】10月16日
- 村上 敬： 「富士市展（絵画・彫刻の部）」審査会
【富士市ロゼシアター】6月25日
展覧会企画者鼎談「トリメガ研究所と考える
日本の美術館運営と展覧会企画」
【台北教育大学】10月24日
シンポジウム登壇「作家スペシャルトーク
～原久路と林ナツミが見つめる"今"とは～」
【台北教育大学】10月26日
- 石上充代： 静岡大学附属特別支援学校 校外授業協力
【静岡大学】4月22日
出張美術講座
【静岡大学附属特別支援学校高等部】10
月15日
東海大学博物館実習
【静岡県立美術館】10月20日
三保松原ガイド養成講座「三保松原と芸術」
【静岡市三保松原文化創造センター】2月
1日
- 西島幸代： 出張美術講座
【湖西市立岡崎中学校】6月5日
【富士市立丘小学校】7月1日・5日
【湖西市立知波田小学校】9月26日
【静岡大学教育学部附属特別支援学校高等部】

- 10月15日
【静岡県立静岡北特別支援学校】10月25日
【焼津市豊田小学校】11月11日
【城南静岡中学校】1月15日
【森町立泉陽中学校】1月20日
- 富士市 子ども芸術講座
【富士ロゼシアター】8月9日
つながるくさなぎ冬フェス
【草薙駅前商店街】12月14日
「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コ
ンクール」審査会
【清水港湾合同庁舎】9月10日
静岡県消防設備協会防火ポスター審査会
【静岡県庁】9月13日
- 植松 篤： 出張美術講座
【城南静岡中学校】1月15日
【森町立泉陽中学校】1月20日
- 浦澤倫太郎： 出張美術講座
【静岡大学】「音楽文化論」6月4日
【静岡大学】「身体芸術系教育専門研究」
6月4日
【静岡県立清水南高等学校】11月14日

■美術館友の会事業への協力

無し

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のも
とに以下の事業を行った。

- 役員会・総会の開催 令和元年5月28日（火）（県立
美術館）
- 研修会・講習会の実施
 - 第1回講習会「資料燻蒸の実際と注意点」
日時：令和元年10月30日（水） 10：00-18：40
関東港業横浜営業所、神奈川県立歴史博物館
参加者数：静岡県博物館協会21名、神奈川県博物館
協会10名
内容：虫菌害が生じた資料の燻蒸処置について、燻
蒸窯の見学を通じて、知識を深めた。さらに、資格
認定を行なう研究所、そして作業実務に当たる作業
者を講師に迎え、薬剤やその使用法について学んだ。
「文化財用燻蒸剤の特徴とその取扱の注意点」岩田
泰幸氏（公益財団法人文化財虫菌害研究所）、「文化
財燻蒸の実務と作業の注意点」森由行氏（東海埠頭
株式会社防除部）

(2) 第2回講習会「資料の取扱い ～基本の確認と、こんな時どうする？」

日時：令和2年2月12日（水） 13：30-15：00

会場：静岡県立美術館

参加者数：45名

内容：軸装作品の取扱いを学ぶと共に、資料を収めるための箱の作り方、資料を養生するための綿布団の作り方、資料を固定するための紐の縛り方等を実習した。講師には、日本通運静岡支店からベテラン作業員3人をお迎えした。

3 地域セミナーの開催

- ・浜松市立賀茂真淵記念館「賀茂真淵記念館 夏期講座」6月26日（水）他計6回
- ・熱海市立澤田政廣美術館「熱海市立澤田政廣美術館 夜間特別開館（ナイトミュージアム）」6月1日（土）他計4日間
- ・公益財団法人佐野美術館「バルーンパフォーマンス & ワークショップ～不思議なきのことバルーンステッキをつくろう～」11月16日（土）
- ・藤枝市郷土博物館・文学館「志太ゆかりの伝統芸能 公園"笹子追分人形芝居『朝顔日記』"」9月8日（日）
- ・月光天文台「第23回宇宙と天文の講演会 未来を掘る」9月7日（土）
- ・磐田市旧見付学校附磐田文庫「昔の授業体験」6月16日（日）、6月30日（日）
- ・浜松市楽器博物館「子どもワークショップ「インドネシアの影絵人形ワヤン・クリを作って芝居をしよう！」」8月9日（金）

4 静岡県博物館協会会報（No. 83、No.84）の発行

5 静岡県博物館協会研究紀要 第43号の刊行

6 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営、リニューアル

7 防災事業の実施

- ・加盟館園目録等データバックアップ事業：2015（平成27）年3月から継続
- ・災害時連絡網稼働
- ・防災用資材配備

8 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

9 事業推進グループによる事業の推進

- ・事業推進グループ会合 4回開催
令和元年7月9日（火）、10月2日（水）、10月30日（水）、令和2年2月12日（水）

■その他

- 三谷理華：
- ・ジャポニズム学会理事
 - ・美術館連絡協議会 美連協大賞「奨励賞」推薦委員
 - ・ふじのくに芸術祭2019企画委員、美術部門美術展審査員
 - ・ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員
 - ・ICOM京都大会運営委員
 - ・小山総合運動公園ラグビーモニュメント設置業務受託者選定委員会委員
- 新田建史：
- ・愛知県立芸術大学非常勤講師
 - ・川崎市市民ミュージアム美術作品救出
- 泰井 良：
- ・一般財団法人地域創造公立美術館活性化事業企画検討委員
 - ・全国美術館会議地域美術研究部会幹事
 - ・一般社団法人浜松市創造都市協議会理事
- 石上充代：
- ・静岡市三保松原保全活用計画推進専門委員会委員
 - ・第57回中世史サマーセミナー協力 8月23日
- 野田麻美：
- ・講義「地方県立美術館の学芸員の仕事 コレクションの展示と活用を中心に」（2019年5月29日東京大学大学院 人文社会科学系研究科 博物館資料論）
- 植松 篤：
- ・展覧会「めぐりアート静岡2019」への協力（主催：静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市 運営：（公財）静岡市文化振興財団）
 - ・VOCA展2020推薦委員

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との懸け橋となるべく活動を続けている。2009年（平成21）年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～84を参照）、2010（平成22）年4月からは、3年の任期制を導入したうえで新体制により再始動した。

本年度は平成30年10月から12月にかけて行った再募集および選考と研修の結果、4月より計136名によって活動を開始した。

・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために次の3つを活動方針として定めている。

- （1）来館者サービス充実
- （2）美術館運営支援
- （3）地域連携推進

・活動内容、グループ

（1）全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれが属する地域、家庭、職場などにおいて、当館の情報を提供することにより、美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進するために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催している。これは原則として各会期の最初の休館日に、担当学芸員が展覧会概要や作品解説を行うものである。

（2）各グループの活動

現在7つのグループに分かれて活動している。図書閲覧室グループのみ、他グループとの兼任を可としている。

※（ ）内の数字は平成31年4月時点での登録者数

①図書閲覧室グループ 47名

図書閲覧室御受付が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。また、開催中の企画展に合わせて、関連図書コーナーを閲覧室内に設置している。

②学校グループ 26名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子ども

たち話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見方を引き出す。

③実技室グループ 17名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室イベントは、絵画のワークショップや粘土開放日など多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。そのため、ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

④ギャラリーツアーグループ 15名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行うフロアレクチャーなど様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採用。

⑤タッチツアーグループ 9名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

⑥資料整理グループ 37名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用のキャビネットに保管するとともに、データベース化を行うことにより、貴重なアーカイブを形成し、学芸員の研究活動にも利用されている。これらは膨大な時間と手間のかかる作業であり、ボランティアの力が大いに発揮されている。

⑦地域連携・草薙ツアーグループ 6名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

・規約、ルール

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」

に基づいて活動している。報酬、旅費、などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとに休館日を利用してボランティアを対象とする内覧会を実施している。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

・活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することとし（募集基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

・募集、登録、活動期間

より多くの方がボランティアに参加できるようにするため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、その都度美術館が定め、募集要項に記載する。

■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（令和元年度末時点「広報サポーター」登録者数45名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

友の会活動

■諸会議

(1) 理事会・評議員会

令和元年5月17日（金） 静岡県立中央図書館 中集会室

- ・役員の異動について
- ・平成30年度事業報告、決算報告
- ・令和元年度事業計画案、予算案
- ・その他

(2) 会長・副会長への事業報告会

令和元年10月15日（火）静岡県立美術館 会議室

- ・事業中間報告

令和2年3月27日（金）静岡県立美術館 会議室

- ・事業報告
- ・令和2年度事業について
- ・その他

(3) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室等 12回開催

(4) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室等 23回開催

■実技講座

(1) 実技講座「テラコッタ（素焼）による温もりのある人体彫刻」

令和元年9月3日（火）、4日（水）、23日（月・祝）
3日間

会 場 静岡県立美術館 実技室

講 師 夏池 篤氏（彫刻家）

参加人数 12名

(2) 実技講座「淡彩講座」

令和元年11月20日（水）1日間

会 場 静岡県立美術館 実技室

講 師 坂田和之氏（画家）

参加人数 24名

■講演会（イベント）等の開催

(1) 企画展ごと会員向けフロアレクチャー

- ・「屏風爛漫」

平成31年4月27日（土） 19名参加

- ・「古代アンデス文明展」

令和元年6月2日（日） 18名参加

- ・「熊谷守一 いのちを見つめて」

令和元年9月1日（日） 16名参加

- ・「古代への情熱」

令和元年10月14日（月・祝） 16名参加

- ・「やなぎみわ展 神話機械」

令和2年1月19日（日） 11名参加

(2) 木下直之館長講座

- ・「動物園巡礼」

令和元年5月25日（土）第1部 木下直之館長講座
静岡県立美術館講座室 22名参加

令和元年5月26日（日）第2部 日本平動物園見学
日本平動物園 20名参加

- ・「水族館巡礼」

令和元年9月16日（月・祝）

東海大学海洋科学博物館 23名参加

海洋科学博物館元館長 西源二郎氏、鈴木克美氏

- ・「静岡戦争の記憶－護国神社に市川紀元二像を訪ねる」

令和元年12月10日（火）

静岡県護国神社・静岡平和資料センター 18名参加

元県美学芸員 立花義彰氏 田中文雄氏

(3) 「友の会ひろば」

- ・消しゴムスタンプづくり・にが絵

令和元年11月3日（日・祝）

静岡県立美術館正面 消しゴムスタンプ54人参加
にが絵22人参加

常葉大学造形学部の協力 学生7名参加

- ・その他

県内若手作家のワークショップ・作品展示販売

■研修旅行

(1) 「木下館長お勤めの鎌倉」

令和元年11月13日（水）日帰り旅行

参加人数 45名

(2) 「愛知県に印象派来る！さあ、めくるめく美の舞台へ」

令和2年3月12日（木）日帰り旅行

新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセル多数のため中止

■友の会美術館支援事業

(1) 各種実技支援事業

■情報資料の作成と提供

(1) 友の会だより「プロムナード」発行（各1000部）

- ・第98号（4月15日発行）アトリエ訪問

画家・今堀邦子氏

- ・第99号（7月15日発行）アトリエ訪問

彫刻家・渡辺憲二氏

- ・第100号記念誌（12月15日発行）アトリエ訪問
陶芸家・黒田泰蔵氏

(2) 情報の提供

- ①美術館ニュース「アマリリス」郵送（年4回）
- ②各種催事の情報提供
- ③美術館内掲示板の有効活用
- ④友の会ホームページ
 - ・会員の投稿掲載

■ キッズアートプロジェクトしずおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパスポート」の作製や事業活動へ協賛

■ その他の事業

(1) 会員勧誘キャンペーン

- ①「熊谷守一 いのちを見つめて」期間中
 - ・8月3日、4日 2日間実施
 - 新規入会会員 親子：2 シニア：3（計5名）
- ②賛助会員への働きかけ
 - 新規賛助会員 日本レーベル印刷 令和元年11月加入

(2) 提携等県内美術館との連携

- ・提携美術館を始めとする県内美術館が開催する企画展チラシを会員に配布するとともに、招待状10組を抽選により会員に提供。

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日
改正 平成14年 6月16日
改正 平成20年 2月27日
改正 平成24年 2月28日
改正 平成27年 4月1日
改正 平成29年 4月1日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。
- (2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とする。
- (3) 会員資格の有効期限内における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 1人
- (3) 理事（会長及び副会長を含む）10人以内
- (4) 評議員 15人以内
- (5) 監事 2人

- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。

（役員の職務）

第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

（役員の任期）

第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（専門委員会）

第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

（事務局）

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

（顧問）

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会議）

第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。

- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

（会議の権能）

第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評

議員会の意見を聴かなければならない。

（会議の開催）

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。

2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

（会議の定足数）

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

（会議の議長）

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

（会議の議決）

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（書面の決議等）

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
- (4) 議決事項
- (5) 議決の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

（賛助会員）

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。

- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

（会則の変更）

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

（解散）

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。

- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決に

よりその用途を定めるものとする。

(雑則)

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この変更は、平成24年2月28日から施行する。

附 則

この変更は、平成27年4月1日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特 典 の 種 類	会 員 の 種 類				
	一般会員	親子 (キッズ会員)	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
5 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	○
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレクチャー、友の会主催の事業に参加可能	○	○	○	○ (同伴1名まで)	○
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「ロダン・テラス」のランチ料金が会員本人と同伴者1名5%引	○	○	○	○	○
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	○	○	○	○	○
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
親子(キッズ)会員	(1名) 3,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	(1口) 50,000円

めぐりアート静岡2019

会期：令和元年10月22日（火・祝）～11月10日（日）

※ヒロバは10月19日（土）～11月10日（日）、小梳神社は10月22日（火）

主催：静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市

運営：公益財団法人 静岡市文化振興財団

企画：白井嘉尚（美術家・静岡大学名誉教授）

堀切正人（常葉大学准教授）

川谷承子（静岡県立美術館上席学芸員）

植松篤（静岡県立美術館主任学芸員）

以倉新（静岡市美術館学芸課長）

柚木康裕（オルタナティブスペース・スノドカフェ代表）

事務局：池田博史、長谷川皓大（公益財団法人静岡市文化振興財団）

会場 | 出展作家

東静岡アート&スポーツ／ヒロバ | 御宿至／熊谷

拓明／岩野勝人／千葉広一

静岡県立美術館 | 堀園実

静岡市美術館 | 小左誠一郎

中勘助文学記念館 | 多々良栄里

小梳神社 | きむらとしろうじんじん

■概要

本展は、静岡大学を中心に平成25年度～27年度に行った「めぐりアート静岡」の後継事業として、平成28年より静岡市と静岡市文化振興財団を主催者に加え実施している展覧会である。通算7回目を迎えた今回は、静岡県立美術館、静岡市美術館、中勘助文学記念館、東静岡「アート&スポーツ／ヒロバ」の市内4カ所を会場に、作品の展示が行われた。静岡にゆかりのある若手アーティストを紹介することも本展の大きな特色のひとつで、静岡県立美術館では1985年清水生まれの堀園実による作品4点を展示した。《なみうちぎわの協和音》は、かたどりをした粘土で海岸の風景を表現した作品で、美術館のエントランスホールで思いがけず作品と出会った人々は、さまざまな反応を見せていた。また、今年度より、新たにダンスなどのパフォーマンスアーツを加え、10月20日には市内繁華街の中にある小梳神社境内で、アーティストのきむらとしろうじんじんによる「野点」が行われ、多くの人で賑わった。このほか、会期中各会場で出展作家によるギャラリートークが行われ、ワークショップ、公開制作、食のイベント、ダンス劇などが行われた。

■関連事業（当館学芸員が担当した事業のみ記載）

8月3（土）、4日（日）

きむらとしろうじんじん「野点」プレ事業 お散歩会
10月20日（日）

きむらとしろうじんじん「野点」

11月4日（月・振休）

堀園実ワークショップ「粘土の石をつくって作品に参加しよう」

10：00～12：00 13：30～15：30 午前午後入れ替え

11月4日（月・振休）

堀園実アーティストトーク

10：30～11：00 14：00～14：30

■チラシ

仕様：A4 6ページ

デザイン：望月一弘（ジッカデザイン）

印刷：松本印刷株式会社

■記録集

編集：白井嘉尚（美術家・静岡大学名誉教授）

堀切正人（常葉大学准教授）

川谷承子（静岡県立美術館上席学芸員）

植松篤（静岡県立美術館主任学芸員）

以倉新（静岡市美術館学芸課長）

柚木康裕（オルタナティブスペース・スノドカフェ代表）

発行：公益財団法人静岡市文化振興財団

執筆：編集者と同じ

制作：公益財団法人静岡市文化振興財団

印刷：松本印刷株式会社

仕様：A4 中綴じ 44ページ

目次：05 ごあいさつ

06～37 作家紹介

38 関連イベント

39 アーティストトーク

40 来場者の声

41 成果と課題

42 作品リスト

43 事業一覧・会場案内

広報活動（ホームページを含む）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行っており、平成8年度からは公式ホームページ（ウェブサイト）を開設している。更に近年ではSNSを用いて、時代の潮流に合わせた効果的な情報発信を模索している。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ウェブサイトの運営やSNSの活用について記載する。

■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ウェブサイトへの情報掲載
- ・展覧会等のイベント情報の各メディアへの資料（プレスリリース）提供
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hiほか）
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供
（ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼）
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

■広報委員会

これまで、総務課、学芸課、文化政策課の各担当者を中心とした会議を不定期に館内で開催し、主にアマリスの編集などを行ってきた。平成29年度には活動内容を大幅に見直し、より戦略的に館の広報活動を担う方針となった。

現在は、アマリスの編集に加え、各展覧会の広報サポート、次年度年間スケジュールの制作を行っている。平成30年度にチラシ等広報物の送付先リストを改定したが、一部に不備がみられたため、今年度新たに見直し、より精度の高いものを作成し運用を開始した。

■ウェブサイト

<http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

当館ウェブサイトは、平成8年度末に開設された。平成28年度までの累計アクセス数は4,078,414件であった。平成28年度末のリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法も変更となり、現在はGoogle Analyticsを使用している。今年度は古代アンデス文明展会中にアクセス数が増加した。1年間の結果は以下の通りである。

平成31年4月1日～令和2年3月31日の実績

ユーザー	270,865
セッション	399,026
ページビュー数	1,085,837

（参考）

平成30年度

ユーザー	215,433
セッション	330,339
ページビュー数	950,461

平成29年度

ユーザー	257,236
セッション	391,139
ページビュー数	1,108,771

・リニューアル

平成28年度、適切なスマートフォン表示への対応を主目的としたウェブサイトのリニューアルを行い、平成29年3月30日に新ウェブサイトを開示した。平成29年度末には館蔵品データベースの公開も実現した。今年度も細部について適宜改善しながら運用している。

・ウェブサイトアンケート

ホームページ改善の資料とするため、ウェブサイト上でのアンケートを実施している。回答は専用のメールアドレスで行う。リニューアル後、回答数が大幅に減少している。

■ブログ

<http://blog.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/official/>

「静岡県立美術館ブログ ぶらりプロムナード」を平成23年より公開している。近年は実技室プログラムの活動報告が主な掲載内容である。

■SNS

現在、下記3種のSNSを運用している。展示作品の紹介やワークショップの記事を随時掲載。更新は総務課担当職員を中心に行っている。

・Facebook

<https://www.facebook.com/shizuokakenbi/>
平成26年7月導入。

・Instagram

<https://www.instagram.com/shizuokakenbi/>
平成28年度「蜷川実花」展より導入。

・Twitter

<https://twitter.com/shizuokakenbi>
平成29年度「アートのなぞなぞ」展会期中より導入。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラー

第133（春）号 2019年4月1日発行

- p. 1 表紙 フランチェスコ・ピラネージ《今日、ポンペイの古代遺跡の中にある、イシス神殿の景観》／上席学芸員 新田建史
- p. 2 TOPICS 屏風は絵なのか家具なのか／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 静岡県立美術館ボランティア事始め／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 4 EXHIBITION 屏風爛漫一ひらく、ひろがる、つつみこむ／上席学芸員 石上充代
- p. 5 EXHIBITION 古代アンデス文明展／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 6-7 研究ノート 明治四十三年の川中島合戦 ―小林清親《川中島合戦図屏風》再考―／上席学芸員 石上充代
- p. 7 本の窓『日本再興戦略』／落合陽一著、幻冬舎、2018年／上席学芸員 川谷承子
- p. 8 美術館問わず語り 大人も一緒に／エデュケーショナルスタッフ 見城絵理奈

第134（夏）号 2019年7月1日発行

- p. 1 表紙 山本森之助《海岸》／上席学芸員 村上敬
- p. 2 TOPICS 展示室にいくつものミイラが並んでいたことについて／館長 木下直之
- p. 3 EXHIBITION「熊谷守一 いのちを見つめて」／上席学芸員 泰井良
- p. 4-5 新収蔵品紹介「平成三十年度 新収蔵品・寄贈作品の紹介」／各ジャンル担当者
- p. 6-7 研究ノート 小杉樞郎と大仙陵古墳 ―石本秋園《仁徳天皇陵出土甲冑縮図》をめぐる―／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 7 本の窓『松平定信の生涯と芸術』磯崎康彦著、ゆ

まに書房、2010年／上席学芸員 野田麻美

- p. 8 美術館問わず語り 美術館のサポーターとして／前副館長 瀧昌光

第135（秋）号 2019年10月1日発行

- p. 1 表紙 オーギュスト・ロダン《バ스티アン＝ルパージュ》／学芸課長 三谷理華
- p. 2 TOPICS 浜松になぜ凱旋門が？／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 大屋美那の仕事 ―松方コレクションのロダンの鋳造問題について／武蔵野美術大学教授 黒川弘毅
- p. 4 EXHIBITION「古代への情熱 ―18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」／上席学芸員 南美幸
- p. 5 EXHIBITION「やなぎみわ展 神話機械」／主任学芸員 植松篤
- p. 6-7 研究ノート ピラネージ《ローマ及びカンポ・マルツィオの地図》の解説文に見られる制作態度について／上席学芸員 新田建史
- p. 7 本の窓『この私、クラウディウス』ロバート・グレーヴス著 多田智満子・赤井敏夫訳、みすず書房、2001年／上席学芸員 南美幸
- p. 8 美術館問わず語り モーツァルトのこと／副館長 櫻井昌明

第136（冬）号 2020年1月3日発行

- p. 1 表紙《富士三保松原図屏風》／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 2 TOPICS 芋づる式展覧会鑑賞法／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 移動美術展 開催報告／上席学芸員 野田麻美
- p. 4 EXHIBITION「やなぎみわ展 神話機械」／主任学芸員 植松篤



第134(夏)号



第135(秋)号



第136(冬)号



第137(春)号

-
- p. 5 EXHIBITION「開校100年 きたれ、バウハウス—
造形教育の基礎—」／上席学芸員 川谷承子
- p. 6-7 研究ノート 和田英作《松林（下絵）と岩崎彌
之助高輪邸舞踏室》／上席学芸員 泰井良
- p. 7 本の窓 『ゼロからトースターを作ってみた結果』
トーマス・トゥエイツ著、村井理子訳、新潮文庫、
2015年／上席学芸員 新田建史
- p. 8 職員生活のスタートは美術館から／総務課総務班
主事 高柳智穂

新たな広報チャンネルの開拓

【屏風爛漫展】

- ・県観光協会の協力により、大型連休中にJR駅構内のラックにチラシを配架した。

【古代アンデス文明展】

- ・古代アンデス文明展においては、SNSでの投稿を促すプレゼント企画や夜間開館時間帯の来館者限定の缶バッジプレゼントなど、新たな企画を試みた。

【熊谷守一 いのちを見つめて展】

- ・戸田書店、ジュンク堂書店で熊谷守一展会期中に特別フェアを開催。熊谷氏の関連書籍を置いたコーナーにポスターやチラシを掲出し、展覧会のPRをおこなった。

【古代への情熱展】

- ・静岡朝日テレビの特別広報により、テレビCMによる広報を実施。
- ・草薙夏フェスでは、ブースに訪れた方にへ割引券付きのチラシを配布。
- ・市内7店舗のイタリアンレストランによるポスター掲示及びチラシの配布。
- ・ロダンウィークに合わせてクイズラリーを実施し、本展への誘客を試みた。

【やなぎみわ展 神話機械】

- ・静岡第一テレビの特別広報により、テレビCMによる広報を実施。
- ・12月21日(土)、22日(日)に行われた「ライブパフォーマンス『MM』」の広報のため、静岡県舞台芸術センターや愛知芸術文化センターなど演劇公演を実施している文化施設に向けてチラシを別途送付した。
- ・展示作品のひとつである「無人公演『神話機械 Myth Machines』」に関心を持っていただけるよう、公演の様子を動画で撮影し、SNSにアップした。
- ・草薙冬フェスで、ブースに訪れた方々へ割引券付きのチラシを配布した。
- ・チラシ等配布については、県内の美術館・博物館に加え、県外の現代美術に注力している美術館、県内図書館や公民館等に重点的に配布した。
- ・ロボットを使った展示があったため、ホビー関係や工学関係に対象を広げて広報した。
- ・ネットメディアを開拓し、これまでPRできなかった県内外の層に情報提供を行った。

【その他】

- ・JRで企画した23施設を巡回する「トレイン&ミュージアム」に参加。団体料金を適用した観覧券とポストカードのプレゼントなどを実施し、利用者は370人であった。
- ・一般社団法人日本自動車連盟（JAF）と提携を結び、同法人の機関誌やホームページでの広報を行い、会員への優待サービスには223人の利用があった。

ロダン館展示・イベント

■趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させるためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した「ロダンウィーク」事業を開催した。ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作りを目的に「ロダンウィーク」を、例年事業として定着させることとし、第6回「ロダンウィーク」を開催した。

■概要

- (1) 日時 令和元年11月1日（金）～11月4日（月・振）
- (2) 場所 静岡県立美術館内・正面広場付近

1. 「静岡県文化プログラム」スペシャルトーク×ロダンウィーク

「考える人になるー美術のなかの男性表現について」

11月2日（土）14:00～16:30／講堂

登壇者：宮下規久朗氏（神戸大学大学院人文学研究科教授）、木下直之（当館館長）

参加者：102人

東西の名作を組上に載せ、裸体表現と文化的背景の関係性に触れながら、美術における男性の裸体表現のあり方等について論じあった。考える人像を登場させ、ロダンをめぐる言説からその思考に迫るなど、ロダンへの理解も深まる鼎談となった。

2. サウンドインスタレーション Hommage à Rodin II（ロダンを讃えて）

11月1日（金）～11月4日（月・振）

開館時間中の毎時00分から30分程度再生（コンサート上演時間を除く）／ロダン館

作曲：長谷川慶岳氏（静岡大学教育学部准教授）

主催：静岡県立美術館

協力：静岡大学

来場者：741名

昨年に引き続き、ロダン館で開催されたサウンドインスタレーション。今回使用された楽曲も、本企画のために長谷川慶岳氏によって作曲された。昨年はピアノソロ曲をステレオスピーカーでそのまま再生したが、今回の楽曲はピアノと弦楽器の2声部からなり、間に15メートルほどの距離を設けて設置されたステレオスピーカーの左右より、それぞれを分けて再生した。その結果、二つの方向から異なる旋律が発せられ、あたかもその場で楽器が演奏されているかのような臨場感とともに、立つ位

置によって楽曲の聞こえ方が大きく異なる環境が生み出された。このロダン館の空間を生かした音楽により、ロダン作品についても、来館者に対して新鮮な鑑賞体験を提供できたものと思われる。

3. コンサート ロダンと聴く、愛と死の物語

11月4日（月・振）14:00～／ロダン館

出演者：

大石陽介氏（バリトン）

大石真喜子氏（ソプラノ）

後藤友香理氏（ピアノ）（静岡大学教育学部講師）

長谷川慶岳氏（作曲）（静岡大学教育学部准教授）

演奏曲：

R.レオンカヴァッロ オペラ《道化師》より

トニオのプロローグ「よろしいですか？…よろしいですか？…」

C.F.グノー オペラ《ファウスト》より

マルグリートのアリア「宝石の歌」

G.ヴェルディ オペラ《イル・トロヴァトーレ》より

ルーナ伯爵とレオノーラの二重唱「聞いているな？」

長谷川慶岳 《題名の無い2つの絵 ～ピアノのための～》

ほか

主催：静岡県立美術館

協力：国立大学法人静岡大学

来場者：210名

ロダンウィークに合わせ、ロダンの生涯や作品をテーマにして行われるコンサートは、今回で6回目を迎えた。今年度は《地獄の門》をはじめとするロダン作品にも表現される「愛と死」をテーマに、オペラのアリアなど声楽曲を中心としたプログラムが組まれた。今回の公演では、通常のコンサートで使用する《地獄の門》前の空間に加え、そこに接続する両脇の階段もステージの一部として取り込まれた。歌手が階段を降下しながら歌唱する場面もあり、ロダン館があたかも歌劇場となったかのようで、非常に華やかな舞台となった。多くの来場者を集めて会場を賑わせ、今年度ロダンウィークの掉尾を飾った。



「ロダンと聴く、愛と死の物語」の様子 ▲

4. 「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート

11月3日（日）14:00～15:30／ロダン館

出演者：五条玲緒（ピアノ）

来場者：210名

静岡音楽館AOIが毎年おこなう「静岡の名手たち」オーディション合格者の中から、静岡県立美術館・ロダン館で演奏するにふさわしい演奏家に「ロダン賞」が贈られている。ロダン館を会場に、本年は第23回「ロダン賞」受賞者による演奏会を開催した。



「静岡の名手たち」ロダン賞コンサートの様子 ▲

5. 友の会「友の会ひろば」

11月3日（日）10:00～15:30／美術館前広場

常葉大学の学生による消しゴムはんこ制作指導、が
お絵

参加者：76人

友の会「作家のワークショップ」

11月3日（日）10:00～15:30／美術館前広場

作家のワークショップと販売、作品販売

参加者：158人

6. 静岡大学学生によるギャラリートーク

11月2日（土）11:30～12:30／ロダン館

解 説：・谷充代

・齋藤紫苑

・西ヶ谷彩華

参加者数：30人

静岡大学「比較言語文化各論Ⅰ」の授業として、大学生がロダンについての見識を深め、その成果として、ギャラリートークを行った。



ギャラリートークの様子 ▲

7. 丘の上ロダンマルシェ

11月3日（日）10:00～16:00／美術館前広場

参加者：6,000人

草薙マルシェ実行委員会によるフランス風グルメ、雑貨市20店舗、アートパフォーマンスで、12名が出店した。

8. 呈茶サービス ボランティアによるお茶会

11月4日（月・振）11:00～14:00／正面玄関前

参加者：319名

ボランティア・草薙ツアーグループによるロダンウィーク記念茶会を下記のとおり実施した。美術館プロムナードにある杉山彦三郎記念茶畑産の茶葉を利用して来場者にふるまい、あわせてロダン館を広報した。

9. ロダン館ガイド【ロダン館アプリ】

スマートフォンを利用し、ロダン館彫刻作品の解説を眼と耳でお楽しみいただける「ロダン館アプリ」を静岡県立大学経営情報学部 渡邊研究室の協力のもとに開発した。

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
27	59,350	10,932	712	2,852	185
28	42,386	8,743	1,043	1,405	227
29	35,774	7,827	574	1,446	157
30	28,058	6,452	430	1,096	86
令和元	31,896	5,286	925	782	149
合 計	2,454,426	353,778	189,620	142,824	5,429

元 年 度 月 別 内 訳	4	1,977	526	91	55	7
	5	1,027	378	121	76	20
	6	3,299	450	117	59	24
	7	2,360	400	53	19	21
	8	4,014	359	147	158	8
	9	2,859	200	91	67	18
	10	6,110	562	52	60	10
	11	3,145	855	84	78	14
	12	1,909	661	48	46	9
	1	1,752	381	66	82	9
	2	3,444	514	55	82	9
	3	0	0	0	0	0

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/16(火)	4/21(日)	6	A	無	静岡の森林からはじまる仕事展	静岡木組みの会	638
2	4/23(火)	4/29(月)	7	AB	無	第16回 アトリエ・ニケ展覧会	大森 恵	1,339
3	5/14(火)	5/19(日)	6	AB	無	第56回 静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	1,027
4	6/4(火)	6/9(日)	6	AB	無	二科静岡支部展絵画部	二科会静岡支部	707
5	6/11(火)	6/16(日)	6	AB	無	二科会写真部静岡支部公募展	二科会写真部静岡支部	759
6	6/18(火)	6/23(日)	6	AB	無	2019 静岡県写真愛好者芸術展	静岡県写真愛好者芸術展実行委員会	1,077
7	6/25(火)	6/30(日)	6	AB	無	第41回静岡県自由美術展	静岡県自由美術協会	756
8	7/2(火)	7/7(日)	6	AB	無	第31回 静岡独立展	静岡独立美術協会	840
9	7/10(水)	7/15(月)	6	AB	無	第47回 静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	1,520
10	8/6(火)	8/12(月)	7	AB	無	第84回 静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,116
11	8/20(火)	8/25(日)	6	AB	無	第69回 静岡県水彩画協会展	静岡県水彩画協会	2,018
12	8/27(火)	9/1(日)	6	A	無	庫流きものギャラリー飾り帯結び展	三輪民庫	607
13	8/27(火)	9/1(日)	6	B	無	き・らめく・・・展	きらめくプロジェクト実行委員会	608
14	9/10(火)	9/16(月)	7	AB	無	第45回静岡県フレミッシュ織展、第10回静岡裂織公募展	静岡県フレミッシュ織教室	1,100
15	9/18(水)	9/23(月)	6	AB	無	'19現代書作家展・しずおか	毎日新聞静岡支局	914
16	9/25(水)	9/29(日)	5	AB	無	静岡三軌展2019	三軌会	510
17	10/1(火)	10/6(日)	6	A	無	ヨーロッパ街道物語 旅する画家 奥村ユズル絵画展	奥村 譲	465
18	10/8(火)	10/14(月)	7	AB	無	第42回静岡県日本画展	静岡県日本画連盟	490
19	10/16(水)	10/20(日)	5	A	無	第15回パッチワーク・パフ キルト展	パッチワーク・パフ実行委員会	1,244
20	10/16(水)	10/20(日)	5	B	無	第63回静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	478
21	10/22(火)	10/27(日)	6	AB	無	第37回なつやすみ読書感想画コンクール入賞作品展示会	静岡新聞社	3,192
22	10/29(火)	11/4(月)	7	AB	無	壽鶴の仕事展	壽鶴の仕事展実行委員会	866
23	11/6(水)	11/10(日)	5	AB	無	第67回静岡県高等学校美術・工芸展	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	1,009
24	11/24(日)	12/1(日)	7	AB	無	ふじのくに芸術祭2019（第59回静岡県芸術祭）美術展・写真展	静岡県/静岡県教育委員会/静岡県文化協会	1,846
25	12/10(火)	12/15(日)	6	AB	無	第45回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	1,053
26	12/18(水)	12/22(日)	5	AB	無	ふじのくに芸術祭2019（第59回静岡県芸術祭）学生アートフェスティバル	静岡県/静岡県教育委員会/静岡県文化協会	521
27	1/15(水)	1/19(日)	5	AB	無	第32回特別支援学校高等部合同作品展	静岡県高文連特別支援学校専門部	675
28	1/24(金)	2/2(日)	9	AB	無	第23回静岡県すこやか長寿祭美術展	公益財団法人しずおか健康長寿財団	1,432
29	2/4(火)	2/9(日)	6	AB	無	第41回ジュニア県展	静岡新聞社	1,933
30	2/11(火)	2/16(日)	6	AB	無	常葉大学附属菊川高等学校 美術・デザイン科卒業制作展	常葉大学附属菊川高等学校美術・デザイン科	550
31	2/18(火)	2/24(月)	7	AB	無	第34回千世の会書展	千世の会	606
合 計								31,896

来客者のアクセス満足度

利用交通機関について、令和元年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が64.0%と最も高く、次いで「JR」14.9%、「静鉄電車」8.4%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は64.9%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は68.6%であった。過去5年間の状況を見ると、概ね3割程度の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの、収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり、駐車できるまでに時間がかかるうえ、美術館までの徒歩区間が長くなってしまうことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学や県埋蔵文化財センターの職員駐車場を借用し、美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めて行きたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から当館までは上り坂となっているため、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができることを案内しているものの、バス運行は、1時間に1本であるため利便性が高いとは言い難い。今後はバス会社へ協力要請するなどの検討が必要である。

令和元年度主要記事

- 4月2日 企画展「屏風爛漫—ひらく、ひろがる、つ
つみこむ」(～5月6日)
＜会期中イベント＞
館長美術講座「屏風は絵なのか道具なの
か」
講師：木下直之(当館館長)(4月21日)
美術講座「屏風日和—展覧会見どころ解
説」
講師：石上充代(当館上席学芸員)(4月
13日)
学芸員によるフロアレクチャー(4月7
日、4月27日、5月6日)
- 4月2日 収蔵品展「新収蔵品展」(～5月6日)
学芸員によるフロアレクチャー(4月14
日、5月5日)
- 5月8日 収蔵品展「諸派興隆—18世紀の江戸画壇」
(～6月9日)
学芸員によるフロアレクチャー(5月19
日)
- 5月18日 企画展「古代アンデス文明展」(～7月15日)
＜会期中イベント＞
特別講演会「古代アンデス文明—その誕
生から滅亡まで」講師：篠田謙一氏(国
立科学博物館副館長兼人類研究部長)(5
月18日)
もふもふ♡アルパカが美術館にやってく
る！(5月25日)
館長美術講座「ミュージアムでヒトを展
示することについて」講師：木下直之
(当館館長)(6月9日)
スペシャルコンサート 出演：瀬木貴将
氏(サンボーニャ&ケーナ)、鈴木孝彦氏
(ピアノ)(6月16日)
学芸員によるフロアレクチャー(6月2
日、6月19日、6月22日)
スライドトーク「アンデスに行ったんで
す。」講師：浦澤倫太郎(当館主任学芸員)
- 6月11日 美術館協議会
- 6月11日 収蔵品展「対立と融和—19世紀の江戸画壇」
(～7月15日)
学芸員によるフロアレクチャー(6月23日)
- 6月24日 第三者評価委員会
- 8月2日 企画展「熊谷守一—いのちを見つめて」(～
9月23日)
＜会期中イベント＞
特別講演会「熊谷守一の不思議—二つを一
つに—例えば 日本画と洋画—あるいは 生
と死」講師：古川秀昭氏(前岐阜県美術
館長、OKBギャラリーおおがき館長)
(8月17日)
館長美術講座「熊谷守一の絵のはだかと
スード」講師：木下直之(当館館長)(9
月15日)
学芸員によるフロアレクチャー(8月11
日、8月18日、8月25日、9月1日、9
月8日、9月22日)
- 8月2日 収蔵品展「ポップの系譜」(～10/6)
学芸員によるフロアレクチャー(8月18
日、8月31日)
- 10月2日 企画展「古代への情熱—18世紀イタリア・
考古学と芸術の出会い」(～11月17日)
＜会期中イベント＞
特別講演会「憧れの古代—18世紀イタリ
アを中心に—」講師：青柳正規氏(山梨
県立美術館長)(11月9日)
館長美術講座「凱旋門の話—ローマ、パ
リ、ベルリン、ミラノ、江戸、東京、静
岡、そして浜松に残る」講師：木下直之
(当館館長)(11月10日)
クイズラリー(11月2日～4日)
学芸員によるフロアレクチャー(10月6
日、10月14日、10月20日、10月27日)
- 10月8日 収蔵品展「中澤弘光とその周辺」(～12月15
日)
学芸員によるフロアレクチャー(10月13
日)
- 11月1日 ロダンウィーク(～4日)※一部事業につ
いては10月31日から開始
サウンドインсталレーション「オマージュ
アロダンⅡ」(11月1日～11月4日)
ミニ考える人づくり(10月31日～11月3
日)
ギャラリートーク(11月2日)
ロダン賞コンサート「静岡の名手たち」
(11月3日)
丘の上のロダンマルシェ(11月3日)
友の会主ひろば(11月3日)
コンサート「ロダンと聴く、愛と死の物
語」(11月4日)
草薙ツアーグループ「呈茶サービス」(11

	月 4 日)
11月12日	移動美術展「土・水—大地をめぐる美術」 (～12月 1 日) 講演会「富士山裾野をめぐる美術について」講師：木下直之（当館館長）(11月23日) 学芸員によるフロアレクチャー（11月12日）
11月24日	ふじのくに芸術祭（～12月 1 日）
12月10日	企画展「やなぎみわ展 神話機械」（～2020年 2 月24日） ＜会期中イベント＞ ライブパフォーマンス『MM』構成・演出：やなぎみわ氏（美術家）、出演：高山のえみ氏（俳優）、音楽：内橋和久氏（音楽家）(12月21日～22日) 「やなぎみわアーティスト・トーク」講師：やなぎみわ氏（美術家）(1 月13日) 館長美術講座（対談）「やなぎみわとは誰か？」講師：やなぎみわ氏（美術家）、木下直之（当館館長）(1 月26日) 学芸員によるフロアレクチャー（12月28日、1 月19日、2 月 9 日）
12月17日	収蔵品展「西洋の風景画」（～ 2 月24日） 学芸員によるフロアレクチャー（1 月11日）
通年	創作週間（通算49日） 実技講座（通算 8 日） ロダン館デッサン会（通算20日） ちょこっと体験（通算22日） わくわくアトリエ（通算 4 日） 粘土開放日（通算 9 日、27回） 絵の具開放日（通算 3 日、6 回） 美術館教室（通算48日）

屏風爛漫—ひらく、ひろがる、つつみこむ

2019年4月2日～5月6日

No. 作家名	作品名	時代	材質	形状	所蔵
プロローグ					
1	狩野山雪 富士三保松原図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本墨画	六曲一双	個人蔵
屏風がつくる場1 祝祭の空間					
2	伊藤若冲 樹花鳥獸図屏風	江戸時代（18世紀）	紙本着色	六曲一双	静岡県立美術館
3	石田幽汀 群鶴図屏風	江戸時代（18世紀）	紙本金地着色	六曲一双	静岡県立美術館
4	岡本秋暉 孔雀図屏風	江戸時代（19世紀）	紙本着色	六曲一隻	個人蔵
屏風いろいろ					
5	伝狩野光信 源氏物語図屏風	桃山時代（17世紀）	紙本金地着色	六曲一隻	静岡・華陽院
6	筆者不詳 都鄙図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本着色	八曲一隻	静岡県立美術館
7	中村貞以 朧	昭和9年(1934年)	絹本着色	二曲一双	個人蔵
8	筆者不詳 扇面色紙貼交屏風	江戸時代（17世紀）	紙本金地貼交	六曲一双より一隻	個人蔵
9	徳山玉瀾 山水図押絵貼屏風（山水草花図押絵貼屏風より）	江戸中期（18世紀）	紙本墨画淡彩	六曲一双より一隻	個人蔵
10	小林清親 川中島合戦図屏風（裏面 龍虎墨竹図）	明治43年（1910年）	表：絹本金地着色 裏：紙本墨画淡彩	六曲一双	静岡県立美術館
屏風がつくる場2 季節を愛でる					
11	狩野山雪 四季花鳥図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本着色	六曲一双	個人蔵
12	徳力善雪 子猷訪戴・東坡騎驢図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本墨画着色	六曲一双	静岡県立美術館
13	池上秀畝 夏より秋	大正11年（1922年）	紙本着色	六曲一双	個人蔵
14	荒木十畝 花鳥図	大正10年(1921年)	絹本着色	二曲一双	個人蔵
屏風のかたち1 対であること					
15	筆者不詳 曾我物語 富士巻狩・仇討図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本金地着色	六曲一双	静岡県立美術館
16	狩野永良 西王母・東方朔図屏風	江戸時代（18世紀）	紙本墨画着色	六曲一双	静岡県立美術館
17	長澤蘆雪 瀧に鶴亀図屏風	江戸時代（18世紀）	紙本墨画淡彩	六曲一双	個人蔵
18	都路華香 松風村雨	明治38年（1905年）	絹本着色	六曲一双	個人蔵
屏風のかたち2 ジグザグ					
19	狩野探幽 一ノ谷合戦・二度之懸図屏風	明暦-万治年間（1655-61年）	紙本金地着色	六曲一隻	静岡県立美術館
20	鈴木松年 神武天皇・素盞尊図屏風	明治22年(1889年)	絹本着色	六曲一双	個人蔵
21	長澤蘆雪 赤壁図屏風	江戸時代（18世紀）	紙本墨画淡彩	六曲一双	個人蔵
22	松林桂月 松林山水図屏風	大正11年（1922年）	絹本着色	六曲一双	個人蔵
23	中村岳陵 牡鹿啼く	昭和5年（1930年）	紙本着色	二曲一双	静岡県立美術館
屏風のかたち3 大きいこと					
24	筆者不詳 武蔵野図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本金地着色	六曲一双	静岡県立美術館
25	森川曾文 雪松図屏風	明治31年(1898年)	紙本墨画淡彩	六曲一双	個人蔵
26	長谷川玉純 富士山図屏風	明治～大正時代（19～20世紀）	紙本淡彩	六曲一双	個人蔵
エピローグ					
27	小松均 赤富士	昭和53年（1978年）	紙本着色	二曲一隻二面	静岡県立美術館

古代アンデス文明展

2019年5月18日～7月15日

No.	国	文化	作品名	所蔵先
序章 人類のアンデス到達とその後の生活 紀元前13,000年頃～前3,000年頃				
1	ペルー	パイハン	パイハンの槍先型尖頭器	ラルコ博物館
第1章 アンデスの神殿と宗教の始まり 紀元前3,000年頃～前1,500年頃				
2	ペルー	カラル	未焼成の小型男性人像 レプリカ	カラル遺跡博物館（ペルー文化省・カラル考古学地区コレクション）
3	ペルー	カラル	未焼成の小型男性人像 レプリカ	カラル遺跡博物館（ペルー文化省・カラル考古学地区コレクション）
4・5	ペルー	カラル	線刻装飾のある骨製の笛 レプリカ	カラル遺跡博物館（ペルー文化省・カラル考古学地区コレクション）
6	ペルー	コトシュ	交差した手（男の手） レプリカ	東京大学総合研究博物館
7	ペルー	コトシュ	交差した手（女の手） レプリカ	東京大学総合研究博物館
8	ペルー	コトシュ	交差した手の神殿・ニチットスの神殿の縮小模型	東京大学総合研究博物館
第2章 複雑な社会の始まり 紀元前1,300年～前500年頃				
9	ペルー	チャビン	テーヨのオベリスク レプリカ	国立民族学博物館
10・11	ペルー	チャビン	テノンヘッド	ペルー文化省・国立チャビン博物館
12	ペルー	チャビン	サル人間の図像が彫られた石板	ペルー文化省・国立チャビン博物館
13	ペルー	チャビン	ストロンブスの貝殻で作られたトランペット（プトゥトゥ）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
14	ペルー	チャビン	鳥に似た生物が彫られた石板	ペルー文化省・国立チャビン博物館
15	ペルー	チャビン	幾何学文様のある石製すり鉢	ペルー文化省・国立チャビン博物館
16・17	ペルー	パコパンバ	動物象形石製すり鉢・すり棒	ラルコ博物館
18	ペルー	クピスニケ	自身の首を切る人物の象形鏡型土器	ペルー文化省・国立チャビン博物館
19	ペルー	クピスニケ	ネズミ型象形鏡型土器	リマ美術館
20	ペルー	クピスニケ	刺青またはフェイスペイントをした小像	リマ美術館
21	ペルー	クピスニケ	蛇・ネコ科動物土器	ラルコ博物館
22	ペルー	クントゥル・ワシ	十四人面金冠 レプリカ	クントゥル・ワシ調査団
23	ペルー	クントゥル・ワシ	五面ジャガー金冠 レプリカ	クントゥル・ワシ調査団
24	ペルー	クントゥル・ワシ	金製双子・ジャガー鼻飾り レプリカ	クントゥル・ワシ調査団
25	ペルー	クントゥル・ワシ	金製耳飾り レプリカ	クントゥル・ワシ調査団
第3章 さまざまな地方文化の始まり 紀元前200年頃～紀元後800年頃				
26	ペルー	サリナール	座った男性をかたどった2色鏡型注口土器	ラルコ博物館
27	ペルー	ガイナソ	ガイナソの双胴壺	ラルコ博物館
28	ペルー	モチェ	儀式用ケーブをまとった人間型超自然的存在の像が付いた土器の壺	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
29	ペルー	モチェ	ネコ科動物の毛皮を模した儀式用“ケーブ”	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
30	ペルー	モチェ	ネコ科動物の足をかたどりめっきをほどこした爪を付けた土製品	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館

No.	国	文化	作品名	所蔵先
31	ペルー	モチェ	胴にめっきをし線刻模様を描いたガラガラ	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
32	ペルー	モチェ	アシカをかたどった鏡型単注口土器	ラルコ博物館
33	ペルー	モチェ	リャマの背に乗る男をかたどった土器	ラルコ博物館
34	ペルー	モチェ	ウミガメをかたどった鏡型注口土器	ラルコ博物館
35	ペルー	モチェ	成人男性のリアルな顔が付いた大型壺	ラルコ博物館
36	ペルー	モチェ	チチャ造りをする男女を表した鏡型注口土器	ペルー文化省・国立ブリューニング考古学博物館
37	ペルー	モチェ	金地に象嵌された人面形の装飾品	ペルー文化省・国立博物館
38・39・40	ペルー	モチェ	同じ人物の人生の3つの時期の顔を表現した肖像土器	ラルコ博物館
41	ペルー	モチェ	木製戦闘用棍棒	ラルコ博物館
42	ペルー	モチェ	戦士の坐像が付いた鏡型注口土器	ラルコ博物館
43	ペルー	モチェ	裸の捕虜をかたどった鏡型注口土器	ラルコ博物館
44	ペルー	モチェ	石製棍棒の頭	ラルコ博物館
45	ペルー	モチェ	2柱の主神が描かれた鏡型注口土器	ラルコ博物館
46	ペルー	モチェ	トウモロコシの穂軸の姿をした神を描いた土器	ラルコ博物館
47	ペルー	モチェ	走る人々を螺旋状に描いた鏡型注口土器	ラルコ博物館
48	ペルー	モチェ	モチェの神の肖像土器	ラルコ博物館
49	ペルー	モチェ	船上の海の神をかたどった土器	ラルコ博物館
50	ペルー	モチェ	象嵌のマスク	ペルー文化省・国立博物館
51	ペルー	モチェ	人間型のシカの坐像をかたどった鏡型注口土器	ラルコ博物館
52	ペルー	モチェ	裸の男性の背中にネコ科動物がおぶさった鏡型注口土器	ラルコ博物館
53	ペルー	モチェ	死んだ男性と生きている女性の性行為を描写した鏡型注口土器	ラルコ博物館
54	ペルー	モチェ	シカを背負う死者をかたどった鏡型注口土器	ラルコ博物館
55	ペルー	モチェ	擬人化したネコ科動物 レプリカ	在日ペルー共和国大使館
56	ペルー	モチェ	戦士の像付き黄金の耳飾り レプリカ	個人蔵
57	ペルー	パラカス	刺繍マント	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
58	ペルー	ナスカ	4つの首が描かれた土製内弯鉢	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
59	ペルー	ナスカ	植物を身につけた人間型神話的存在が描かれたヒョウタン容器	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
60	ペルー	ナスカ	髪の毛とスポンデュルスの貝殻製ネックレス	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
61	ペルー	ナスカ	階段状基壇建築の土製ミニチュア模型	ディダクティコ・アントニーニ博物館
62	ペルー	ナスカ	クモが描かれた土器	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
63	ペルー	ナスカ	2匹の魚が描かれた土製の皿	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
64	ペルー	ナスカ	縄をかけられたラクダ科動物（リャマ？）が描かれた土製の皿	ディダクティコ・アントニーニ博物館
65	ペルー	ナスカ	持ち手紐の付いた織物バッグ（コカ袋？）	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
66	ペルー	ナスカ	房の付いた織物バッグ	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」

No.	国	文化	作品名	所蔵先
67	ペルー	ナスカ	意図を巻き付けた房が付いたコカ袋	ディダクティコ・アントニーニ博物館
68	ペルー	ナスカ	幾何学文様の織物ベルト	ディダクティコ・アントニーニ博物館
69	ペルー	ナスカ	使用痕のある木製農具	ディダクティコ・アントニーニ博物館
70	ペルー	ナスカ	11本の管を持つ大型の土製パンパイプ（アンタラ）	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
71	ペルー	ナスカ	帽子と胸飾りを身につけた人物の木像	ディダクティコ・アントニーニ博物館
72	ペルー	ナスカ	人間型神話的存在が描かれた双注口壺	ディダクティコ・アントニーニ博物館
73	ペルー	ナスカ	ネコ科動物の特徴を持つ人間型神話的存在が描かれた土製の鉢	ディダクティコ・アントニーニ博物館
74	ペルー	ナスカ	8つの顔で装飾された砂時計型土器	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
75	ペルー	ナスカ	幾何学文様と2つの顔がある背の高い土器	ペルー文化省・イカ地方博物館「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
76	ペルー	ナスカ	投槍器を持つ2人の男が描かれた背の高いコップ型土器	ディダクティコ・アントニーニ博物館

第4章 地域を超えた政治システムの始まり 紀元後500年～後1,375年頃

77～83	ボリビア	ティワナク	カラササヤで出土した金の儀式用装身具	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
84	ボリビア	ティワナク	かみあう犬歯が生えた髑髏をかたどった銀の葬送用冠	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
85	ボリビア	ティワナク	黒色玄武岩製のチャチャブマ（神話的な人間型ネコ科動物）彫像	ティワナク遺跡石彫博物館
86	ボリビア	ティワナク	2人の男性の顔が彫られたティワナク様式の石のブロック	国立考古学博物館/ボリビア
87	ボリビア	ティワナク	リャマをかたどった土製香炉	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
88	ボリビア	ティワナク	ネコ科動物をかたどった多彩色土製香炉	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
89	ボリビア	ティワナク	ネコ科動物をかたどった多彩色土製香炉	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
90	ボリビア	ティワナク	ネコ科動物をかたどった儀式用香炉	国立考古学博物館/ボリビア
91	ボリビア	ティワナク	ネコ科動物をかたどった多彩色香炉	国立考古学博物館/ボリビア
92	ボリビア	ティワナク	猛禽類の頭を持つ神話的存在が描かれた多彩色土製ケロ	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
93	ボリビア	ティワナク	ティワナク様式の多彩色ケロ	国立考古学博物館/ボリビア
94	ボリビア	ティワナク	コカを噛む男の多彩色肖像土器	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
95	ボリビア	ティワナク	装飾付き吸入用匙	国立考古学博物館/ボリビア
96	ボリビア	ティワナク	猛禽類をかたどった土製浅鉢	国立考古学博物館/ボリビア
97	ボリビア	ティワナク	ティワナク様式の木製嗅ぎタバコ皿	国立考古学博物館/ボリビア
98	ボリビア	ティワナク	ストラップが付いたつづれ織のバッグ	国立考古学博物館/ボリビア
99	ボリビア	ティワナク	四つの突起のある帽子	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
100	ボリビア	ティワナク	猛禽類の特徴を持つ神話的存在2体が描かれた土製深鉢	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
101	ボリビア	ティワナク	3匹のネコ科動物が描かれた土製深鉢	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビアラパス市
102	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土した儀礼用献酒容器	国立考古学博物館/ボリビア
103	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土した儀礼用献酒容器	国立考古学博物館/ボリビア
104	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土した肖像土器	国立考古学博物館/ボリビア
105	ボリビア	ティワナク	放射状に光線を放つティワナク主神の顔が付いた土製のケロ（儀式用飲料容器）	国立考古学博物館/ボリビア

No.	国	文化	作品名	所蔵先
106	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土したオウムの象形土器	国立考古学博物館/ボリビア
107	ボリビア	ティワナク	カモを持つ男性の象形土器	国立考古学博物館/ボリビア
108	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土した女性坐像型土器	国立考古学博物館/ボリビア
109	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土した太い胴を持つ男性の象形土器	国立考古学博物館/ボリビア
110	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土したカボチャ状の胴を持つ男性の象形土器	国立考古学博物館/ボリビア
111	ボリビア	ティワナク	バリティ島で出土した台部が人頭の儀礼用鉢	国立考古学博物館/ボリビア
112	ペルー	ワリ	杖を持つ神が描かれた多彩色壺	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
113	ペルー	ワリ	「杖を持つ神」が描かれた多彩色壺	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
114	ペルー	ワリ	土製のコップ	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
115	ペルー	ワリ	文化英雄モチーフが描かれた多彩色鉢	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
116	ペルー	ワリ	横向きの従者が描かれた多彩色鉢	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
117	ペルー	ワリ	植物モチーフで飾られた多彩色鉢	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
118-1 118-2	ペルー	ワリ	人間の顔が描かれた多彩色鉢	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
119	ペルー	ワリ	土製のリャマ像	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
120	ペルー	ワリ	多彩色装飾のある双胴壺	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
121	ペルー	ワリ	杖を持つ神の顔が描かれた多彩色の竪琴型コップ	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イポリト・ウナヌエ」
122	ペルー	ワリ	多彩色の水筒型壺	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
123	ペルー	ワリ	多彩色の水筒型壺	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
124	ペルー	ワリ	葦に毛糸を巻いて作られた葬送用頭飾り	ディダクティコ・アントニーニ博物館
125	ペルー	ワリ	茎にラクダ科動物の繊維を巻いたパンパイプ（アンタラ）	ディダクティコ・アントニーニ博物館
126	ペルー	ワリ	つづれ織のチュニック	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
127	ペルー	ワリ	チュニックの一部（?）	天野プレコロンビアン織物博物館
128	ペルー	シカン	ワリのキープ	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
129	ペルー	シカン	金の胸飾り	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
130	ペルー	シカン	鉢形の金の器	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
131～135	ペルー	シカン	打ち出し技法で装飾をほどこした金のコップ（アキリャ） 5点セット	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
136	ペルー	シカン	細かい細工が施された金の装飾品	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
137	ペルー	シカン	細かい装飾が施された銀の浅鉢	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
138	ペルー	シカン	打ち出し技法でシカン神を描写した金の飲料容器（アキリャ）	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
139	ペルー	シカン	シカン神が線刻されたヒ素青銅鑄造刃先	ペルー文化省・国立シカン博物館
140	ペルー	シカン	金めっきした儀式用ナイフ（トゥミ）	ペルー文化省・国立シカン博物館
141	ペルー	シカン	貝殻と鉾物ビーズで作られたU字形の胸飾り	ペルー文化省・国立シカン博物館
142	ペルー	シカン	貝殻と鉾物ビーズで作られたU字形の胸飾り	ペルー文化省・国立シカン博物館
143・144	ペルー	シカン	ロロ神殿「西の墓」の中心被葬者の仮面と頭骨	ペルー文化省・国立シカン博物館

No.	国	文化	作品名	所蔵先
145～147	ペルー	シカン	人間型の土製小像3体	ペルー文化省・国立シカン博物館
148・149	ペルー	シカン	海岸カハマルカ様式の水差しと皿	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
150	ペルー	シカン	土器に星形模様を付けるためのへら	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
151	ペルー	シカン	装飾付きの壺	ペルー文化省・国立シカン博物館
152	ペルー	シカン	生まれたての仔犬をくわえた親犬をかたどった単注口土器	ペルー文化省・国立シカン博物館
153	ペルー	シカン	リャマの頭部をかたどった黒色壺	ペルー文化省・国立シカン博物館
154	ペルー	シカン	2種類の超自然的存在の4つの顔が付いた壺	天野プレコロンビアン織物博物館
155	ペルー	チャンカイ	頭を覆う布	天野プレコロンビアン織物博物館
156	ペルー	チャンカイ	織物	天野プレコロンビアン織物博物館
157	ペルー	チャンカイ	図案サンプル	天野プレコロンビアン織物博物館
158	ペルー	チャンカイ	コップを持った男性の坐像をかたどった2色（白黒）の手捏ね土器	天野プレコロンビアン織物博物館
159	ペルー	チャンカイ	2色の装飾と魚の付いた円筒瓶	天野プレコロンビアン織物博物館

第5章 最後の帝国—チムー王国とインカ帝国 紀元後1,100年頃～1,572年

160・161	ペルー	チムー	木製柱状人物像	ペルー文化省・チャンチャン遺跡博物館
162	ペルー	チムー	人間をかたどった祭祀用の杯（容器）	リマ美術館
163	ペルー	チムー	儀礼用ガラガラ付き銀合金製品	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
164	ペルー	チムー	木製のミニチュア建築物模型	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
165	ペルー	チムー	木製の葬送行列のミニチュア模型	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
166	ペルー	インカ	インカの象徴的なアリバロ壺	ラルコ博物館
167	ペルー	チムー・インカ	淡水エビをかたどった金銀製鍍型注口容器	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
168・169	ペルー	インカ	金合金製の小型人物像（男性と女性）	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
170	ペルー	インカ	インカ帝国のチャチャポヤス地方で使われたキープ	ペルー文化省・ミイラ研究所・レイメバンバ博物館
171・172	ペルー	インカ・コロニアル	植民地期の多彩色ケロ	ラルコ博物館

第6章 身体から見たアンデス文明

173・174	ペルー	モチェ	人物象形土器の断片	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
175	ペルー	チリバヤ	開頭術の跡のある男性頭骨	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
176	ペルー	チリバヤ	変形頭蓋（小児）	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
177	ペルー	チリバヤ	変形頭蓋	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
178	ペルー	チリバヤ	変形頭蓋	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
179	ペルー	ワリ	ミイラ	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
180～187	ペルー	チリバヤ	男児のミイラとその副葬品	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
188～195	ペルー	チリバヤ	少女のミイラとその副葬品（女性幼児）	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館

熊谷守一 いのちを見つめて

2019年 8 月 2 日～ 9 月23日

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法	所蔵
第 1 章 画家・熊谷守一の誕生					
1	裸体人物	1902（明治35）年	油彩・カンヴァス	80.0×60.0	東京藝術大学
2	腰かけた女	1903（明治36）年	油彩・カンヴァス	43.0×33.7	岐阜県美術館
4	婦人半身像	1905（明治38）年	油彩・カンヴァス	45.6×33.3	岐阜県美術館
5	蠟燭（ローソク）	1909（明治42）年	油彩・カンヴァス	60.7×45.5	岐阜県美術館
6	ランプ	1910（明治43）年	油彩・カンヴァス	45.5×33.5	
6_参考1	守一からの手紙				
6_参考2	守一還暦祝いの写真				
6_参考3	第27回二科美術展覧会 絵葉書				
6_参考4	第27回二科美術展覧会 招待券				
7	林文右衛門像	1910（明治43）年頃	油彩・カンヴァス	40.5×32.5	
8	父の像	1910～15（明治43～大正4）年	油彩・カンヴァス	44.0×37.0	岐阜市
9	赤城の雪	1916（大正5）年	油彩・カンヴァス	24.5×33.8	岐阜県美術館
10	ポプラ並木	1919（大正8）年	油彩・板	24.0×19.0	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
11	松林	1920～30（大正9～昭和5）年	油彩・カンヴァス	53.2×45.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
12	松林	1928（昭和3）年	油彩・カンヴァス	45.2×38.0	岐阜県美術館
13	赤牡丹	1929（昭和4）年	油彩・カンヴァス	27.0×41.0	
14	男の顔	1930（昭和5）年頃	油彩・板	32.9×23.8	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
15	あやめ	1930～40（昭和5～15）年	油彩・板	23.8×33.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
16	秋風景	1930～40（昭和5～15）年	油彩・板	33.4×24.3	
17	裸婦	1930～40（昭和5～15）年	油彩・板	14.7×9.7	
18	立つ裸婦	1930（昭和5）年頃	油彩・板	33.1×23.8	
19	裸婦	1930～40（昭和5～15）年	油彩・板	32.9×23.7	
20	裸婦	1930～40（昭和5～15）年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館 寄託
21	高原の秋	1935（昭和10）年頃	油彩・板	37.9×45.5	豊田市美術館
23	大島	1935（昭和10）年	油彩・板	24.0×33.0	埼玉県立近代美術館
24	裸婦	1936（昭和11）年頃	油彩・板	18.0×14.0	東京藝術大学
第 2 章 「モリカズ様式」へ					
25	最上川上流	1936（昭和11）年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 かみや美術館
27	富士	1937（昭和12）年	油彩・板	24.0×33.0	
28	少女	1938（昭和13）年	油彩・板	33.4×24.2	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
29	顔	1940（昭和15）年頃	油彩・板	33.0×24.0	

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法	所蔵
30	安良里港	1940（昭和15）年	油彩・板	27.3×45.5	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
31	伊豆堂ヶ島	1940（昭和15）年	油彩・板	24.3×33.0	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
32	裸婦	1943（昭和18）年頃	油彩・板	33.0×23.8	
33	海	1947（昭和22）年	油彩・板	23.9×32.6	
34	椿	1948（昭和23）年	油彩・板	33.3×23.6	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館 寄託
35	風景（蓼科高原大池）	1948（昭和23）年頃	油彩・板	10.5×15.0	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
36	熱海	1948（昭和23）年	油彩・板	24.3×33.4	天童市美術館 寄託
37	横の裸女（海辺）	1950（昭和25）年	油彩・板	24.2×33.0	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
38	磯	1952（昭和27）年	油彩・板	23.6×33.2	久留米市美術館
40	土饅頭	1954（昭和29）年	油彩・板	31.6×40.9	北九州市立美術館
41	御嶽	1954（昭和29）年	油彩・板	24.2×33.3	岐阜県美術館
42	紅葉	1954（昭和29）年	油彩・板	23.9×33.3	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
43	草人	1955（昭和30）年	油彩・板	31.0×40.0	天童市美術館 寄託
44	ヤキバノカエリ	1956（昭和31）年	油彩・カンヴァス	50.0×60.5	岐阜県美術館
45	五色沼	1956（昭和31）年頃	油彩・板	23.7×33.0	天童市美術館 寄託
46	玩具	1957（昭和32）年	油彩・板	24.3×33.4	
48	裸	1958（昭和33）年	油彩・板	33.2×24.1	
49	朝日	1958（昭和33）年	油彩・カンヴァス	33.4×24.3	岐阜市
50	富士山	1958（昭和33）年	油彩・板	24.3×33.3	天童市美術館 寄託

第3章 いのちを描く

花					
51	牡丹	1952（昭和27）年	油彩・板	24.3×33.4	
52	山茶花	1956（昭和31）年	油彩・板	33.0×24.1	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
54	かたばみにいぬのふぐり	1958（昭和33）年	油彩・板	24.2×33.4	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館 寄託
55	茶の花	1958（昭和33）年	油彩・板	24.3×33.4	
56	椿	1959（昭和34）年	油彩・カンヴァス	3.3×4.0	
57	つばきの花	1959（昭和34）年	油彩・板	24.3×33.4	
58	つつじ	1959（昭和34）年	油彩・板	32.5×23.5	婦人之友社
59	梅雨（露）	1959（昭和34）年	油彩・カンヴァス	32.0×41.9	天童市美術館 寄託
60	山椿	1960（昭和35）年	油彩・板	33.0×23.7	名古屋市美術館
62	きのこ	1961（昭和36）年	油彩・板	24.3×33.4	
63	ひまわり	1962（昭和37）年	油彩・板	33.2×24.0	天童市美術館 寄託
64	水仙	1963（昭和38）年	油彩・板	33.4×24.2	
65	鴨跖草	1964（昭和39）年	油彩・板	33.3×24.2	住友コレクション 泉屋 博古館分館

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法	所蔵
66	たんぽぽとみつ葉	1965（昭和40）年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 泉美術館
67	あやめ	1967（昭和42）年	油彩・板	24.0×33.0	
68	あさがを	1967（昭和42）年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
69	芍薬	1968（昭和43）年	油彩・板	23.8×33.2	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
70	為朝百合	1969（昭和44）年	油彩・板	24.3×33.4	
いきもの					
71	かまきりとひがん花	1958（昭和33）年	油彩・板	32.5×23.5	婦人之友社
73	げんげに虻	1959（昭和34）年	油彩・板	24.3×33.3	佐助文庫
74	蟬	1961（昭和36）年	油彩・板	22.0×15.0	婦人之友社
75	ほたるぶくろ	1961（昭和36）年	油彩・板	33.2×24.1	静岡県立美術館
76	つゝちに揚羽蝶	1962（昭和37）年	油彩・板	15.7×22.8	
77	鬼百合に揚羽蝶	1959（昭和34）年	油彩・カンヴァスに 紙	45.8×35.4	東京国立近代美術館
78	夏水仙に蝶	1965（昭和40）年	油彩・板	33.4×24.3	
79	豆に蟻	1958（昭和33）年	油彩・板	24.3×33.4	
80	蟻	1970（昭和45）年	油彩・板	24.0×33.0	
82	鳥	1935（昭和10）年頃	油彩・カンヴァス	53.3×65.5	名古屋市美術館
83	大巖寺の鶴の森	1947（昭和22）年	油彩・板	33.0×21.0	天童市美術館
84	母鶏	1954（昭和29）年	油彩・板	24.0×33.2	岐阜県美術館
85	鳥と椿	1962（昭和37）年	油彩・板	24.0×33.0	
86	若葉	1965（昭和40）年	油彩・板	23.3×32.5	
87	はぜ紅葉	1965（昭和40）年	油彩・カンヴァス	31.8×39.3	佐助文庫
88	きんけい鳥	1966（昭和41）年	油彩・カンヴァス	61.0×45.5	神奈川県立近代美術館
89	黒つぐみ	1966（昭和41）年	油彩・板	33.0×24.0	
90	椿	1966（昭和41）年	油彩・板	24.0×33.0	
91	野良仔猫	1955（昭和30）年	油彩・板	23.7×33.2	
92	茄子と仔猫	1961（昭和36）年	油彩・板	23.8×33.0	
93	くろ猫	1962（昭和37）年	油彩・板	24.1×33.2	
94	うさぎ	1962（昭和37）年	油彩・板	22.0×15.0	婦人之友社
95	兎	1965（昭和40）年	油彩・紙	35.5×49.5	天童市美術館 村山祐太 郎コレクション
96	金魚	1940（昭和15）年頃	油彩・板	21.2×33.4	天童市美術館 村山祐太 郎コレクション
97	蝦蟇	1940～50（昭和15～ 25）年	油彩・板	12.6×20.4	中津川市
98	稚魚	1958（昭和33）年	油彩・板	24.2×33.3	天童市美術館
99	亀	1958（昭和33）年	油彩・板	24.3×33.4	
100	石亀	1958（昭和33）年	油彩・板	24.2×33.4	

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法	所蔵
101	稚魚群遊之図	1960（昭和35）年	油彩・板	24.3×33.3	天童市美術館

第4章 80歳を超えて

102	夏の月	1961（昭和36）年	油彩・板	33.3×23.8	埼玉県立近代美術館
103	裸婦	1961（昭和36）年	油彩・カンヴァス	40.2×52.2	豊田市美術館
104	童子遊魚の図	1961（昭和36）年	油彩・板	24.3×33.4	
105	紅葉	1961（昭和36）年	油彩・板	24.3×33.3	
106	畳の裸婦	1962（昭和37）年	油彩・カンヴァス	39.5×52.0	東京国立近代美術館
107	夕月	1962（昭和37）年	油彩・カンヴァス	15.7×22.4	
108	瓜	1964（昭和39）年	油彩・板	24.0×33.2	公益財団法人 ひろしま美術館
109	柚	1966（昭和41）年	油彩・板	31.8×40.8	
110	あやめ	1967（昭和42）年	油彩・板	33.4×24.3	中津川市
111	茄子	1968（昭和43）年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 泉美術館
112	林檎	1968（昭和43）年	油彩・板	15.8×22.6	
113	山ぶどうを	1969（昭和44）年	油彩・板	15.8×22.7	
114	宵月	1966（昭和41）年	油彩・板	33.2×24.0	佐助文庫
115	朝のはぢまり	1969（昭和44）年	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館
116	夕映	1970（昭和45）年	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館
117	石亀	1970（昭和45）年	油彩・板	15.9×22.7	
118	新神楽	1970（昭和45）年	油彩・板	24.2×33.5	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
119	揚羽蝶に百日草	1971（昭和46）年	油彩・板	33.4×24.3	
120	薔薇	1971（昭和46）年	油彩・板	33.5×24.1	公益財団法人 ひろしま美術館
121	野草	1972（昭和47）年	油彩・板	24.0×33.5	住友コレクション 泉屋 博古館分館
122	熊蜂	1972（昭和47）年	油彩・板	22.7×15.8	
123	朝日	1972（昭和47）年	油彩・板	33.5×24.3	公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
124	アンセリウム	1973（昭和48）年	油彩・板	33.2×24.0	天童市美術館 寄託
125	牛	1973（昭和48）年	油彩・板	22.2×15.3	婦人之友社
126	つゆ草	1973（昭和48）年	油彩・板	22.6×15.8	
127	尾長にいちじく	1974（昭和49）年	油彩・板	33.4×24.3	公益財団法人 ウッドワ ン美術館
128	あぢさい	1975（昭和50）年	油彩・板	24.0×33.2	

第5章 守一とともに 日本画・書・素描・遺品

129	猫	1960（昭和35）年頃	紙本墨画淡彩	42.2×54.2	
130	猫	1955～60（昭和30～ 35）年	紙本墨画淡彩	41.6×50.6	
131	野菜	1960（昭和35）年頃	紙本墨画淡彩	67.7×41.0	
132	素吾に蝦蟆	1960（昭和35）年	紙本墨画淡彩	45.3×60.7	

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法	所蔵
133	薔薇に揚羽蝶	年代不詳	紙本墨画淡彩	53.0×45.4	
134	蟪蛄	年代不詳	紙本墨画淡彩	35.0×39.0	
135	さつまいも	年代不詳	紙本墨画淡彩	44.8×58.3	
136	百日草	年代不詳	紙本墨画淡彩	50.5×39.5	
137	赤蝦蟇	1976（昭和51）年	紙本墨画淡彩	50.5×61.0	
138	ちぞう	1976（昭和51）年	紙本墨画	68.9×45.7	
139	日輪	1976（昭和51）年	紙本朱墨画	45.5×38.0	
140	南無阿彌陀佛	年代不詳	紙本墨書	117.1×33.9	
141	五風十雨	1976（昭和51）年	紙本墨書	64.9×33.6	
142	ぐるりと…七福神…	1974（昭和49）年	紙本墨書	40.8×31.8	
143	龍吟水	1974（昭和49）年	紙本墨書	32.0×67.2	
144	不詳（茸）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
146	不詳（豆柿）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	22.8×17.1	世田谷美術館
148	不詳（とんぼ）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	22.8×17.3	世田谷美術館
150	不詳（カタツムリ、菊スイ、白い蝶、蝶）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	22.7×17.0	世田谷美術館
152	不詳（カブト虫、木の子）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	22.7×17.1	世田谷美術館
154	不詳（ひきがえる）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	17.2×22.8	世田谷美術館
156	不詳（金魚、睡蓮、蟻、蟋蟀）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	22.8×17.1	世田谷美術館
158	不詳（ネズミ）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	12.8×17.2	世田谷美術館
160	不詳（裸）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
162	不詳（壺、王将、釘抜き、金槌）	1955（昭和30）年頃	鉛筆・紙	22.8×17.2	世田谷美術館
164	土人形（金太郎）				公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館
165	道具箱				公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館 寄託
166	道具箱の中身				公益財団法人 熊谷守一 つけち記念館 寄託
167	日本画用の硯				
168	画材				
169	画材				
170	画材				
171	赤鉛筆、黒鉛筆、ナイフ二種				
172	木炭、ヘラ二種				
173	油彩画用の板、二種（6号、8号）				

「古代への情熱－18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」展

2019年10月2日～11月17日

* 書籍は、前期（10月2日～10月27日）・後期（10月29日～11月17日）で頁替えを行った。

* No. 18-20は前期、No. 18-21は後期に展示した。

* No. 51の第1巻は前期、第2巻は後期に展示した。

* No. 17は下記のとおり展示替えした。前期（10月2日～20日）：1-12、中期（10月22日～11月4日）：13-24、後期（11月6日～17日）：25-30。

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法（cm）	所蔵者
I 都市ローマ						
1 理想とあこがれのローマ						
1	1634年	ヘルマン・ファン・スワーネフェルト	ヴィーナスとローマの神殿およびコンスタンティヌス凱旋門の見えるローマの景観	キャンヴァス、油彩	52×67	国立西洋美術館
2	1643－46年頃	ステーファノ・デッラ・ベッラ	『さまざまな風景』 2-1 遺跡を眺めるふたりの巡礼者 2-2 素描家と羊飼	紙、エッチング	11.8×25.9 11.8×26.0	国立西洋美術館
3	1646年頃	ステーファノ・デッラ・ベッラ	前景にコリント式柱頭が描かれた風景（『ローマの風景と遺跡』より）	紙、エッチング	13.7×13.6 12.8×12.8 （イメージ）	町田市立国際版画美術館
4	1630年代後半	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	キャンヴァス、油彩	99.7×133.3	静岡県立美術館
5	1669－71年	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼	キャンヴァス、油彩	68.5×49.5	静岡県立美術館
6	17世紀	シャルル・コルネリス・ド・ホーホ	廃墟の風景と人物	板、油彩	33.0×29.5	東京富士美術館
7	17世紀	ピエール・パテル	古典的な風景	キャンヴァス、油彩	22.0×33.0	東京富士美術館
8	17世紀	アンジェエルッチョ	ヴィコヴァロの眺め	キャンヴァス、油彩	62.0×76.0	東京富士美術館
2 考古学的アプローチと芸術						
9	1559年	アントニオ・ラバコ	『ローマ建築の復元』	紙、エッチング	42.7×28×1.7	金沢工業大学ライブラリーセンター
10	1569年	ジョヴァンニ・アントニオ・ドシオ	『古代ローマ建築図集』	紙、エッチング	19.3×26.5×1.5	国立西洋美術館
11	1590年	ドメニコ・フォンタナ	『ヴァティカンのオペリスクの輸送について』	紙、エッチング	41.2×28×3	金沢工業大学ライブラリーセンター
12	1650－75年？	ジョヴァンニ・ジャコモ・デ・ロッシ ピエトロ・サンティ・バルトーリ	『ジョヴァンニ・デ・メディチ伝』	紙、エッチング	26.1×34.9×1.2	個人
13	1676年（出品作は1680年刊）	ジョヴァンニ・ピエトロ・ベッローリ ピエトロ・サンティ・バルトーリ	『フラミニア街道にあるクイントゥス・ナソニウス・アンブrosiusの墓の古代絵画』	紙、エッチング	33.5×23×1.8	静岡県立美術館
14	1690年	ジョヴァンニ・ピエトロ・ベッローリ ピエトロ・サンティ・バルトーリ	『ローマの遺跡に今日まで残る皇帝たちの古く著名な凱旋門』	紙、エッチング	48.9×32.7×3.3	個人
15	1694年	カルロ・フォンタナ	『ヴァティカン寺院とその起源について』（第2巻）	紙、エッチング	44.5×32.5×5	金沢工業大学ライブラリーセンター
16	1736年	リドルフィーノ・ヴェヌーティ	『古代ローマ古典コレクション銅版画選集』	紙、エッチング	43×32×4.2	静岡県立美術館
17	1748年	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『共和制および帝政初期時代のローマの遺跡（古代ローマの廃墟および建造物景観）』	紙、エッチング	24×35.8 23.9×35.7 24.0×35.5	金沢工業大学ライブラリーセンター
			リミニの橋の側面に見られる碑文、そして本作品集のインデックス		23.8×35.6	
			ネルウァのフォロの一角		13.7×26.8	
			ティトゥスの凱旋門		13.2×26.3	
			雷神ユピテルの神殿		13.6×26.9	
			セバスティアノ門の脇にあるドゥルーススのアーチ		13.6×27.0	
			コンスタンティヌス凱旋門		13.2×26.4	
			ユピテル・スタトルの神殿の痕跡		13.6×27.1	

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法 (cm)	所蔵者
			17-11 ヤヌスの神殿		13.2×26.5	
			17-12 コロッセオと呼ばれるフラ ウィウス円形闘技場		13.5×27.2	
			17-13 セプティミウス・セウェル ス凱旋門		12.6×25.7	
			17-14 ポンテ・ロトと呼ばれている、 ポンテ・セナトリオの景観		12.7×25.8	
			17-15 アウグストゥスのフォロ (扉) 第2部 ローマ市外 にある古代ローマの遺跡		13.3×26.7	
			17-16 リミニの橋		13.2×26.4	
			17-17 リミニの凱旋門		13.4×26.4	
			17-18 リミニの凱旋門		13.7×27.0	
			17-19 スキピオ家の墓		13.6×27.4	
			17-20 古代のアッピア街道の一部		13.7×27.2	
			17-21 カボ・ディ・ボーヴェと呼 ばれるメッラの墓		13.7×27.2	
			17-22 イストリアのボラにある神殿		12.5×25.7	
			17-23 イストリアのボラにある神 殿の裏側		12.5×25.8	
			17-24 イストリアのボラにある円 形闘技場		13.1×26.4	
			17-25 イストリアのボラにある凱旋門		13.0×26.3	
			17-26 ヴェローナの円形闘技場		13.0×26.4	
			17-27 フォリーニョとスポレートのあい だにあるクリトゥムヌスの神殿		13.1×27.1	
			17-28 アルバーノにあるクリアティ ウス三兄弟の墓		13.5×26.8	
			17-29 アンコーナにあるトラヤヌ ス帝の凱旋門		13.1×27.2	
			17-30 ガリエヌスの凱旋門		13.6×27.2	
18	1756年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『ローマの古代遺跡』	紙、エッチ ング	46.5×67.5	町田市立国際版 画美術館
			18-1 ローマの地図 (第1巻 II)		46.6×38.2	
			18-2 古代ローマ大理石地図の破 片 (1) (第1巻 III)		46.0×38.4	
			18-3 古代ローマ大理石地図の破 片 (2) (第1巻 IV)		13.9×27.0	
			18-4 ティトゥス浴場址の景観 (第1巻 XXVIII 図1)		11.2×27.1	
			18-5 ディオクレティアヌスおよ びマクシミヌスの浴場の遺 構 (第1巻 XXVIII 図2)		15.1×28.3	
			18-6 パラティーノの丘の皇帝宮 殿の遺跡 (第1巻 XXXV 図1)		13.6×20.0	
			18-7 パラティーノの丘のクラウ ディア水道に通じるアーチ 跡 (第1巻 XXXV 図2)		(上)42.4×59.4 (下)43.3×56.2	
			18-8 ローマ地勢図 (第1巻 XX XVIII)		46.4×47.5	
			18-9 古代フォロ・ロマーノの地 図 (第1巻 XLIII)		40.0×48.2(図) 5.1×48.5(詞書)	
			18-10 アウグストゥス家のものと 思われていた、3つの墓室 (第2巻 XL)		40.2×60.8	
			18-11 古代のマルス競技場 (第 3巻 II)		60.5×40.3	
			18-12 古代のカッシア街道沿い、 ポポロ門外の墓の景観 (第 3巻 XIV)		39.7×59.9	
			18-13 聖エレナのマウスレウムで 発見された、蓋つきの斑岩 製の大きい棺 (第3巻 XIX)		39.7×61.0	
			18-14 アウグストゥス家の解放奴 隷、奴隷の墓室跡の景観 (第3巻 XXII)		39.8×47.8	
			18-15 解放奴隷、奴隷の墓の断片 (第3巻 XXIX)		38.8×48.2	
			18-16 アウグストゥス家の解放奴隷、 奴隷の碑文 (第3巻 XXX)		38.0×51.5(図) 8.7×52.5(詞書)	
			18-17 巨大なトラヴェルティーニ石 を持ち上げる方法 (第3巻 LIII)		39.4×59.5	
			18-18 巨大な石を持ち上げる方法 (第3巻 LIV)		40.8×54.4	
			18-19 古代のアトリウム (第4巻 II)			

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法（cm）	所蔵者	
			『ローマの古代遺跡』 第4巻 55.0×42.0×4.0	18-20 ハドリアヌス帝廟と橋（第4巻IV）	40.2×65.6	金沢工業大学ライ ブラリーセンター	
			18-21 ハドリアヌス帝廟の巨大な地下土台（第4巻 IX）	69.6×45.5			
			『ローマの古代遺跡』	18-22 古代人によってケスティウスと呼ばれた、フェラート橋の景観（第4巻 XXI）	39.7×59.6	町田市立国際版 画美術館	
				18-23 フェラート橋の立面図（第4巻XXIII）	39.7×60.0		
				18-24 マルケルス劇場を示す、古代の地図の断片（第4巻 X XVII）	39.8×59.5		
				18-25 マルケルス劇場周囲の眺望（第4巻 XXVIII）	39.5×119.1		
19	1761年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『古代ローマ人の壮麗と建築』	紙、エッチ ング	61.3×45.4×7	金沢工業大学ライ ブラリーセンター	
20	1761年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『ジュリア水道のカステッロ』	紙、エッチ ング、エング レーヴィング	54.3×41.2× 1.8	国立西洋美術館	
21	1764年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『コラの古代遺跡』	紙、エッチ ング、エング レーヴィング	54.3×41.2× 1.4	国立西洋美術館	
22	1762年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『古代ローマのカンプス・マルティウス』	紙、エッチ ング	60.8×45.4× 4.8	個人	
23	1762年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	イクノグラフィア（『古代ローマのカンプス・マルティウス』より）	紙、エッチ ング	134.2×116.7	静岡県立美術館	
24	1774年以降	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	ローマおよびカンボ・マルツィオの地図	紙、エッチ ング	121.5×75	静岡県立美術館	
25	1778年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『古代の壺、燭台、石碑、石棺、三脚台、ランプそして古代の装飾』	25-1 屏絵（第1巻1）	紙、エッチ ング	49.2×141.2	町田市立国際版 画美術館
				25-2 ブロンズ製のさまざまな燭台（羽のあるゲニウスのデザイン等）（第1巻10）		38.4×53.1	
				25-3 ハドリアヌス帝別荘のストウコ天井装飾（第1巻22）		70.7×97.0	
				25-4 透視図法で眺めた、巨大な古代の大理石製燭台（第1巻26）		66.3×41.9	
				25-5 ハドリアヌス帝別荘で発見された、大理石製の大きな供物台（第1巻32）		45.2×50.5	
				25-6 トラヤヌスのフォロの建物に付いていたフリーズの断片（第2巻61）		40.9×62.8	
				25-7 牛頭と花綱模様のついた大理石製壺（第2巻67）		39.0×25.9	
				25-8 ビッロ・リゴーリオ選集で描かれた、テラコッタの古代の壺（第2巻67）		39.1×26.1	
				25-9 女身像柱（第2巻68）		44.5×69.9	
				25-10 パラッツォ・オルシーニの中庭にある蓋付きの棺（第2巻70）		38.6×53.2	
				25-11 ハドリアヌスの別荘で発見された大理石壁画の一部（第2巻 76）		52.9×38.8	
26	1790 出品作 は1836 年刊）	フランチェスコ・ ピラネージ	『古代の神殿選集第2部 著名なパンテオン』	紙、エッチ ング	84.6×56.2× 2.5	東京大学総合図 書館	
27	1761年	ジャン・バルボー	『最も美しき古代ローマのモニュメント』	紙、エッチ ング	51.4×40× 5.4	静岡県立美術館	
28	1772年	チャールズ・キャメロン	『ローマの浴場、解説と図譜』	紙、エッチ ング	56×41×5.2	金沢工業大学ライ ブラリーセンター	
3 当代のローマを描く							
29	1582年	ヴィンチェンツォ・ スカモッツィ	『古代ローマについて』	紙、エッチ ング	29.5×19.5× 2.7	金沢工業大学ライ ブラリーセンター	

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法 (cm)	所蔵者
30	1640年 代初頭	ヤン・ボト	ポンテ・モッレ『ローマ 周辺の眺め』(全6点) のうち1点	紙、エッチ ング	19.3×27.0	静岡県立美術館
31	1653年 以降	イスラエル・シ ルヴェストル	『古今のローマの景観』	紙、エッチ ング	6.8×15.6	静岡県立美術館
			31-1 カエキリア・メテッラの墓		7.2×15.7	
			31-2 シビラ神殿、ティヴォリ		7.2×15.7	
			31-3 パラティーノの丘の皇帝宮殿		6.8×15.4	
			31-4 ミネルヴァ・メディカの神殿		7.2×15.8	
			31-5 平和の神殿		6.9×15.2	
			31-6 ルカーノ橋とプラウティウ ス家の墓、ティヴォリ		7.3×15.4	
			31-7 サント・ステファノ・ロト ンド教会近辺		6.8×15.2	
			31-8 ノメンターノ橋		6.8×15.2	
			31-9 太陽の神殿		6.9×15.3	
			31-10 コンスタンティヌス凱旋門		6.9×15.5	
			31-11 フラミニア街道の遺構		6.9×15.4	
			31-12 古港			
32	1665年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ファルダ	『現代ローマの景観に おける工作物・建築物 の新劇場』	紙、エッチ ング	26.9×40.5× 28.0	東京大学総合図 書館
33	1684年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ファルダ	『ローマの泉』	紙、エッチ ング	21.4×28.8	町田市立国際版 画美術館
			33-1 ヴィミナーレの丘、泉とカ ステッロ (第8図)		21.1×28.7	
			33-2 パオラ水道の泉とカステッ ロ、別の景観 (第12図)		21.2×28.9	
			33-3 ジャニコロの丘の泉 (第13図)		21.7×29.4	
			33-4 カンピドーリオ広場の泉 (第17図)		28.6×21.1	
			33-5 ナヴォナ広場の泉 (第 19 図)		21.3×28.9	
			33-6 アチエトーサ水道の有名な 泉 (第33図)			
34	1745年刊	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	サン・パオロ門近く、 ガイウス・ケスティウ スのピラミッド	紙、エッチ ング	12.7×20.3	静岡県立美術館
35	1746? - 48? 年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『ローマの景観』	紙、エッチ ング	40.1×54.8	静岡県立美術館
	1746? - 48? 年		35-1 扉絵		49.6×64.1	
	1746? - 48? 年		35-2 第二扉絵		39.7×53.5	
	1749年		35-3 サン・ピエトロ大聖堂、広 場と柱廊		41.2×60.8	
	1749年		35-4 サン・パオロ・フォーリ・ レ・ムーラ聖堂		39.0×54.8	
	1746? - 48? 年		35-5 サン・ジョヴァンニ・イン・ ラテラーノ 聖堂		38.8×54.2	
	1746? - 48? 年		35-6 サンタ・マリア・マッジョー レ聖堂		40.6×54.3	
	1746? - 48? 年		35-7 ボボロ広場		38.9×54.3	
	1746? - 48? 年		35-8 クイリナーレ広場		40.9×54.8	
	1746? - 48? 年		35-9 ナヴォナ広場		41.0×54.3	
	1746? - 48? 年		35-10 ロトンダ広場		39.9×54.8	
	1746? - 48? 年		35-11 トレヴィの泉		40.7×54.5	
	1746? - 48? 年		35-12 ガイウス・ケスティウスのピ ラミッドとサン・パオロ門		40.1×54.0	
	1746? - 48? 年		35-13 カンピドーリオ広場とサンタ・ マリア・ダラコエリ聖堂		41.0×54.5	
	1746? - 48? 年		35-14 カンボ・ヴァッチーノの景観		41.0×55.1	
	1746? - 49? 年		35-15 太陽と月の神殿		54.2×40.6	
	1746? - 49? 年		35-16 トラヤヌス記念柱		54.4×40.1	
	1746? - 49? 年		35-17 マルクス・アウレリウスの 記念柱		40.7×54.4	
	1746? - 48? 年		35-18 コンスタンティヌス凱旋門 とコロッセオ		39.8×60.5	
	1750 - 51 年		35-19 サン・ピエトロ大聖堂、サ グレステシア広場から望む		40.3×59.6	
	1750 - 51 年		35-20 スペイン広場		37.6×58.2	
	1750 - 51 年		35-21 サンタンジェロ橋とカステ ル・サンタンジェロ		40.1×54.6	
	1749? - 50 年		35-22 マルケルス劇場		41.5×55.1	
	1749? - 50 年		35-23 バッカスの神殿		38.7×58.8	
	1749? - 50 年		35-24 フォロ・ロマーノの一角			

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法（cm）	所蔵者	
	1750-51 年		サンティ・ジョヴァンニ・ エ・パオロ聖堂のクラウド ウス神殿遺構		40.4×61.0		
	1749?-50 年		平和の神殿		41.5×54.3		
	1750-51 年		通称フォルトゥーナ・ウィ リリスの神殿		37.5×57.8		
	1749?-50 年		アントニヌスとファウスティ ーナの神殿		40.4×54.4		
	1749?-50 年		サン・ジョヴァンニ・イン・ ラテラーノ広場のオベリスク		54.2×40.3		
	1749?-50 年		セプティミウス・セウェル ス凱旋門		37.6×58.4		
	1750-51 年		ベッローナ神殿の景観		39.3×59.5		
36	1754年頃	リチャード・ウィ ルソン	アクア・アチェトーサ	キャンヴァ ス、油彩	99.1×137.2	栃木県立美術館	
37		リチャード・ウィ ルソン	キケロの別荘	キャンヴァ ス、油彩	95.4×141.2	郡山市立美術館	
38		アレクサンダー・ カズンズ	川岸に神殿のある風景	紙、水彩	47.6×63.8	郡山市立美術館	
39	1778年	ドミニク・マニ ャン	『都市ローマ、この素 晴らしい街の概説書』	紙、エッチ ング	41.9×28.5×5 （第1巻） 41.7×28.5× 4.5（第2巻）	静岡県立美術館	
4 古代からはぐくまれた綺想							
40	1738- 39年頃 (1743年 刊)	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ティエポロ	『カプリッチ』	紙、エッチ ング	40-1 腰を降ろし壺に肘をつく若者 40-2 3人の兵士と寝そべる少年 40-3 兵士と2人の女 40-4 壺に手をのせた女 40-5 ニンフと小さなサテュロス 40-6 大きな書物を抱えて立つ哲 学者 40-7 腕を鎖でしばられた若者と 4人の人物 40-8 死の引見 40-9 占星術者と若き兵士 40-10 馬の傍に立つ兵士	14.0×18.2 14.2×17.7 13.7×17.3 13.8×17.8 14.1×17.5 13.5×17.4 14.2×17.6 14.2×17.7 13.4×17.3 14.1×18.0	静岡県立美術館
41	1725年頃	マルコ・リッチ	神殿とゴシック教会の ある廃墟の眺め	紙、エッチ ング	39.7×31.6	静岡県立美術館	
42	1741年	セバスティア ーノ・リッチ（原 画）、マルコ・リ ッチ（原画）、ニコ ラ＝アンリ・タ ルデュー（版刻）	ネプチューンの噴水の ある綺想	紙、エッチ ング、エン グレーヴィ ング	64.0×39.5	町田市立国際版 画美術館	
43	1742- 49年頃	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	納骨堂	紙、エッチ ング	40.2×27.8	静岡県立美術館	
44	1744- 47年頃	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	ネロの墓（『グロテスキ』 より）	紙、エッチ ング、エン グレーヴィ ング、ドラ イポイント	38.8×54.5	町田市立国際版 画美術館	
45	1745- 50年頃	ジョヴァンニ・ パオロ・パニー ニ	古代建築と彫刻のカプ リッチョ	油彩、キャン ヴァス	98.4×135	国立西洋美術館	
46	1761年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ	『牢獄』（第2版）	紙、エッチ ング、エン グレーヴィ ング、ドラ イポイント	46-1 I 46-2 II 46-3 III 46-4 IV 46-5 V 46-6 VI 46-7 VII 46-8 VIII 46-9 IX 46-10 X 46-11 XI 46-12 XII 46-13 XIII 46-14 XIV 46-15 XV 46-16 XVI	55.3×41.9 57.1×42.0 55.6×41.8 55.3×41.7 57.0×41.6 54.9×40.3 56.1×41.5 55.7×40.6 56.1×41.1 41.7×55.3 40.8×55.7 41.7×56.4 41.1×56.0 41.7×55.6 41.5×55.8 41.0×55.7	静岡県立美術館

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法（cm）	所蔵者	
47	1763年	ユベール・ロペール	ローマのパンテオンのある建築的奇想画	紙、ペン、水彩	66.6×49.1	ヤマザキマザック美術館	
48	1786年頃	ユベール・ロペール	モンテ・カヴァッロの巨像と聖堂の見える空想のローマ景観	油彩、キャンヴァス	161×107	国立西洋美術館	
49	1767年	ジャン＝オノレ・フラゴナール（原画）、ジョン＝クロード＝リシャール・サン＝ノン（版刻）	『アクアチントによる第1作品集』	49-1 第1葉	紙、エッチング、アクアチント、手彩色	21.5×14.3	町田市立国際版画美術館
				49-2 第2葉		22.0×17.8	
				49-3 第3葉		21.5×16.4	
				49-4 第4葉		21.5×16.6	
50	1769年	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『暖炉などに関するさまざまな装飾法』	50-1 横向きのミイラとオベリスクを持つ人物のあるエジプト風の暖炉	紙、エッチング	24.2×37.8	町田市立国際版画美術館
				50-2 星模様の壁と胸像のあるエジプト風の暖炉		24.2×38.1	
51	1778年（第1巻）1779年（第2巻）	ロバート・アダム、ジェームズ・アダム	『アダム兄弟建築作品集』	紙、エッチング	65×51×2.5（第1巻）65×52×3.2（第2巻）	金沢工業大学ライブラリーセンター	

II 南イタリア

1 古代の再発見 ①ポンペイ、ヘルクラネウム

52	1758年	ウィトルウィウス著、ベラルド・ガリアーニ訳	『ウィトルウィウス建築十書翻訳』	紙、エッチング	40.6×28×5.5	東京大学経済学部資料室
53	1783年（出品作は1836年刊）	フランチェスコ・ピラネージ	『ヘルクラネウムの劇場』	紙、エッチング	84.7×56.0×2.4	東京大学総合図書館
54	1788年（刷りは1800年以降か）	フランチェスコ・ピラネージ	今日、ポンペイの古代遺跡の中にある、インス神殿の景観	紙、エッチング	44.8×82.7	静岡県立美術館
55	1788年（出品作は1792年、第3版）	フランチェスコ・ピラネージ	ポンペイ地誌	紙、エッチング	44.8×82.8	個人
56	1789年（第1巻）	トンマーゾ・ビロリ	『ヘルクラネウムの古代』	紙、エッチング	26.2×20.5×3.0（第1巻）	東京大学総合図書館
	1789年（第2巻）				26.3×20.7×3.2（第2巻）	
	1790年（第3巻）				26.3×20.6×3.9（第3巻）	
	1792年（第4巻）				26.3×20.5×3.3（第4巻）	
	1794年（第5巻）				26.3×20.6×2.1（第5巻）	
57	1804-07年 出品作1837年刊）	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ フランチェスコ・ピラネージ	『マグナ・グラエキアの古代』	紙、エッチング	84.7×56.2×3.4	東京大学総合図書館

1 古代の再発見 ②パエストゥム

58	1778年	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ピラネージ フランチェスコ・ ピラネージ	『パエストゥムの古代 遺跡の景観』	58-1	表題葉 ポセイドン神殿内部	簀の日紙、 エッチング、 エングレー ヴィング	44.5×67.0	国立西洋美術館
				58-2	(1) パエストゥムの市壁遺 構、遠景に3つの建築遺構		44.5×67.0	
				58-3	(2) パエストゥムのバシリカ		44.5×67.0	
				58-4	(5) パエストゥムのバシリ カ内部、プロナオスの遺構		44.5×67.0	
				58-5	(6) パエストゥムのバシリ カ内部、プロナオスの遺構		44.5×67.0	
				58-6	(10) パエストゥムのポセ イドン神殿		44.5×67.0	
				58-7	(11) パエストゥムのポセ イドン神殿、側面の列柱		44.5×67.0	
				58-8	(16) パエストゥムのポセ イドン神殿、ケッラの遺構		44.5×67.0	
				58-9	(17) パエストゥムのポセ イドン神殿、ケッラの遺構		44.5×67.0	
				58-10	(18) パエストゥムの通称 ヘラ神殿		44.5×67.0	
59	1784年	パオロ・アント ニオ・パオーリ	『パエストゥム（古称ポ セイドニア）の遺跡』		紙、エッチ ング	53×42×5.5	静岡県立美術館	

2 南イタリア、その風景と旅行記

60	1761年	ユベール・ロペール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ	板、油彩	39.1×43.8	静岡県立美術館
----	-------	-----------	--------------------	------	-----------	---------

No.	制作／ 刊行年	作者	作品	技法	寸法（cm）	所蔵者
61	1782年	ジョン・ロバート・カズンズ	ポルティーチからヴェスヴィオ山を望む	紙、水彩、鉛筆	30.5×45.1	静岡県立美術館
62	1768年	パオロ・アントニオ・パオーリ	『ポッツォーリ、クーマ、パイアに残る古代遺跡』	紙、エッチング	51×37×4	静岡県立美術館
63	1781年（第1巻）1782年（第2巻）	ジャン＝クロード・リシャール・サン＝ノン、通称サン＝ノン師	『ナポリ王国とシチリア王国のピトレスクな旅あるいは描写』	紙、エッチング、エングレーヴィング	51.3×34×5.2（第1巻） 51.3×34×6.5（第2巻）	国立西洋美術館
64	1783-85年 出品作は1790年、第2版）	ヘンリー・スウィンバーン	『両シチリア王国の旅』	紙、エッチング	21.8×13.8×3.4（第1巻） 21.9×13.6×3.6（第3巻） 21.8×13.7×3.2（第4巻）	東京大学総合図書館
65	1817年	ドメニコ・ロマネッリ	『ボンベイ、バエストゥムへの旅と、ヘルクラナム、ポッツォーリへの帰路の旅』	紙、エッチング	17.2×11.3×4.0	個人

やなぎみわ展 神話機械

2019年12月10日～2020年 2 月24日

No.	作品名	制作年	材質・技法	寸法（cm）／時間	所蔵
モバイル・シアター・プロジェクト Mobile Theater Project					
1	神話機械				
	タレイア（メインマシン）	2019	ミクストメディア	78×120×120	作家蔵
	テルプシコラー（振動マシン）	2019	ミクストメディア	210×140×140	作家蔵
	メルボメネー（のたうちマシン）	2019	ミクストメディア	胴体Φ15×90 腕Φ12.5×59 脚Φ46×64.5×16.5	作家蔵
	ムネーメー（投擲マシン）	2019	ミクストメディア	280×780×195	被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会蔵
2	アルゴ船の船首像 1	2019	デジタルプリント	250×175	作家蔵
3	アルゴ船の船首像 2	2019	デジタルプリント	250×175	作家蔵
4	アルゴ船の船首像 3	2019	デジタルプリント	250×175	作家蔵
5	アルゴ船の船首像 4	2019	デジタルプリント	250×175	作家蔵
6	命名	2019	合成樹脂、鉛筆	15×15×17	作家蔵
7	IZANAMI	2018	木炭、紙	50×64	作家蔵
8	神話機械のためのドローイング	2018	木炭、紙	50×64	作家蔵
9	神話機械のためのドローイング	2018	木炭、紙	48×35	作家蔵
10	神話機械のためのドローイング	2018	クレヨン、紙	20×40.5	作家蔵
11	桃を投げる	2018	ビデオ・インスタレーション	6分52秒	作家蔵
フェアリー・テール Fairy Tale					
12	無題 I	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	140×100	作家蔵
13	眠り姫	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
14	グレーテル	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
15	白雪	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
16	ラプンツェル	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
17	赤ずきん	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
18	エレンディラ	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
19	トルーデおばさん	2005	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
20	エレンディラ II	2006	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
21	マッチ売りの少女	2005	ゼラチン・シルバー・プリント	100×100	作家蔵
22	砂少女（SAOTOME）	2004	ビデオ・インスタレーション	6分4秒	IZU PHOTO MUSEUM蔵
マイ・グランドマザーズ My Grandmothers					
23	YUKA	2000	発色現像方式印画	160×160	作家蔵
24	MIE	2000	発色現像方式印画	120×160	作家蔵
25	SACHIKO	2000	発色現像方式印画	86.7×120	作家蔵

No.	作品名	制作年	材質・技法	寸法（cm）／時間	所蔵
26	MINAMI	2000	発色現像方式印画	133×160	作家蔵
27	REGINE+YOKO	2001	発色現像方式印画	128×160	作家蔵
28	YOSHIE	2001	発色現像方式印画	83.3×100	作家蔵
29	ERIKO	2001	発色現像方式印画	120×180	作家蔵
30	MINEKO	2002	発色現像方式印画	87.5×120	高松市美術館蔵
31	GEISHA	2002	発色現像方式印画	180×240	作家蔵
32	SHIZUKA	2004	発色現像方式印画	140×100	作家蔵
33	KAHORI	2004	発色現像方式印画	64×80	作家蔵
34	MITSUE	2009	発色現像方式印画	130×130	作家蔵

女神と男神が桃の木の下で別れる The goddess and the god separate under the peach tree.

35	川中島Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ	2016	発色現像方式印画	各160×285（3点組）	作家蔵
36	あかつきⅠ，Ⅱ，Ⅲ	2017	発色現像方式印画	各160×285（3点組）	作家蔵
37	まどかⅠ，Ⅱ，Ⅲ	2017	発色現像方式印画	各160×285（3点組）	作家蔵
38	きららⅠ，Ⅱ，Ⅲ	2018	発色現像方式印画	各160×285（3点組）	作家蔵
39	グロリア & レオン	2004	ビデオ・インスタレーション	25分52秒	作家蔵

エレベーター・ガール Elevator Girl

40	次の階を探してⅠ	1996	発色現像方式印画	180×720	高松市美術館蔵
41	案内嬢の部屋1F	1997	発色現像方式印画	各240×200（2点組）	京都市美術館蔵
42	XXXS-XXXL	2010	皮革ほか	7.5～60（2セット：全18足）	株式会社資生堂蔵
43	ララバイ	2010	ビデオ・インスタレーション	13分16秒	作家蔵
44	無題Ⅰ	2015	リトグラフ	38×32	作家蔵
45	無題Ⅱ	2015	リトグラフ	60×48	作家蔵

演劇アーカイブ Theater Archives

46	1924（三部作：Tokyo-Berlin、海戦、人間機械）	2011～2012			作家蔵
47	パノラマ	2012～2014			作家蔵
48	ゼロ・アワー：東京ローズ最後のテーブル	2013～2015			作家蔵
49	日輪の翼	2016～2017			作家蔵

収蔵品展

■は個人蔵、他はすべて当館所蔵品

新収蔵品展

4月2日(火)～5月6日(月・振)

No.	作者名	作品名
1	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏
2	川村清雄	梅に親子雀 ★
3	川村清雄	巨岩海浜図
4	川村清雄	波
5	狩野安信・狩野常信・狩野探信・狩野益信・狩野探雪	名画集 ★
6	フランチェスコ・ピラネー ジ	今日、ボンペイの古代遺跡の中にある、 イシス神殿の景観 ★
7	イスラエル・シルヴェス トル	古今のローマの景観（12点組） ★
		カエキリア・メテッラの墓
		シビラ神殿、ティヴォリ
		パラティーノの丘の皇帝宮殿
		ミネルヴァ・メディカの神殿
		コンスタンティヌスのバシリカ
		ルカーノ橋とブラウティウス家の墓、 ティヴォリ
		サント・ステファノ・ロトンド教会 近辺
		ノメンターノ橋
		ウェスタ神殿
		コンスタンティヌス凱旋門
		フラミア街道の遺構
		古港
8	作者不詳	輞川図巻 ★
9	山本梅逸	百花鳥虫図 ★
10	荒木十畝	蓬萊山図 ★
11	吉仲太造	遺産 ★
12	吉仲太造	赤い電話 ★
13	宮島達男	Time Waterfall ★
14	ジュリアン・オピー	歩いているティナ ★
★は新収蔵品		

諸派興隆—18世紀の江戸画壇

5月8日(水)～6月9日(日)

No.	作者名	作品名
1	狩野常信	富士三保松原図 ■

2	狩野常信	和漢流書手鑑 ■
3	狩野常信	波濤・花鳥図屏風
4	狩野周信	西湖図 ■
5	狩野周信	蓮池鷺図
6	狩野岑信	猩々図
7	狩野典信	山水図（以古図）
8	狩野典信	蓬萊山・群鶴図 ■
9	狩野惟信	山水図押絵貼屏風
10	狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻
11	狩野洞春美信	蒼海日鶴図 ■
12	狩野洞春美信	富士山図 ■
13	英一蜂	雨宿図 ■
14	高嵩谷	隅田川春景図 ■
15	宋紫石	富嶽図 ■
16	司馬江漢	駿河湾富士遠望図
17	司馬江漢	富嶽図 ■
18	司馬江漢	七里ヶ浜図 ■
19	司馬江漢	柳ニ翡翠図 ■
20	金子金陵	雪中芭蕉鶴図 ■
21	金子金陵	汀翡翠図 ■
22	建部凌岱	梅鳥図
23	楯取魚彦	梅花図
24	中山高陽	白梅に錦鶏図
25	中山高陽	近畿絵日記 ■
26	中山高陽	八州勝地図 ■
27	谷文晁	高隠自適山水図 ■
28	谷文晁・鈴木芙蓉	山水図（柴野栗山・古賀精里・尾藤二 洲賛） ■
29	谷文晁	連山春色図

対立と融和—19世紀の江戸画壇

6月11日(火)～7月15日(月・振)

No.	作者名	作品名
I 幕末狩野派様式の成立		

1	狩野栄信	春秋山水花鳥図
2	狩野探信守道	井手玉川図屏風
3	狩野栄信	楼閣山水図屏風
4	狩野養信	東方朔・山水図 ■

II 大和絵様式の展開—王朝趣味と江戸琳派の広がり

5	住吉弘貴	秋草鶉図
6	住吉弘貴	磯千鳥図
7	渡辺広輝	五条三位騎渡井手玉川図
8	渡辺広輝	六歌仙図
9	酒井抱一	月夜楓図
10	鈴木其一	干瓢干し図
11	鈴木守一	藤花図
12	山田抱玉	江ノ島雪景図 ■

III—1 文晁一派の展開（1）—富士山図と実景図における諸様式の多様化

13	司馬江漢	駿河薩陀山富士遠望図
14	司馬江漢	長沼村富士眺望図
15	谷文晁	富士山図屏風
16	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図
17	遠坂文雍	富嶽図 ■
18	平井顕斎	望嶽図
19	椿椿山	山海奇賞図巻
20	永村茜山	伊豆七島真景図巻 ■

III—2 文晁一派の展開（2）—山水画における明清画の様式の規範化

21	鈴木芙蓉	早春山水図
22	谷舜英	浅絳山水図 ■
23	福田半香	李白観瀑図
24	福田半香	溪山真楽図
25	平井顕斎	山水図
26	桜間青厓	青緑蜀道行旅図 ■
27	福田半香	山水図
28	伝高久鶴厓	傲藍瑛 荷郷清夏図 ■
29	平井顕斎	鴈門急雨図

III—3 文晁一派の展開（3）—花卉画、花木図における明清画の諸様式の受容

30	椿椿山	花卉図
----	-----	-----

31	椿椿山	春蘭為畦図 ■
32	春木南溟	梅月図
33	鈴木鶯湖	樹石図

IV 浮世絵における風景表現の展開

34	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版） より 神奈川 台之景 由井 薩埵嶺 岡部 宇津之山 庄野 白雨
35	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図

ポップの系譜

8月2日(金)～10月6日(日)

No.	作者名	作品名
1	ジェームズ・ローゼンク イスト	F-111（南,西,北,東）
2	磯辺行久	WORK62-46
3	前田守一	遠近のものさし
4	前田守一	バサッ
5	飯田昭二	Half and Half
6	飯田昭二	Half and Half （ハンドバッグ）
7	吉仲太造	赤い電話
8	草間彌生	最後の晚餐
9	草間彌生	帽子
10	草間彌生	かぼちゃ軍団
11	草間彌生	かぼちゃ軍団
12	草間彌生	花（1）
13	篠原有司男	次郎長バー
14	森山大道	「犬の時間」より ■
15	森山大道	「東京」より ■
16	森山大道	「東京」より ■
17	森山大道	「東京」より ■
18	森山大道	「東京」より ■
19	森山大道	「東京」より ■
20	森山大道	「東京」より ■

21	ジュリアン・オピー	Tartan skirt swing left ■
22	村上隆	未知なる次元への旅立ち ■
23	オノデラユキ	Transvest-Sophie& Eva ■
24	オノデラユキ	Transvest-Alice ■
25	オノデラ ユキ	12SPEED CO-8 ■
26	オノデラユキ	12SPEED のためのドローイング ■
27	小谷元彦	胸いっぱいのおを (Single/girl)
28	名和晃平	PixCell-Deer#47 ■
29	大庭大介	RING ■

中澤弘光とその周辺

10月8日(火)～12月15日(日)

No.	作者名	作品名
1	中澤弘光	風景（秋の湖畔）
2	川村清雄	梅に親子雀
3	川村清雄	波
4	黒田清輝	富士之図（6点組）
5	和田英作	富士
6	和田英作	日本平望嶽台 ■
7	山本森之助	海岸
8	和田三造	風景
9	栗原忠二	武蔵野
10	栗原忠二	奈良浅茅ヶ原
11	太田喜二郎	帰り路（樵婦帰路）
12	児島虎次郎	酒津の庭（水蓮）
13	小糸源太郎	早春
14	曾宮一念	自画像
15	佐分真	雪のグリュンデルワルド
16	田村一男	北越大雪
17	三宅克己	白壁の家（ベルギー、ブリュージュ）
18	石川欽一郎	ムードン風景
19	石川欽一郎	台湾風景農村
20	赤城泰舒	ギターを弾く少年
21	赤城泰舒	雲（折原）

22	中川八郎	松原
----	------	----

西洋の風景画

12月17日(火)～2020年2月24日(月・振)

No.	作者名	作品名
1	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景
2	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
3	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景
4	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
5	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
6	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
7	サルヴァトーレ・ローザ	川のある山岳風景
8	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
9	クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
10	フランソワ・ブーシェ	石橋のある風景
11	フランソワ・ブーシェ	水車のある風景
12	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
13	ジャン＝ジョゼフ＝グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景
14	アレクサンドル＝イアサント・デュヌイ	バリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め
15	ジャン＝バティスト＝カミール・ユ・コロ	メリ街道、ラ・フェルデ＝ジュアル付近
16	ヨーハン＝バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道
17	クロード・モネ	ルーアンのセヌ川
18	パウル・クレ	ホールC、エントランスR 2

名品コーナー（エントランス）

作者名	作品名
4月2日(火)～5月6日(月・振)	
小糸源太郎	春雪
クロード・モネ	ルーアンのセヌ川
高山辰雄	水の頃
5月8日(水)～6月9日(日)	
山口長男	脈
ハイム・スーチン	カーニュ風景
山本琴谷	無逸図

6月11日(火)～7月15日(月・振)	
岡田謙三	作品
ポール・シニャック	サン＝トロベ、グリモアの古城
小出櫓重	静物
8月2日(金)～10月6日(日)	
入江波光	草園の朝 (～9月8日)
中村岳陵	爽秋 (9月10日～)
和田英作	日本平望嶽台 ■
加藤泉	無題
10月8日(火)～12月15日(日) ※10月22日～11月10日はめぐりアート静岡出品作品を展示	
中村岳陵	爽秋 (～10月20日)
青木夙夜	富嶽寒村図 ■ (11月12日～)
鳥海青児	張家口
アレクサンドル＝イアサ ント・デュヌイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め
12月17日(火)～2020年2月24日(月・振)	
吉原治良	W o r k
小糸源太郎	東海
ファン・グリス	果物皿と新聞

移動美術展 「土・水一大地をめぐる美術」展

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横cm）
1	平木政次	富士	1897	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
2	鹿子木孟郎	紀州勝浦	1910	キャンヴァス、油彩	59.0×74.8
3	田中保	セーヌの宵	1920	キャンヴァス、油彩	54.5×65.4
4	曾宮一念	風景	1920頃	キャンヴァス、油彩	33.4×45.5
5	柏木俊一	道	1912-25	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5
6	柏木俊一	海と畑と森	1934	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0
7	清水登之	セーヌ河畔	1924	キャンヴァス、油彩	65.0×53.8
8	平塚運一	伊豆梅林	1933	キャンヴァス、油彩	50.0×60.5
9	鳥海青児	壁の修理	1959頃	キャンヴァス、油彩	79.5×116.0
10	石川欽一郎	神域より天の香具山を望む	1940頃	紙、水彩	48.0×58.0
11	島戸繁	びわ湖の舟	1957頃	キャンヴァス、油彩	145.0×97.0
12	島戸繁	静かな漁港	1959頃	キャンヴァス、油彩	53.0×45.7
13	香月泰男	冬島	1965	キャンヴァス、油彩、方解末、墨	90.9×60.6
14	高島達四郎	伊豆下田港	1976	キャンヴァス、油彩	53.0×65.3
15	柳澤紀子	水邊の庭Ⅰ	1998	エッチング、メゾチント、 アクワチント、ルーレット、 手彩色、紙に雁皮刷り （Ⅱのみ手彩色なし）	60.0×105.0
16	柳澤紀子	水邊の庭Ⅱ	2005		50.0×102.0
17	柳澤紀子	水邊の庭Ⅴ	2000		62.5×108.0
18	柳澤紀子	水邊の庭Ⅸ	2003		102.5×50.0
19	関根伸夫	位相-大地	1986	紙、シルクスクリーン	99.0×200.0
20	石川直樹	Mt. Fuji #38	2008	C-print	90.0×112.0
21	石川直樹	Mt. Fuji #41	2008	C-print	90.0×112.0
22	石川直樹	Mt. Fuji #48	2008	C-print	90.0×112.0
23	石川直樹	Mt. Fuji #55	2008	C-print	90.0×112.0
24	石川直樹	Mt. Fuji #80	2008	C-print	90.0×112.0
25	アシル＝エトナ・ミシャ ロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼	1816	キャンヴァス、油彩	81×100.0
26	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	オランダ風景銅版画集／ 扉絵	1862	紙、エッチング	16.1×20.4／12.9×20.9
27	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	運河	1862	紙、エッチング	16.1×20.4
28	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	運河沿いの家	1862	紙、エッチング	16.8×21.0
29	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	乳母	1862	紙、エッチング	16.5×20.7
30	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	曳船道	1862	紙、エッチング	16.5×20.9
31	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	繫留された船	1862	紙、エッチング	16.6×20.5
32	ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	二隻の帆船	1862	紙、エッチング	16.7×20.7
特別 出品	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風（レプリカ）		紙本着色・六曲一双	右 137.5×355.6 左 137.5×366.2

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

平成22年3月26日条例第23号

平成24年3月23日条例第1号

平成26年3月28日条例第29号

平成31年3月26日条例第18号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を

受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある

者の中から任命することとする。
(追加〔平成24年条例第1号〕)
(協議会の委員)
第14条 委員の定数は、15人以内とする。
2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
3 委員は、再任されることができる。
(一部改正〔平成24年条例1号〕)
(委任)
第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則
この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。
附 則（平成元年3月29日条例第43号）
1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成3年3月19日条例第2号）
1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則（平成4年3月25日条例第14号）
1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成8年3月28日条例第11号）
1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年3月19日条例第16号）
1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成13年7月24日条例第45号）
この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成15年3月12日条例第2号）
この条例は、平成15年4月1日より施行する。
附 則（平成17年7月15日条例第49号）
この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成22年3月26日条例第23号）
この条例は、平成22年4月1日から施行する。
附 則（平成24年3月23日条例第1号）
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日条例第29号）
1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成31年3月26日条例第18号）
1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1（第3条関係）
(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

利 用 区 分		観 覧 料
個 人		300円
団 体		1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であつて、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
2 団体とは、20人以上をいう。
3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。
(2) 企画展示
1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2（第5条関係）

利 用 区 分	特別観覧料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）
（一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号・31年18号〕）

（1） 県民ギャラリー

利 用 区 分	使用料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

（2） 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,750円	14,050円	21,800円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（平成3年3月26日静岡県規則第24号）

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

平成20年3月31日規則第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（趣旨）

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間及び休館日）

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

（1） 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

（2） 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日にあたるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

（観覧手続）

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（県民ギャラリー等の使用手続）

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（使用の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

（1） 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

（2） 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

（3） その他館長の指示等に違反した者

（譲渡等の禁止）

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復ししなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

（1） 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

（2） 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者

(障害者1人につき1人に限る。)が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料(団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料(小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。)をいう。)の2分の1の額(当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額)

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。)として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。)として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕)

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料(使用料)還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラ

リー等使用料の還付については、この限りでない。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成5年3月25日規則第13号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月10日規則第5号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月28日規則第51号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月31日規則第17号)

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式(以下「旧様式」という。)により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則(平成13年7月24日規則第59号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日規則第19号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第 1 号（第 4 条関係）
（用紙 日本工業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年17号〕）

特別観覧承認申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様
住所
氏名
電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名				点数
特別観覧 の 目 的						
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用	
日時	年	月	日	時から	時まで	
	年	月	日	時から	時まで	
内 訳	模 写	点	日	円	合 計	円
	模 造	点	日	円		
	撮 影	点	回	円		
	熟 覧	点	日	円		
	原板使用	点	回	円		
備考						

様式第 2 号（第 5 条関係）
（用紙 日本工業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年17号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称					
展覧会、講演等の内容					
使 用 区 分	県民ギャラリー（Ａ・Ｂ）				講堂
使 用 期 間	年	月	日（ ）	時	分から
	年	月	日（ ）	時	分まで
				日間	
入場料等の徴収の有無	有・無	円			
主 催 者 名					
連絡責任者及び電話					
後 援 者 名					

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第 3 号（第10条関係）
（用紙 日本工業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号〕）

観覧料等減免申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕 印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減 免 申 請 の 区 分	観覧料	特別観覧料	使用料
申 請 の 理 由			
日 時	年 月 日（ ）	年 月 日（ ）	時 分から 時まで
観 覧 人 員	人		
県民ギャラリー等使用の 場合は、推定入場人員	人		
責 任 者 氏 名			
責 任 者 電 話 番 号			
観 覧 料 等	円		
減 免 申 請 額	円		

様式第 4 号（第11条関係）
（用紙 日本工業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号〕）

特別観覧料 還付申請書
使 用 料

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕 印

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。
使 用 料

特別観覧承認書等の 年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定め
る額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中
「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次
の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する
額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその 他の研究者が学術研究のために特別観 覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育 諸学校の教諭が教科研究のために特別観 覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のた めに特別観覧する場合であって、美術館 の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行う ために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行う ために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1 に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めら れるとき。	館長が別に定める 額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施
行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12
条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、
次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催
する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする
場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～
翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する
場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分まで
とする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日か
ら15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場
合は、翌月使用の申込とする。

2 優先予約を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ
月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、
静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。
（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、
備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要と
する。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許
可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催
者が責任を持って行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると
共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受け
なければならない。残留された物品等に関しては、美
術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員
が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、令和元年12月25日から施行する。

■静岡県立美術館講堂利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施
行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12

条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとおりこの規定を定める。

（利用範囲）

第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での使用は認めない。

2 芸術文化の発表の目的で使用する場合であっても、入場料を徴収する場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。

2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分までとし、半日の場合、午前は、10時から12時30分まで、午後は、13時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は、使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。

2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合のみ、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれる net」から申し込む。

（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

（備品の管理）

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（原状回復義務）

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館の点検を受けなければならない。残留された物品に関しては、美術館は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- （1）美術品の選定に関すること。
- （2）その他美術に関する専門的事項に関すること。

（組織）

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

（委嘱）

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議会の委員）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

- 2 委員の定数は、15人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

（協議会の会長等）

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 会長及び副会長にともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

（協議会の会議）

第4条 協議会は、会長が召集する。

- 2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（協議会の庶務）

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（職務）

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長にはスポーツ・文化観光部長、副会長には、部長代理をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

（会議）

第3条 委員会は、会長が召集する。

（専門委員会）

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

（庶務）

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正は令和2年4月1日から施行する。

別表

スポーツ・文化観光部長	部長代理	文化局長
文化政策課長	美術館副館長	

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
 - (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
 - (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
 - (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。
- 3 秩序の維持
- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
 - (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

■静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県

文化・観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 平成23年6月17日)

■静岡県立美術館第三者評価委員会運営要領

(趣旨)

第1 この要領は、「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）の運営に関し、静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱（以下「要綱」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。（報償費及び旅費）

第2 委員会及び要綱第5条の委員会及び分科会へ出席した委員には、次のとおり報償費及び旅費を支給する。

(1) 報償費

委員長 12,000円

その他の委員 11,100円

要綱第5条第4項の規定に基づき

会議に出席した者 11,100円

(2) 旅費

県の旅費計算方法に準じて計算した額

2 前項に規定するもののほか、委員会及び分科会における検討に必要な作業、打合せ等を行った委員には、別に定める報償費及び旅費を支給することができる。

(文書等の記号及び番号)

第3 施行する文書等には、次に定めるところにより、記号及び番号を付するものとする。

(1) 記号は「三評」とする。

(2) 番号は、別紙文書収発簿により付するものとする。ただし、軽易な文書等については番号を省略し、号外で処理することができる。

(雑則)

第4 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年9月21日から施行する。

(最終改正 平成24年5月31日)

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の収受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常 勤		1 人	9 人	11 人	21 人
非 常 勤	1 人			3 人	4 人

■美術館協議会

鈴木 壽美子	静岡県文化協会長
立 田 洋 司	静岡県立大学名誉教授
曾 根 正 弘	県立美術館友の会会長
松 本 稔 章	高等学校美術・工芸教育研究会会長 (県立浜松江之島高等学校校長)
川 崎 敦 子	静岡市立小中学校校長会代表 (静岡市立安東小学校校長)
漁 田 俊 子	静岡産業大学経営学部教授
石 川 たか子	(株)丸伸代表取締役社長
橋 本 勝 弘	(社)静岡県観光協会専務理事
富 澤 か な	静岡県立大学国際関係学部准教授
日比野 秀 男	掛川市ステンドグラス美術館館長
堀 切 正 人	常葉美術館館長・ 常葉大学教育学部准教授
大須賀 紳 晃	地元報道機関代表 (株)静岡新聞社・静岡放送(株) 常務取締役)
木 村 功 二	全国報道機関代表 (NHK静岡放送局長)
石 塚 正 孝	グランシップ館長

齋 藤 安 彦 弁護士(追手町法律事務所)

■専門委員

木 村 重 圭	前甲南女子大学教授
榊 原 悟	岡崎市美術博物館館長・ おかざき世界子ども美術博物館館長
坂 本 満	お茶の水女子大学名誉教授
	金沢美術工芸大学客員教授
潮 江 宏 三	京都市立大学名誉教授
建 昌 哲	埼玉県立近代美術館館長・ 多摩美術大学学長
山 梨 絵美子	東京文化財研究所副所長

■資料評価委員

植 田 基 靖	静岡県文化・観光部長
増 田 仁	静岡県文化・観光部部長代理
京 極 仁 志	静岡県文化・観光部文化局長
紅 野 聖 二	静岡県文化政策課長
櫻 井 昌 明	静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長	木 下 直 之
副 館 長	櫻 井 昌 明
総 務 課 長	堀 水 里 和
総 務 班 長	小 田 文 宏
主 査	金 原 功
主 査	小 澤 宏 明
主 事	高 柳 智 穂
管 理 班 長	伊 藤 與 紀
主 査	三 輪 桂
主 任	大 橋 倫 代
主 任	村 上 能 久
学 芸 課 長	三 谷 理 華
上 席 学 芸 員	南 美 幸
上 席 学 芸 員	新 田 建 史
上 席 学 芸 員	村 上 敬
上 席 学 芸 員	川 谷 承 子
上 席 学 芸 員	泰 井 良
上 席 学 芸 員	石 上 充 代
上 席 学 芸 員	野 田 麻 美
主 査	西 島 幸 代
主 任 学 芸 員	植 松 篤
主 任 学 芸 員	浦 澤 倫太郎

■非常勤嘱託員及び臨時技術員

非常勤嘱託員	新 間 教 子
	中 村 美穂子
	馬 場 夢 乃

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	23,663
共催展収入	17,736
県民ギャラリー等使用料	3,404
財産売払・貸付・運用収入	2,394
助成金等	0
その他	41,280
計	88,477

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	195,690
管理費	252,766
運営費	50,500
施設管理費	202,266
事業費	97,460
企画展事業費	70,032
常設展事業費	6,953
資料・普及事業費	20,475
館蔵品取得費	10,000
施設整備費	74,295
基金積立	13
計	630,224

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地 敷 地 構 造 ・ 規 模	静岡市駿河区谷田53番2号 県文化センター内（約130,000㎡） 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	同左 同左 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込P C板、吹付タイル 屋根：カラスステンレス葺、トップライト（アル ミ、複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ 300 KVA、3φ400 KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800 rpm出力300 KVA 3φ3 W 6, 600 V 太陽光発電設備 10 KW×2台 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電 サイリスタ全自動整流器 弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料（ビデオ）、電話、 放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤（自火 報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、防 災アンプ（360 W）、ITV監視装置、 地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 変圧器1φ280 KVA、3φ350KVA 契約電力700 KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力200 KVA 3φ3 W 220 V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱 電 設 備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150 USRT、 40 USRT）、温水焚吸収冷温水機（30 USRT）、空気熱源回収型スクリュ ー式ヒートポンプ冷凍機（150 USRT）、 プレート式熱交換機（396,300 Kcal/h） 蓄 熱 層 冷温水槽550 m ³ ・55 m ³ 、ソーラー用20 m ³ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及び パッケージ型1台、ファンコイルユニッ ト46台、他空冷ヒートポンプパッケ ージェアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80 USRT） 2基、蒸気ボイラー（250 Kg/h）2 基、空冷チラーユニット（3.77 USRT） プレート式熱交換機（86,000 Kcal/h） 冷温水クッションタンク 5 m ³ 冷水クッションタンク 0.75 m ³ 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱 交換機（3台）
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他3系統3台 給 水 設 備 受水槽30 m ³ （二槽式）、高架水槽12 m ³ （二槽式） 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓	排 煙 機 メイン展示室他2系統4台 給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5 m ³ 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋外消火栓
昇 降 機 設 備	身 障 者 用 油圧式11人乗750 kg 荷 物 用 油圧式3,000 kg	身 障 者 用 油圧式23人乗1,500 kg

■建設工事費

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

・本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（70席 198㎡）・休憩スペース（39席 92.3㎡）

レストラン「Rodin TERRACE」は、㈱なすびが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部にLED照明があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるよう

になっている。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（15.21㎡）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 日曜、祝日

10：30～15：30（2時間を限度）

授乳室 開館日全て

10：00～17：30（夜間開館日は20時まで）

・ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

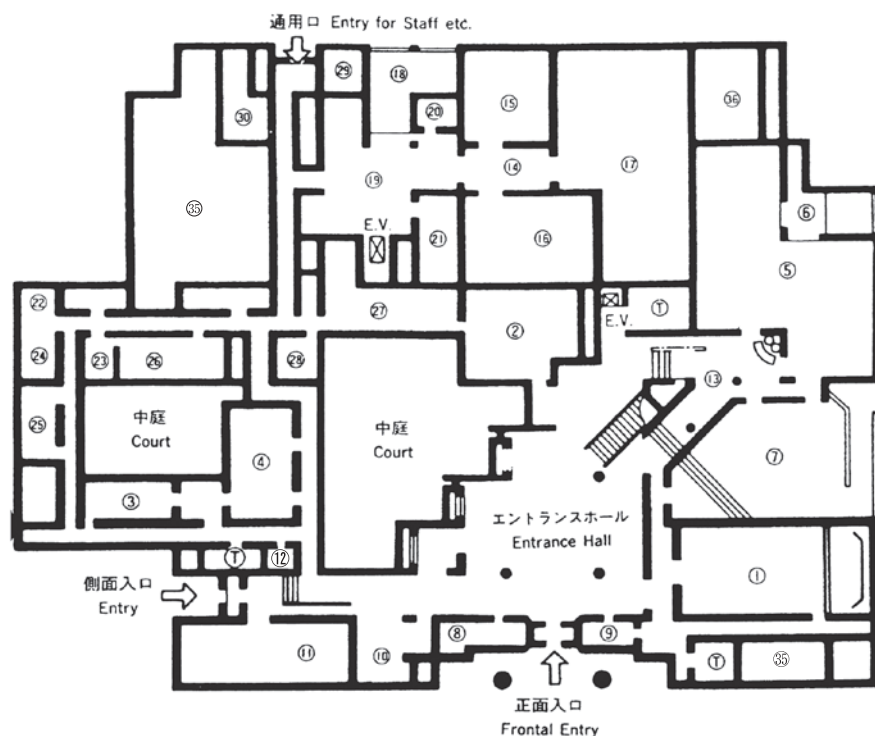
ブリッジ・ギャラリー (276㎡)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

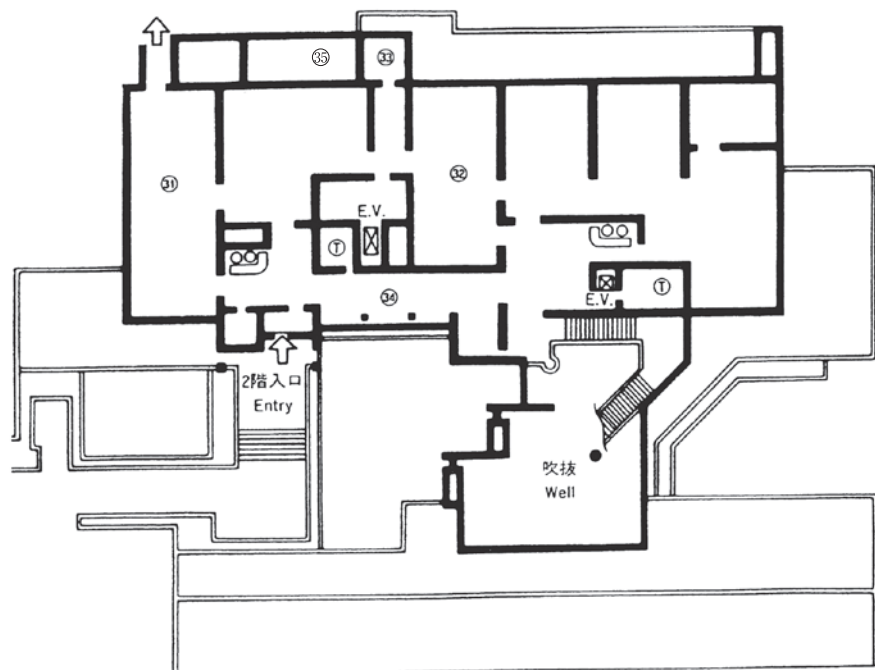
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ 休憩スペース Rest Space

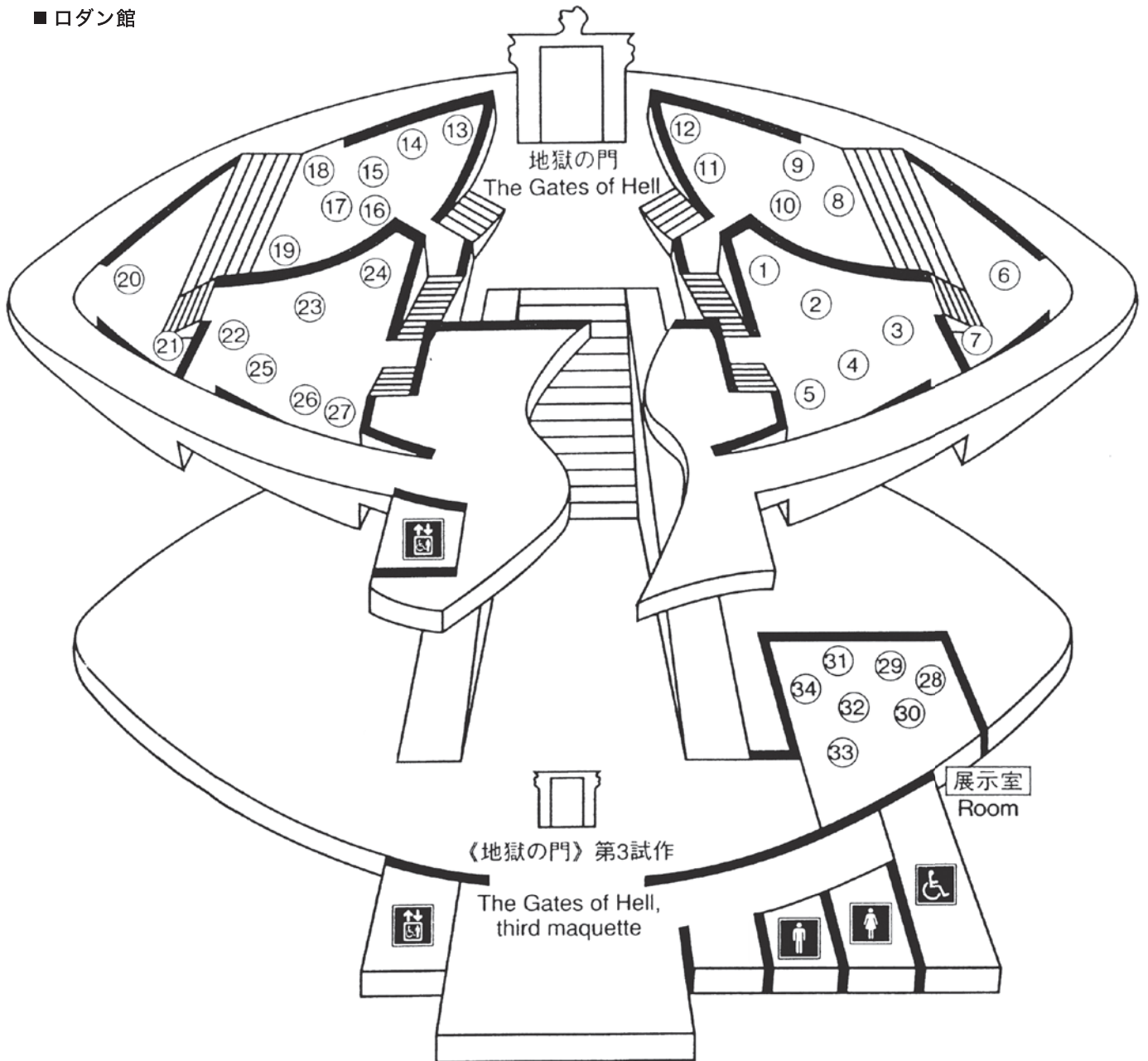
⑩ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

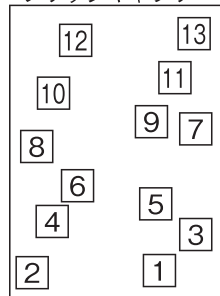
■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ②① バッカス祭
- ②② 《ラ・フランス》習作
- ②③ バスティアン＝ルパージュ
- ②④ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ②⑤ クロード・ロラン
- ②⑥ ボードレーの頭部
- ②⑦ 花子のマスク

展示室

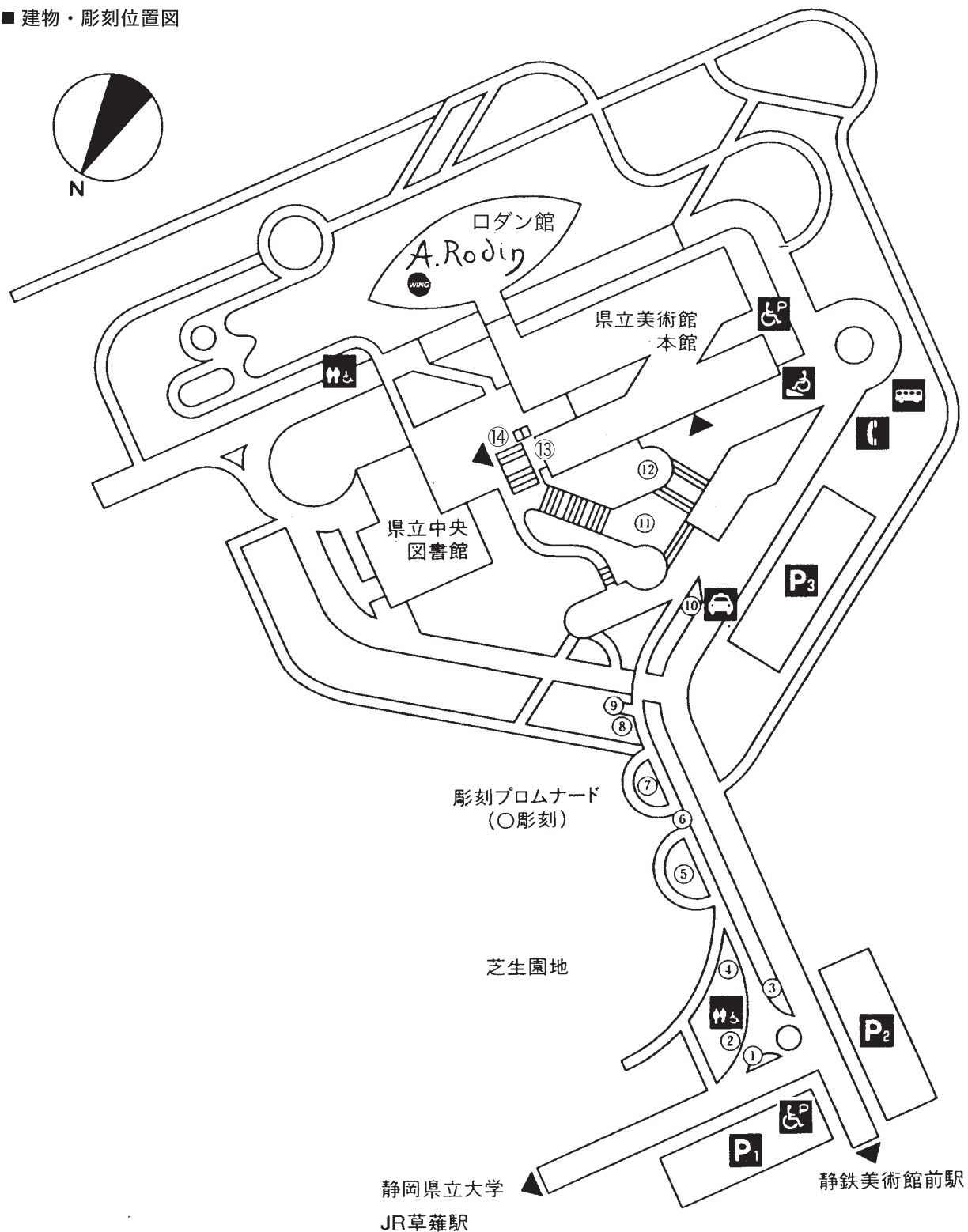
- ②⑧ カルボー, J.B. / ナボリの漁師の少年

- ②⑨ カリエ＝ペルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ③① ロダン, A. / パラの髪飾りの少女
- ③② カルボー, J.B. / 悲しみの聖母
- ③③ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ③④ フレミエ, E. / 蛇使い
- ③⑤ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシッツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ プールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークⅡ》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式Ⅴ－相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線－菱形Ⅱ》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

- 開館時間
午前10時～午後5時30分
(展示室への入室は午後5時まで)
[夜間開館] 7月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)

■休館日
毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

- 収蔵品展観覧料
一般300円(団体200円)
大学生以下・70歳以上の方は無料

企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上	高校・大学
屏風爛漫 一ひらく、ひろがる、つつみこむ	800円 <600円>	400円 <300円>	無 料
古代アンデス文明展	1,400円 <1,200円>	700円 <600円>	700円 <600円>
熊谷守一のちを見つめて	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無 料
古代への情熱 ー18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無 料
やなぎみわ展 神話機械	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無 料

* < >内は前売及び20名以上の団体料金
* 大学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

施設利用料

(1) 県民ギャラリー

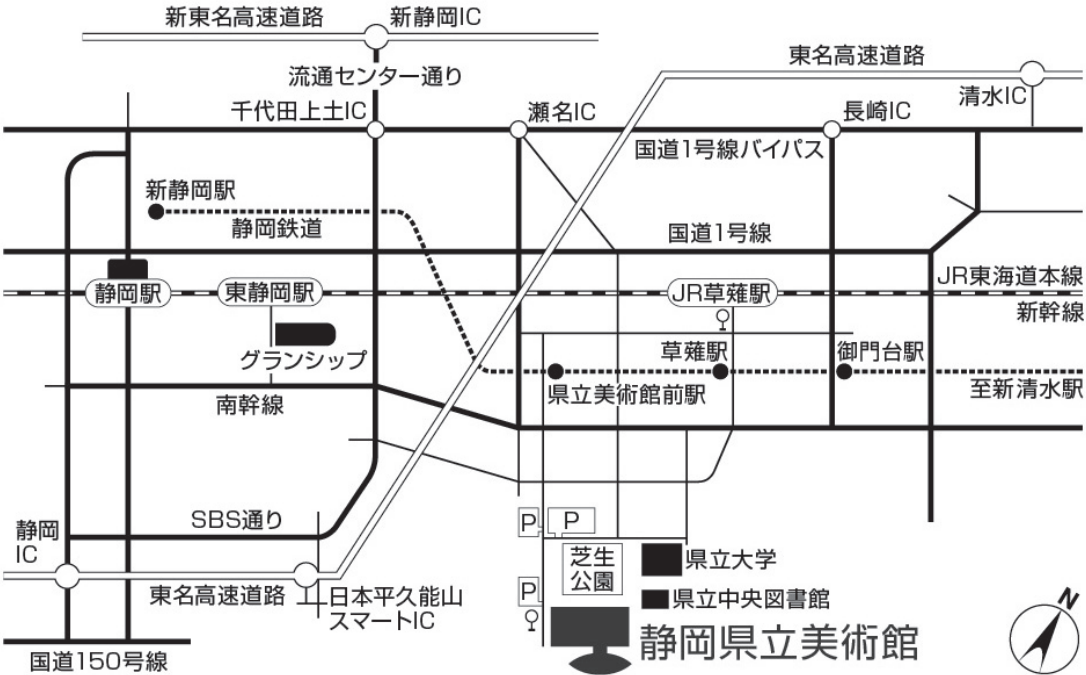
利 用 区 分		使 用 料
		10:00～17:30
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講 堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10:00～12:30	13:00～17:30	10:00～17:30
7,750円	14,050円	21,800円

交通案内 JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分または静鉄バスで約3分
JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分
東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平久能山スマートICから車で15分、新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
総務課 TEL 054-263-5755
〃 FAX 054-263-5767
学芸課 TEL 054-263-5857
〃 FAX 054-263-5742
美術館友の会事務局 054-264-0897
ミュージアムショップ 054-264-8926



令和元年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印刷：有限会社橋本印刷所

〒422-8046 静岡県静岡市駿河区中島390

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2019

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by HASHIMOTO Printing Co., Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2020

